

令和3年度

大学院生による授業評価結果報告書

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

掲載科目一覧

※回答者3名以下の科目は、未掲載。

コース	No.	科目コード	科目名	担当教員	頁
心 理	01	M1AA010C	子どものころへのアプローチ	小倉正義,吉井健治,田中淳一,山崎勝之,内田香奈子,高橋眞琴	1
	02	M1AA020C	臨床心理学統計法	古川洋和	2
	03	M1AA030C	福祉分野に関する理論と支援の展開(障害者(児)心理学特論)	小倉正義,川西智也,田中淳一,高橋眞琴	3
	04	M1AA040C	教育分野に関する理論と支援の展開(教育心理学特論)	今田雄三,吉井健治,小倉正義	4
	05	M1AA050C	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開(犯罪心理学特論)	黒澤良輔	5
	06	M1AA060C	心の健康教育に関する理論と実践	吉井健治,今田雄三,小倉正義,山崎勝之,内田香奈子	6
	07	M1AA070C	臨床心理学研究Ⅰ	久米禎子	7
	08	M1AA080C	臨床心理学研究Ⅱ	葛西真記子	8
	09	M1AA090C	臨床心理面接研究Ⅰ	吉井健治,葛西真記子	9
	10	M1AA100C	臨床心理面接研究Ⅱ	粟飯原良造	10
	11	M1AA110C	グループアプローチ論	木村昌紀,古川洋和	11
	12	M1AA120E	臨床心理学研究法特論	葛西真記子,粟飯原良造,今田雄三,吉井健治,小倉正義,久米禎子,川西智也,古川洋和	12
	13	M1AA130E	臨床心理面接演習	粟飯原良造,葛西真記子,吉井健治,今田雄三,小倉正義,久米禎子,川西智也,古川洋和	13
	14	M1AA140E	臨床心理査定演習Ⅱ	川西智也,今田雄三	14
臨	15	M1AA160C	保健医療分野に関する理論と支援の展開(精神医学特論)	今田雄三,古川洋和	15
	16	M1AA180C	心理的アセスメントに関する理論と実践(臨床心理査定演習Ⅰ)	吉井健治,小倉正義,粟飯原良造,今田雄三,久米禎子,川西智也	16
	17	M1AA190C	心理支援に関する理論と実践	久米禎子,葛西真記子,古川洋和	17
	18	M1AA200C	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践(家族心理学特論)	粟飯原良造,川西智也	18
	床	19	M1BA010C	心の発達・教育創造研究	山崎勝之
20		M1BA030C	心理教育科学研究	内田香奈子	20
21		M1BA040E	心理教育科学演習	内田香奈子	21
22		M1BA050E	心理・教育科学測定・評価演習	山崎勝之,内田香奈子	22
23		M1CA010C	臨床人間関係(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害)	高橋眞琴	23
24		M1CA020C	生理心理学	田中淳一	24
25		M1CA030E	障害心理学研究方法演習	田中淳一,高橋眞琴	25
26		M1CA040C	障害臨床学特論	田中淳一,高橋眞琴	26
27		M1CA050C	障害発達支援国際比較研究	田中淳一,高橋眞琴	27
現 代 教 育 課 題 総 合	28	M1DA010C	社会認識の方法	山本準	28
	29	M1DA020E	社会分析の実践	山本準	29
	30	M1DA030C	現代の子どもと学校教育	谷村千絵	30
	31	M1DA040C	現代教育人間論	谷村千絵,太田直也	31
	32	M1DA050C	コミュニケーションと環境	金野誠志,谷村千絵	32
	33	M1DA060C	環境と文化	田村和之	33
	34	M1DA070C	文化とコミュニケーション	金野誠志,太田直也	34
	35	M1DA080E	人間と文化Ⅰ	金野誠志,太田直也	35
	36	M1DA090E	人間と文化Ⅱ	太田直也	36
	37	M1DA100E	人間と環境Ⅰ	田村和之	37
	38	M1DA110E	人間と環境Ⅱ	田村和之	38
	39	M1DA120E	人間とコミュニケーションⅠ	谷村千絵,金野誠志	39
	40	M1DA130E	人間とコミュニケーションⅡ	谷村千絵,金野誠志	40

掲載科目一覧

※回答者3名以下の科目は、未掲載。

コース	No.	科目コード	科目名	担当教員	頁
ゲ	41	M1FA010C	国際教育人間論	石村雅雄,小澤大成,石坂広樹,日下智志	41
	42	M1FA020E	教育研究・調査	石坂広樹,小澤大成	42
	43	M1FA050C	国際教育協力研究	石坂広樹,石村雅雄	43
	44	M1FA060C	国際教育協力特論Ⅰ	石村雅雄,石坂広樹	44
	45	M1FA070C	国際教育協力特論Ⅱ	小澤大成,石村雅雄	45
	46	M1FA080C	国際教育授業開発	小澤大成,石坂広樹	46
	47	M1FA090E	国際教育協力演習	石坂広樹,小澤大成	47
	48	M1FA100E	国際教育総合セミナーⅠ	石村雅雄,小澤大成,武田清,石坂広樹,日下智志,童安 侑	48
	49	M1FA110E	国際教育総合セミナーⅡ	石村雅雄,小澤大成,武田清,石坂広樹,日下智志,童安 侑	49
	50	M1FA120E	日本型学校教育課程の特徴と展開	石村雅雄,小澤大成,石坂広樹	50
口	51	M1GA010C	国際教育数学内容論	日下智志,石坂広樹	51
	52	M1GA020C	数学教育協力研究	日下智志,石坂広樹	52
	53	M1GA030C	数学教育協力授業研究	日下智志,坂井武司	53
	54	M1GA040C	数学教育協力教材開発研究	日下智志,赤井秀行	54
	55	M1GA050C	国際教育理科内容論	武田清,寺島幸生	55
	56	M1GA070E	理科教育協力授業研究	寺島幸生,武田清	56
	57	M1GA080E	理科教育協力教材開発研究	武田清,寺島幸生	57
	58	M1HA010C	日本語文法研究	田中大輝	58
バ	59	M1HA020C	日本語音声表現研究	田中大輝	59
	60	M1HA030C	日本語語彙論	田中大輝	60
	61	M1HA050C	言語習得・発達論	宮部真由美	61
	62	M1HA060C	日本語教育学研究	宮部真由美	62
	63	M1HA070C	日本語教育法研究(日本語教育観察実習)	廣田知子	63
	64	M1HA080E	日本語教育学演習	宮部真由美	64
	65	M1HA090E	日本語教育法演習(日本語教育グループ実習)	廣田知子	65
	66	M1HA110C	日本文化研究	廣田知子	66
教	67	M1HA120C	日本語Ⅰ	田中大輝	67
	68	M1HA130C	日本語Ⅱ	廣田知子	68
	69	M1HA140C	日本語Ⅲ	田中大輝	69
	70	M1HA160C	日本事情・日本文化	廣田知子	70
	71	M1IA010C	異文化コミュニケーション研究	眞野美穂	71
	72	M1IA030E	言語コミュニケーション演習	眞野美穂	72
	73	M1IA070E	ライティング・スキルⅡ	鎌田スザン・リン	73
	74	M1IA080E	プレゼンテーション・スキルⅠ	ジェラドマ・シェソ	74
	75	M1IA090E	プレゼンテーション・スキルⅡ	ジェラドマ・シェソ	75

令和3年度 結果報告書

授業科目名 子どものころへのアプローチ

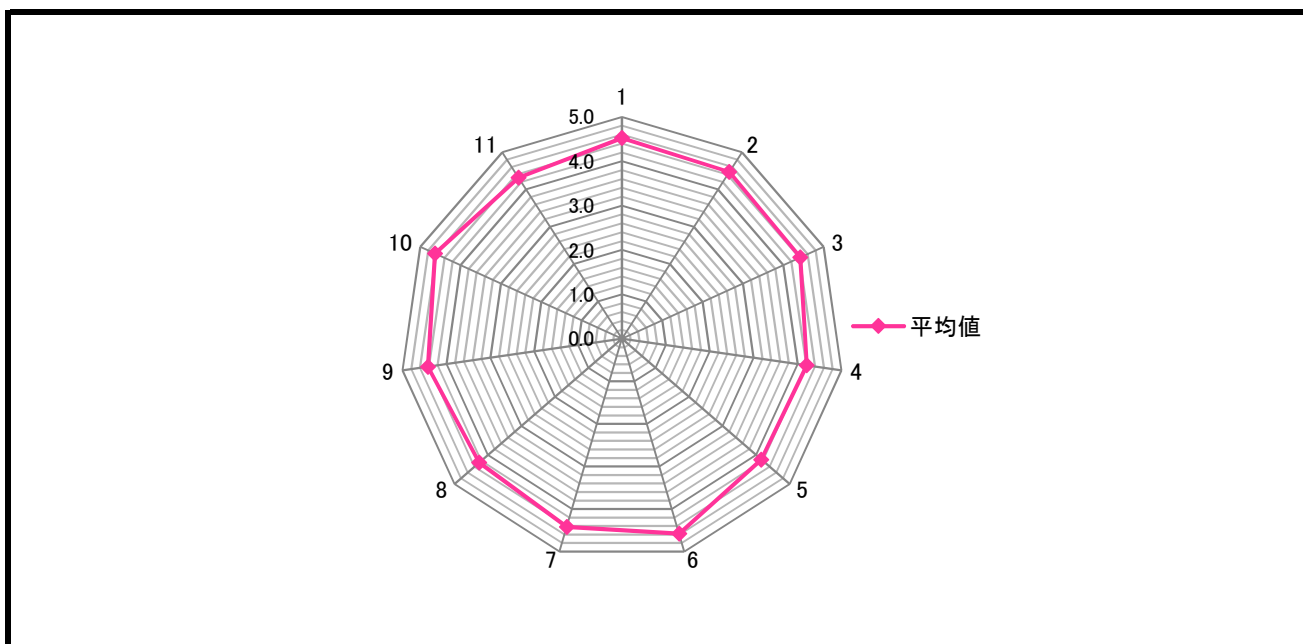
評価実施日 令和3年7月28日

担当教員名 小倉正義, 吉井健治, 田中淳一, 山崎勝之, 内田香奈子, 高橋眞琴

回答者数 19 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	6		1		4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	5	1	1		4.5
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	6	1	1		4.4
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	4	4	1		4.2
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	5	1	3		4.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	13	5		1		4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	10	8		1		4.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	6	1	2		4.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	4	2	1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	5	1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	7		2		4.3



教員のコメント

・昨年度に引き続き、 Moodle などでのオンライン教材を併用しての実施となりましたが、昨年度より授業担当者が慣れてきたこともあり、授業内容を充実させることができ、授業のねらいはある程度達成できたのではないかと感じました。ただ、課題が多すぎるという意見もあり、担当教員全体で課題量を見直し、必要十分な課題になっているか点検していきたいと思います。

・担当教員が多いので、担当教員間の連携をさらに深め、多いことがマイナスになるのではなく、プラスとして作用するように、さらに努力をしていきたいと思います。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床心理学統計法

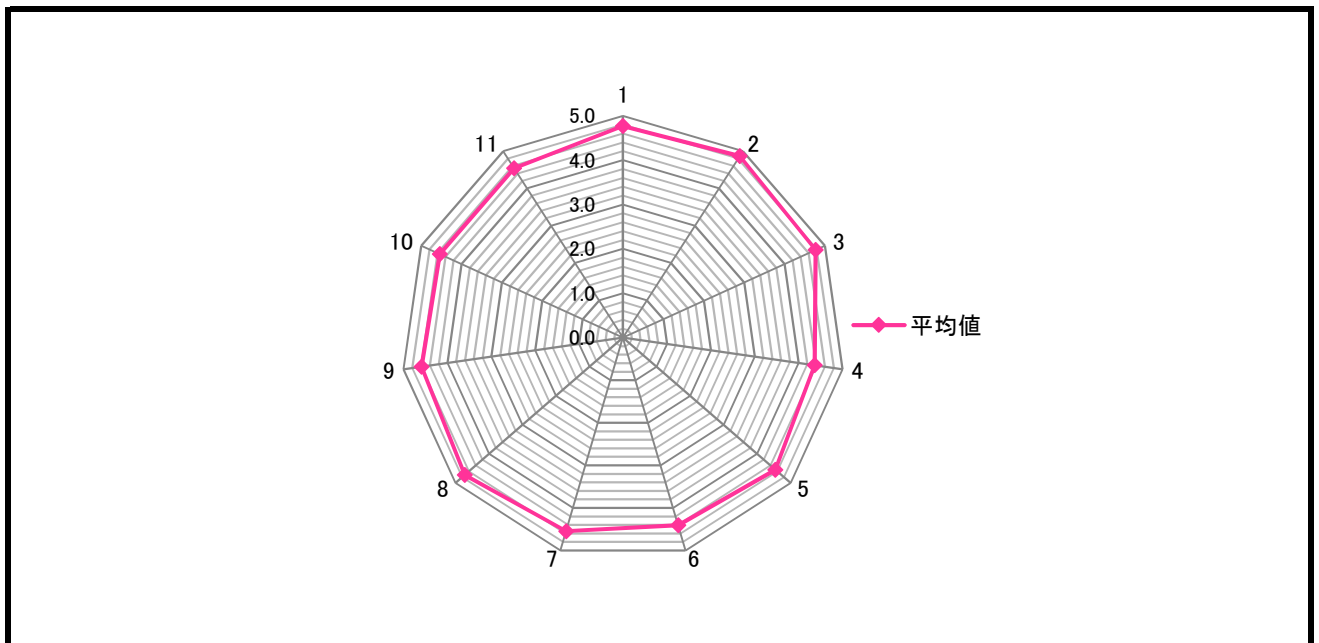
評価実施日 令和4年2月3日

担当教員名 古川洋和

回答者数 22 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	19	2		1		4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21			1		4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	19	2		1		4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	16	2	2		2	4.4
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	4	1		1	4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	13	7	1		1	4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	16	4	1		1	4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	18	3		1		4.7
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16	5			1	4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	4	1		1	4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16	4	1		1	4.5



教員のコメント

回答者の大半が評定値として「5」を選択していることから、以降も同様の内容・方法で開講することが望ましいと判断できる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 福祉分野に関する理論と支援の展開(障害者(児)心理学特論)

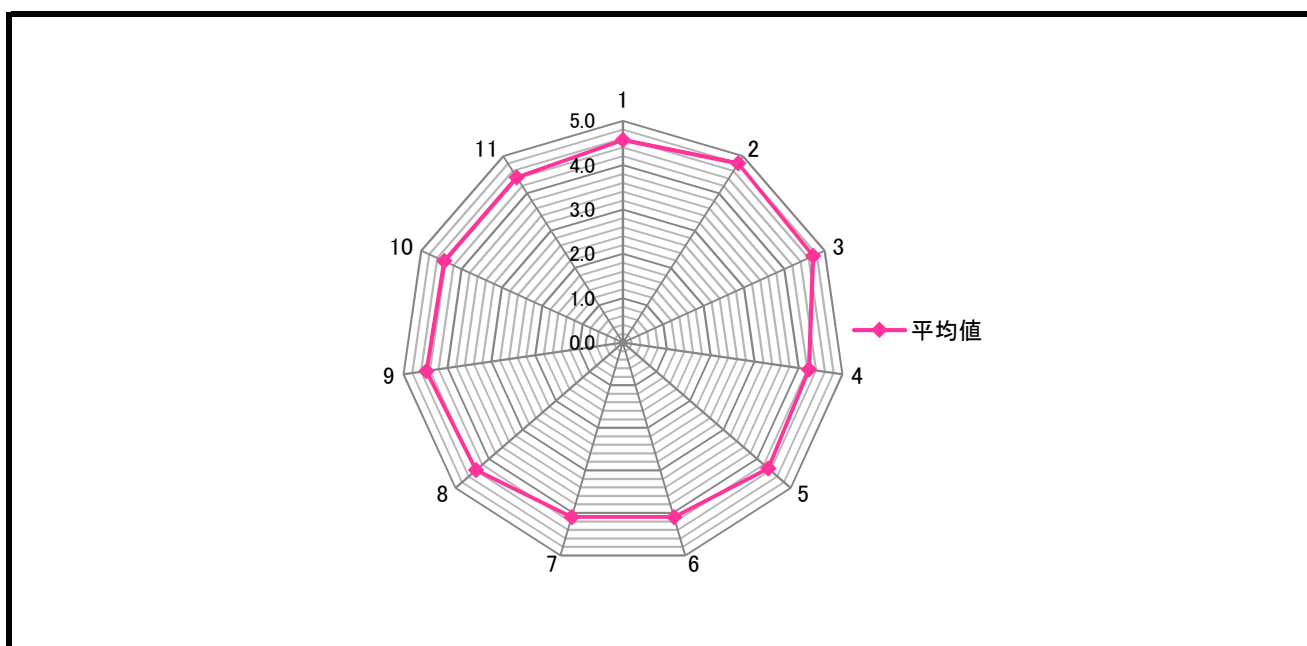
評価実施日 令和3年7月28日

担当教員名 小倉正義, 川西智也, 田中淳一, 高橋眞琴

回答者数 21 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	6		1		4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	4				4.8
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	15	6				4.7
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	7	3	1		4.2
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	4	3		1	4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9	7	3	2		4.1
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8	9	2	2		4.1
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	9	2			4.4
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	7	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	8	2			4.4
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	8	2			4.4



教員のコメント

・昨年度に引き続き、 Moodle を用いたオンライン教材を併用しての実施となりましたが、昨年度よりも授業担当者が使いこなせていたところもあり、授業のねらいは概ね達成することができたのではないかと感じています。アンケート結果でも、特に「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」の項目で評価が高く、教員志望、心理職志望、研究者志望など様々なモチベーションの学生がいる中で満足する授業内容であったと思われます。

・法律などの基礎知識も多く扱うこと、試験でその知識を問うことから、知識の定着をねらう上での工夫をもう少ししていけるとよいかと思いました。アクティブ・ラーニングをしながら、そのことでさらに知識が定着できるような方法を考えていきたいと思っています。

・上記のような改善を行うためにも、担当者間の連携をさらにとるようにしたいと思います。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 教育分野に関する理論と支援の展開(教育心理学特論)

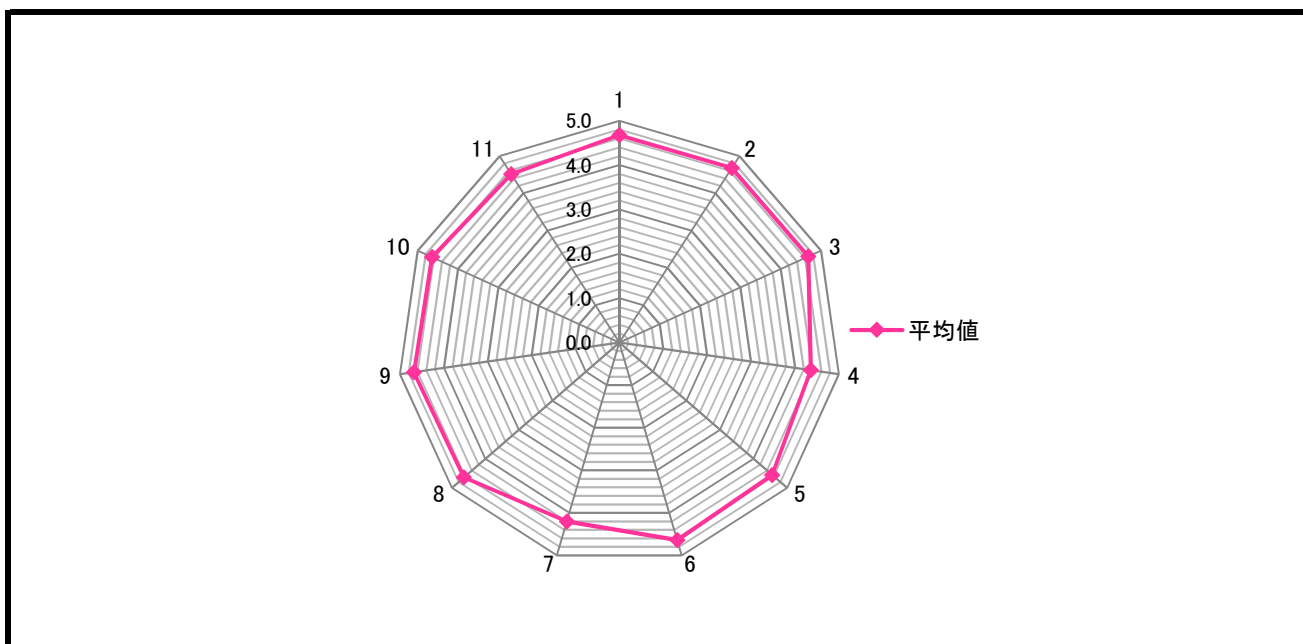
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 今田雄三, 吉井健治, 小倉正義

回答者数 25 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は, この授業を適切に表現していた。	17	8				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18	6	1			4.7
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	17	8				4.7
	(4) 授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが, 実施されていた。	14	6	5			4.4
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は, 適切であった。	17	6	1	1		4.6
	(6) 授業の進む速さは, 適切であった。	17	7	1			4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	10	12	1	2		4.2
	(8) 教科書や配布された資料は, 適切であった。	18	6		1		4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は, 適切であった。	19	4	2			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	7	1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると, よかったと思う。	15	9		1		4.5



教員のコメント

(1)~(11)の各項目ごとの評価の平均値は11項目全てで4.0点以上であった。うち10項目では4.5点以上であり、総合評価の(11)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」では4.5点の評価を得た。よって本授業は受講生から非常に高い評価を得たものとする。自由記述[2]の、この授業のよかった点として、「資料がわかりやすかった」という意見が多かった。自由記述[3]の、この授業の改善点としては、「コロナで仕方がないが、対面の方がよかった」「学生同士で話し合う機会が講義の中であると尚良かった」という意見などが寄せられていた。今年度はコロナ感染防止のため、オンライン授業を実施した回数が多くなり、対面で実施した回においても、従来のように小グループでディスカッションを行うことができなかったことが反映されたものと思われるが、今後はコロナ禍における意見交換・集約を少しでも実施できるよう対応を工夫したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開(犯罪心理学特論)

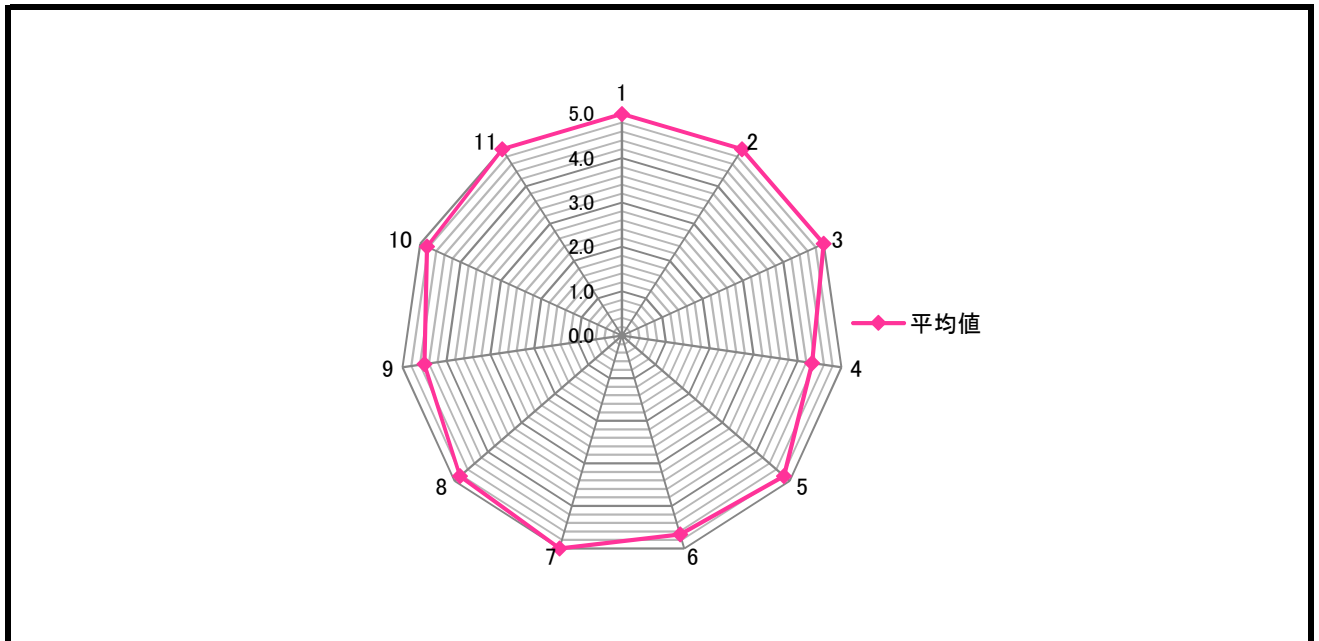
評価実施日 令和3年9月16日

担当教員名 黒澤良輔

回答者数 6 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	2	1			4.3
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4	2				4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

反省点として、機器・ソフトの仕様に十分慣れていないため、学生からの質問や感想を受けることはできたが、それらに対する教師側からのコメントにさらに質問や感想を受けるといった、双方性を深めていく働きかけは不十分であった。
また、学生を少人数グループに分け、相互交流や討議を深めていくといった工夫も不十分であったと思う。
内容については、警察領域の内容を増やしていく必要があると反省している。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 心の健康教育に関する理論と実践

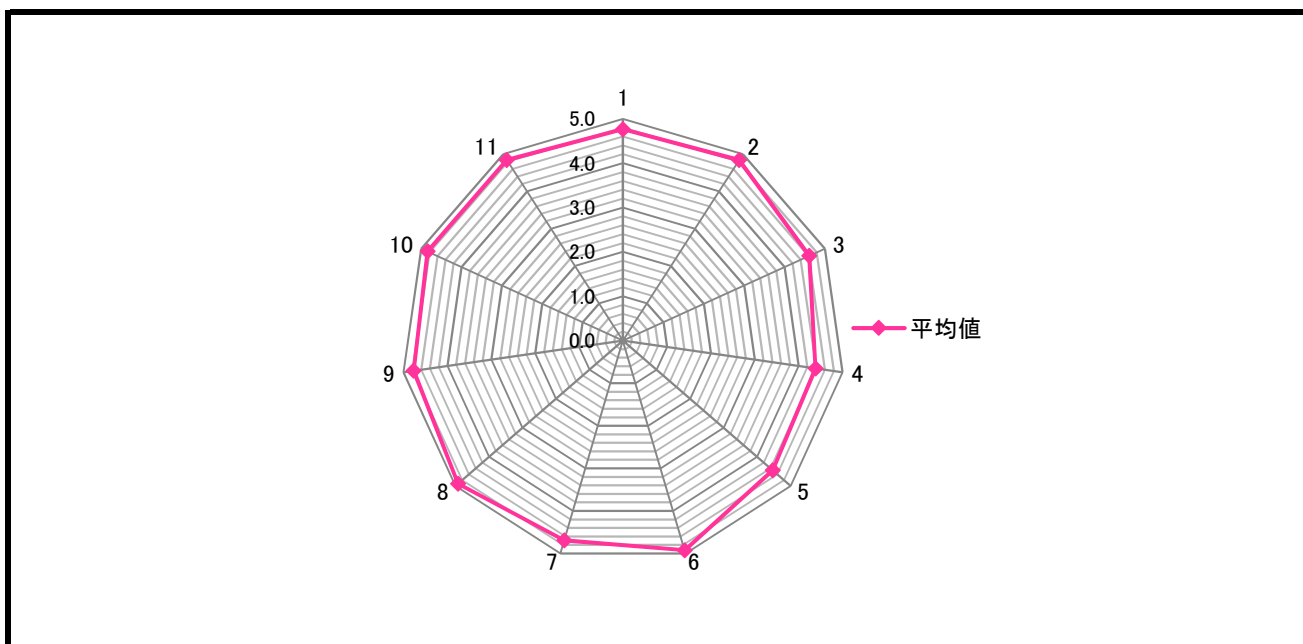
評価実施日 令和4年2月3日

担当教員名 吉井健治, 今田雄三, 小倉正義, 山崎勝之, 内田香奈子

回答者数 13 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	1	1			4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2				4.8
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	5				4.6
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	1	2	1		4.4
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4		1		4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	12	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9	4				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	12	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	2				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	2				4.8



教員のコメント

履修者への授業評価の依頼が十分できていなかったため回答者が少なかったことは反省点である。総合評価が4.8と非常に高かったことから、履修者の満足感が得られたといえよう。質問項目(4)「授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。」は4.4で比較的低かった。この理由としては、新型コロナウイルス感染防止のために、大きな声で発言してもらうことや、グループ活動などが制限されたことが影響している。今後は様々な工夫を行ってアクティブ・ラーニングに取り組んでいきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究 I

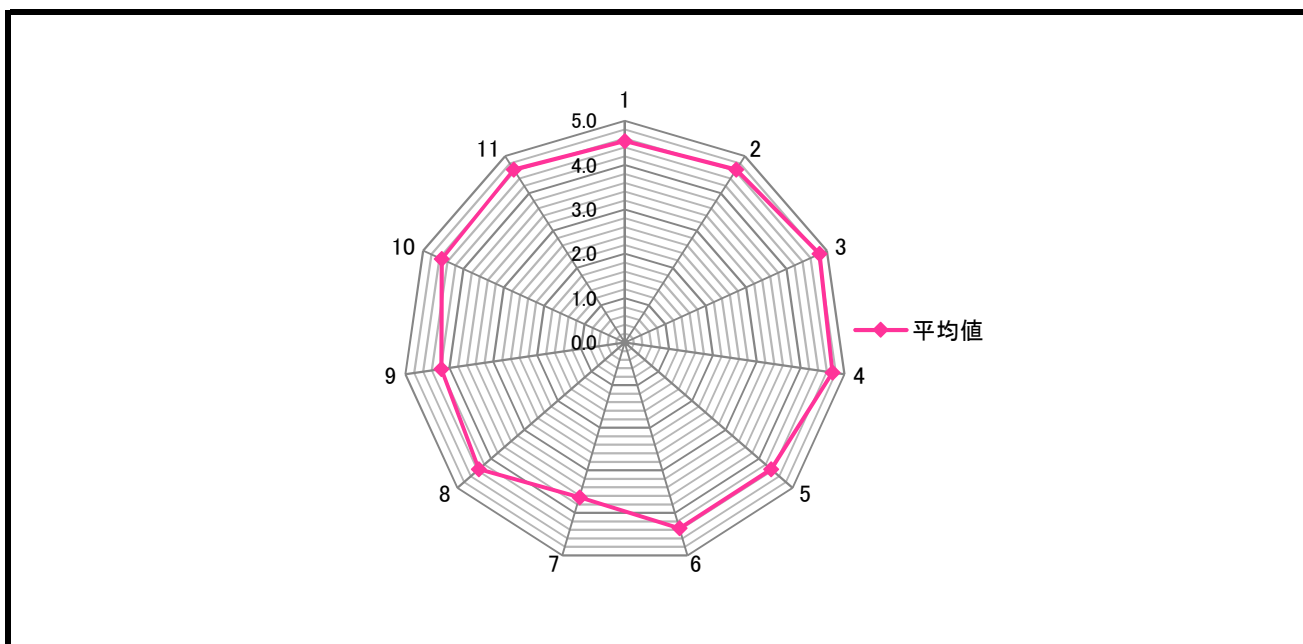
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 久米禎子

回答者数 11 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	5				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2	1			4.6
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9	2				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	3				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	5	1			4.4
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	5	5	1			4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4	2	2	3		3.6
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	5	1			4.4
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	7	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5				4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	4				4.6



教員のコメント

レポートとディスカッションを通じて学生が主体的に取り組めるよう構成した授業であり、学生の評価からも、それがある程度達成されたと考えられる。おおむね高い評価であったが、「受講生に分かりやすく説明した」という点では、評価にばらつきがあった。ある決まった内容を伝達するという授業内容ではなく、学生の理解度もさまざまなので、何をどのように説明するのか難しい面があるが、今後改善したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究Ⅱ

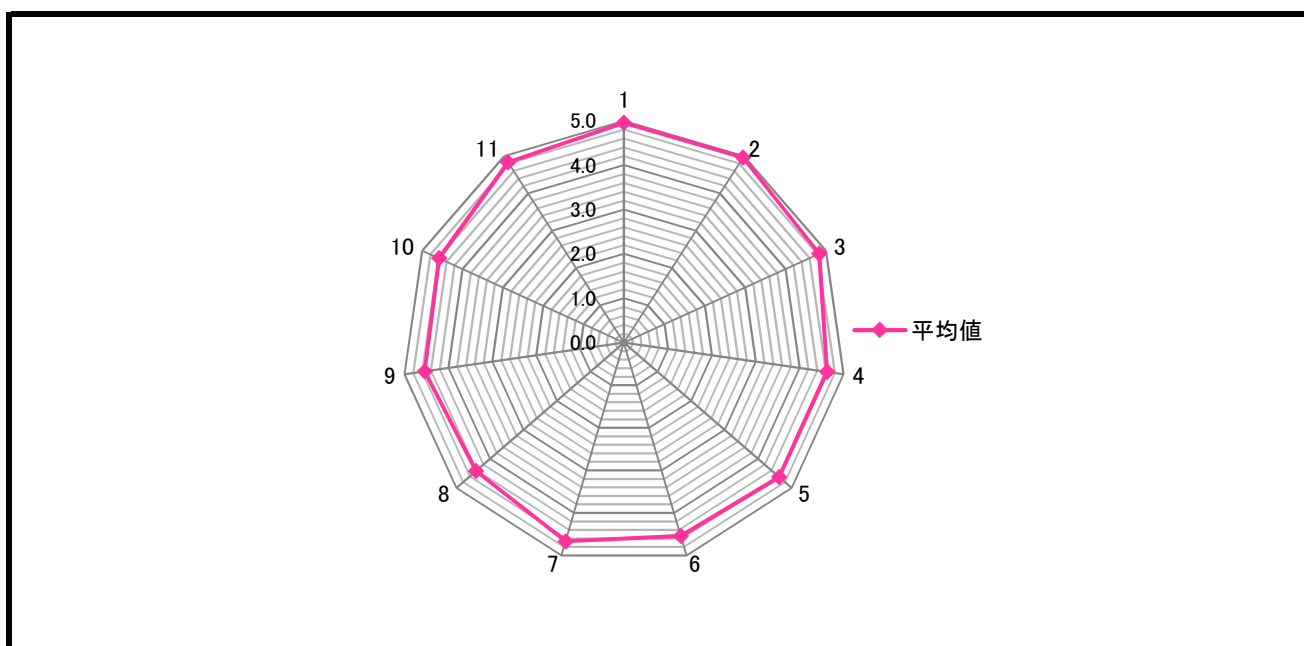
評価実施日 令和3年7月30日

担当教員名 葛西真記子

回答者数 24 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	1				5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	1				5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	22	1		1		4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	18	4	1	1		4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	7	1			4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	13	11				4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	18	5		1		4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	14	8	1		1	4.4
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15	7	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	8	1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	20	4				4.8



教員のコメント

授業全体の評価は「4.5」で、それなりの高評価を得ている。自由記述にもある通り、実際の臨床事例にもとづいて精神分析について解説したこと、また、毎回、生徒からの質問を集め、それについて授業内で解説したことが役に立ったようである。さらに、質問(2)の「専門的知識を深める」の評価が「5.0」であり、かなりの高評価であり、すべての受講者にとって役立つ講義内容であったことがわかった。この評価を励みにさらにわかりやすい、臨床家にとって役に立つ講義を目指したいと考える。反対に、あまり評価の高くなかった項目についてかんがえると、質問(8)の「教科書や配布された資料は、適切であった。」が4.4や、質問(9)の「板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。」が4.5であった。しかしこれについては自由記述にもその理由は記載されておらず、推測するにとどまるが、教科書にのっとった授業展開や、わかりやすい板書が必要であったかもしれない。ほとんどをパワーポイントで表示しており、板書は、補足的に専門用語を書くのみだったので、講義内容を把握していないと難しかったかもしれない。また、この質問項目の評価ではないが、最終レポートの課題が難しかったという記載が自由記述に2名ほどみられた。この点については、改善していきたいと思う。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究 I

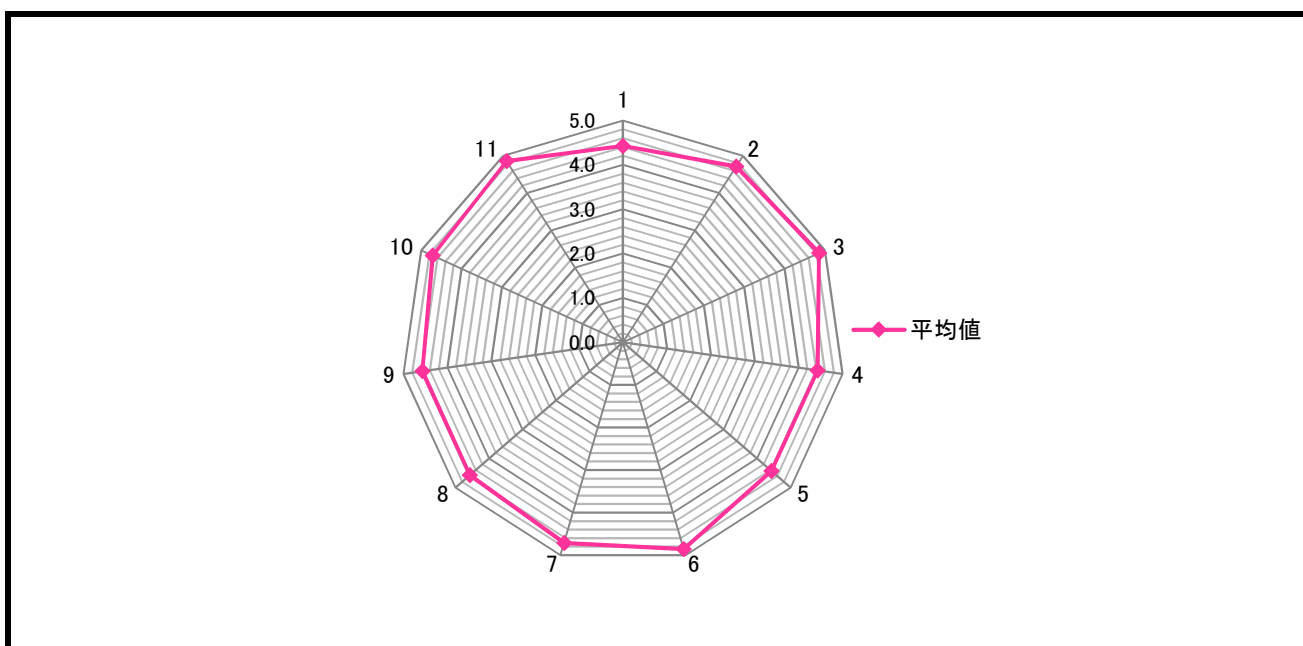
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 吉井健治, 葛西真記子

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は, この授業を適切に表現していた。	4	2	1			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
	(4) 授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが, 実施されていた。	5	1		1		4.4
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は, 適切であった。	5	1		1		4.4
	(6) 授業の進む速さは, 適切であった。	6	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は, 適切であった。	4	3				4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は, 適切であった。	4	3				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると, よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

履修者への授業評価の依頼が十分できていなかったため回答者が少なかったことは反省点である。総合評価が4.9と非常に高かったことから、履修者の満足感が得られたといえよう。質問項目(4)「授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが, 実施されていた。」は4.4で比較的低かった。この理由としては、新型コロナ感染防止のために、大きな声で発言してもらうことや、グループ活動などが制限されたことが影響している。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究Ⅱ

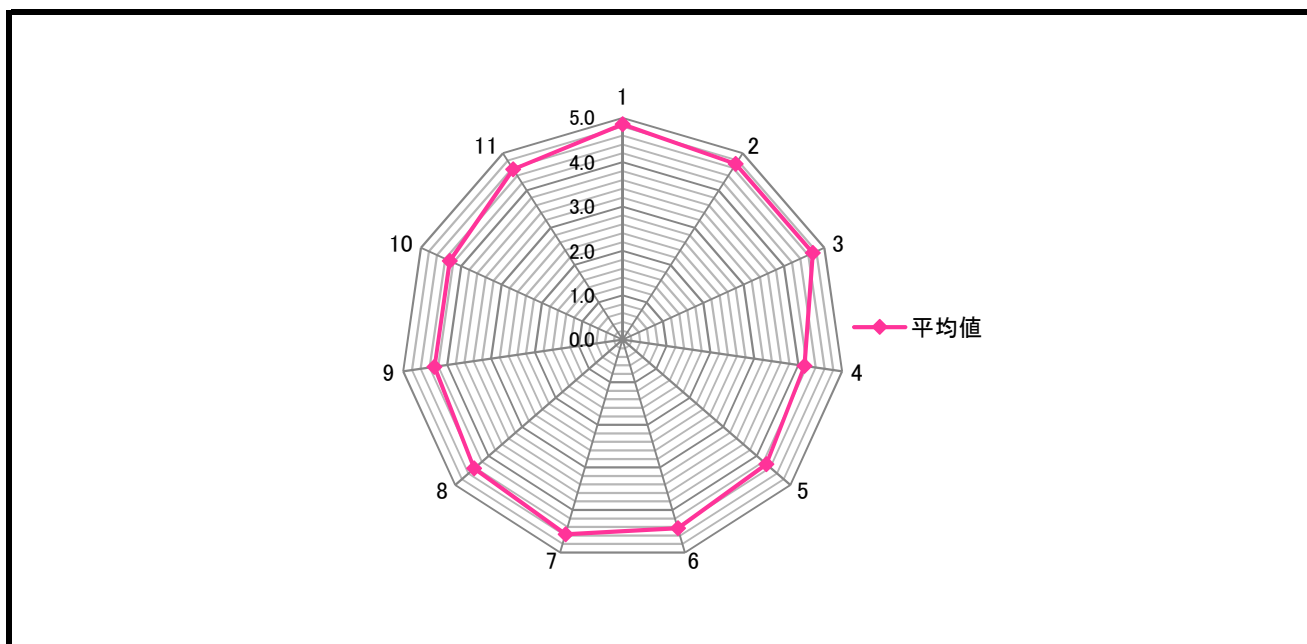
評価実施日 令和3年7月29日

担当教員名 栗飯原良造

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6		1			4.7
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6		1			4.7
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	3		1		4.1
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	2			4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4	2	1			4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	1	1			4.6
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2	1			4.4
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	2			4.3
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1	1			4.6



教員のコメント

回収数が少ないなかで、質問項目すべてでsobered4.1、総合評価で4.6であり、シラバスに沿ってわかりやすい講義であると受講生に受け入れられたと思われる。ただ、新型コロナウイルス感染症の蔓延状況により、対面式授業、リモートによる授業になるか常に不安があたと思われるので、受講生の踏ん張りに支えられた講義であると思われる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 グループアプローチ論

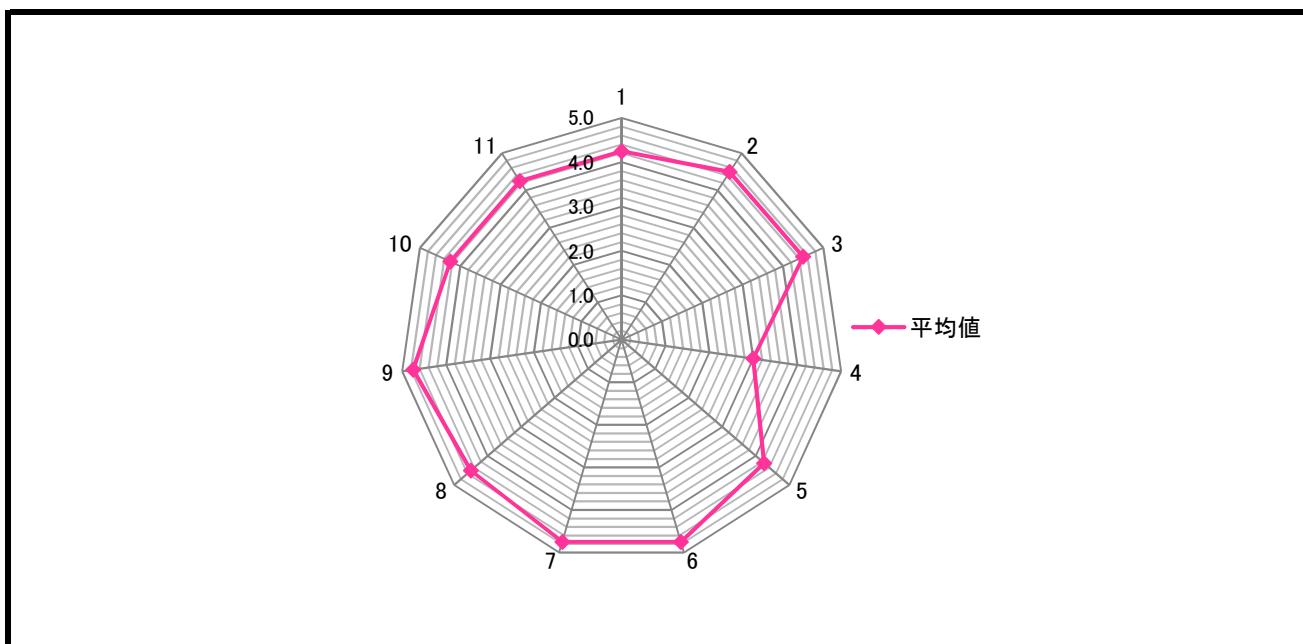
評価実施日 令和3年9月1日

担当教員名 木村昌紀

回答者数 4 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1	1			4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3		1			4.5
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3		1			4.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	1		2		1	3.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	1			4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3			1		4.3
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3			1		4.3



教員のコメント

授業評価をいただきありがとうございます。2020年度に続き、2021年度もオンデマンド授業を実施しました。対人関係やコミュニケーションの心理学をテーマにした授業で、本来でしたら受講生の皆さんの顔や反応をみながら講義できれば良かったと思います。資料が見やすかったという感想をいただき、ありがとうございます。今後も続けていこうと思います。対面で受講したかったという感想もいただき、私も同じように思いました。2022年度は対面で実施できることを願っています。コロナ禍のオンライン授業で、ご不便をおかけしましたが、集中講義を受講いただきありがとうございました。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究法特論

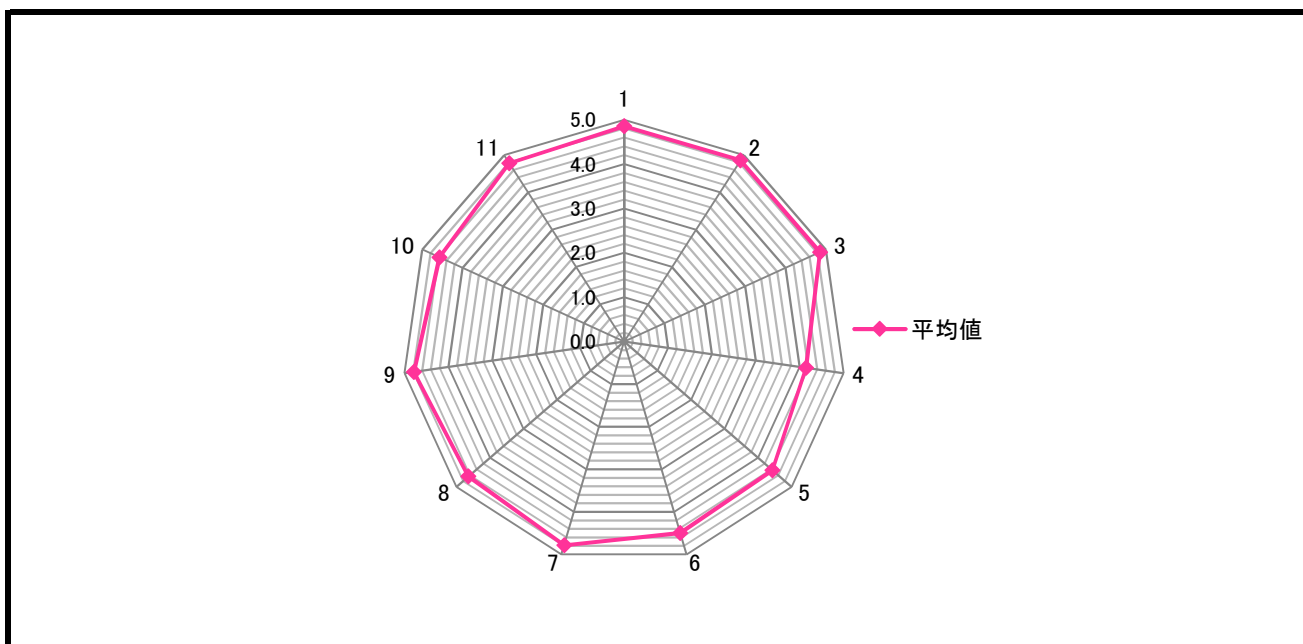
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 葛西真記子, 粟飯原良造, 今田雄三, 吉井健治, 小倉正義, 久米禎子, 川西智也, 古川洋和

回答者数 14 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	2				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12	2				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	6	3			4.1
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	2	3			4.4
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	8	5	1			4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	11	3				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	5				4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4	1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	3				4.8



教員のコメント

本講義は、複数の教員によるオムニバス形式であり、前半部分は、1日で終わらせる集中講義の形式をとっている。後半は、毎週の実施であるが、5月の途中から始まるので、スケジュールをきちんと把握していないと難しいかもしれない。その点については、自由記述においても指摘されていた。令和4年は、3年でのこの部分を改善し、後半は毎週実施予定である。また本講義全体の評価は「4.8」であり、かなりの高評価である。それぞれの教員が自身の専門について講義をし、その後、それらについての研究方法についての講義であるので、受講生にとっては、入学当初に初めて触れる臨床心理学の専門の内容であり、興味もあったのではないかと推測できる。改善点としては、自由記述に記載されているように、多様な研究法について各1回の講義時間しかないのでは、不十分であったかもしれない。この点については今後なんらかの対応ができればと考える。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接演習

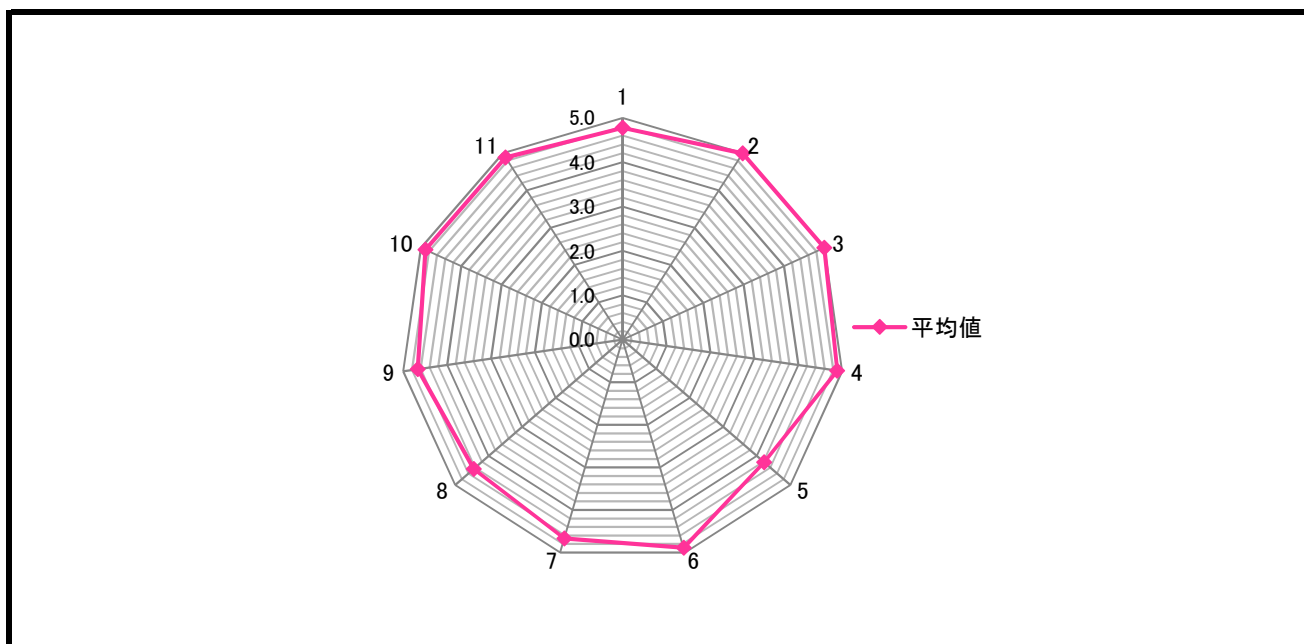
評価実施日 令和3年7月29日

担当教員名 栗飯原良造, 葛西真記子, 吉井健治, 今田雄三, 小倉正義, 久米禎子, 川西智也, 古川洋和

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	3			4.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	6	3				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	3	1			4.4
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



教員のコメント

全ての質問項目で4.2以上で、とくに専門知識、専門家の育成の項目では5.0であり、総合評価4.9で、受講生にとって、シラバスに沿い、専門技術の習得に役に立った講義であると思われる。また、小グループに分かれて、各教員が分担したが格差のない講義ができたと思われる。ただし、回収数が少ないので、違った意見の受講生は提出しなかった可能性もあり、謙虚に今後も講義内容を工夫していく予定である。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ

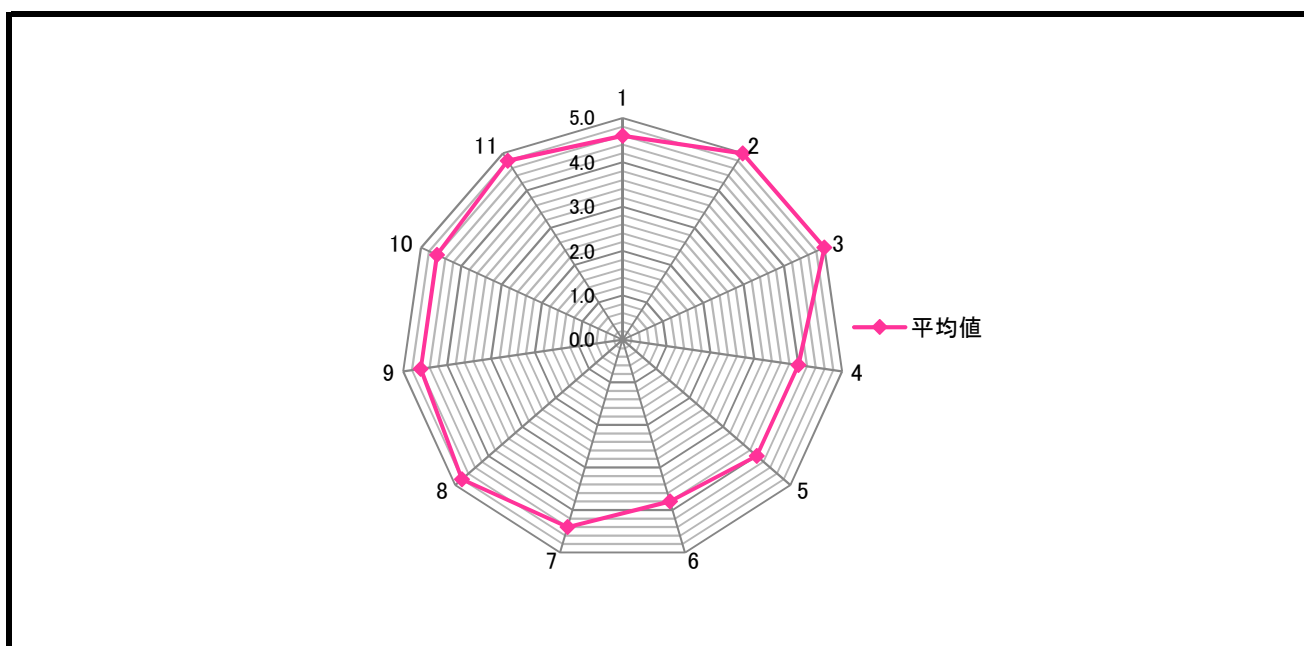
評価実施日 令和4年2月2日

担当教員名 川西智也, 今田雄三

回答者数 5 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	2	2		1		4.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3		1	1		4.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	1	3		1		3.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4			1		4.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

回答率が低さが気になるものの、そのなかで得られた授業評価についてコメントしたい。
 <総合評価>項目 (11) の回答は5と4に集中しており、授業全体として一定の評価は得られたと考えられる。
 <授業の内容>項目 (1)～(4) は5と4に集中し、一定の評価は得られたと考えられる。一方、項目 (4) は2の回答も一部認められた。本授業では検査の演習や検査事例の解釈等でアクティブラーニングを取り入れる計画であったが、コロナ禍による対面授業の中止により一部予定変更を余儀なくされた。こうした事態を反映しての評価と思われる。
 <教員の授業の進め方>項目 (5)～(9) も多くが5と4に集中し、一定の評価は得られたが、2のある項目も複数認められた。項目 (5) については、シラバスで配点を記載し、初回に単位修得の条件を説明している。自由記述を踏まえると、小テストの実施前に再度提示することも必要と考えられる。項目 (6) については、疑問点に対するFBや練習問題を随時行いつつ講義を行ったため、当初の計画通りに進まなかった部分もあった。自由記述にも「タイムマネジメント」とあるため、次年度は講義の時間配分について配慮したい。項目 (7) については、引き続き授業内外で学生の疑問点に応えることを通して分かりやすい授業を目指したい。
 <あなたの授業への取り組み>項目 (10) は5と4に集中しており、受講生は主体的・積極的に授業に取り組んだと考えられる。
 <自由記述>上記で取り上げた部分以外では、疑問点に対する回答や文献紹介、オンラインでの説明について評価する記述があった。こうした点は次年度も継続していきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 保健医療分野に関する理論と支援の展開(精神医学特論)

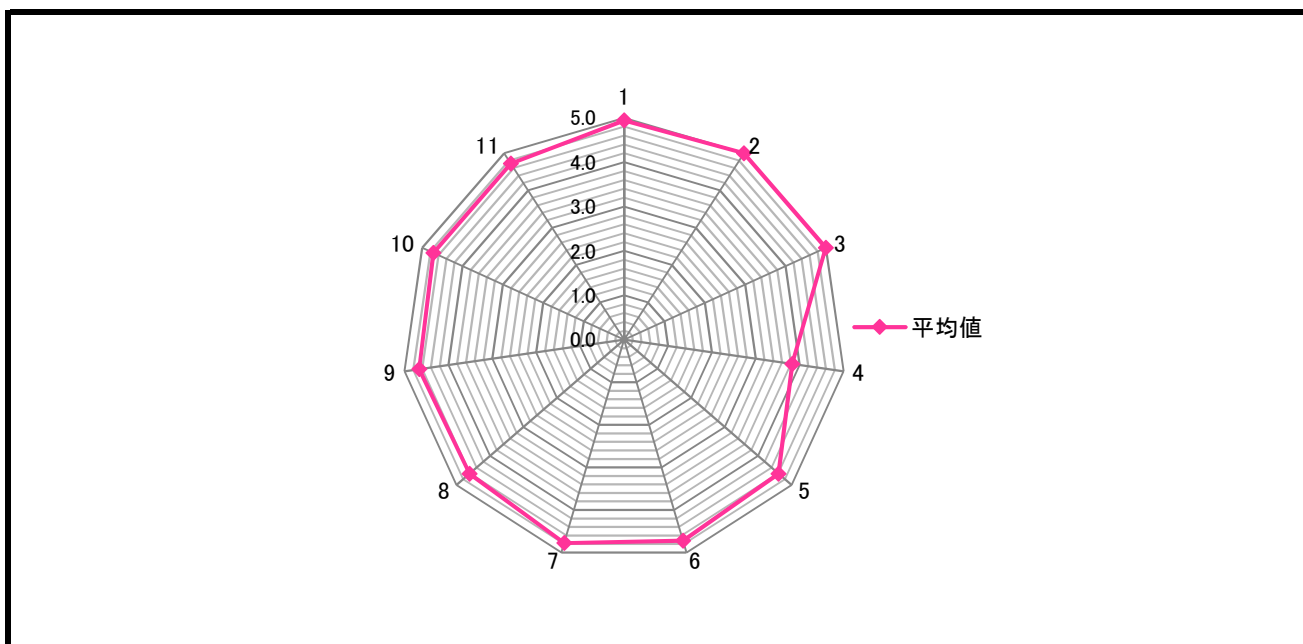
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 今田雄三, 古川洋和

回答者数 18 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	17	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	18					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	4	4	3		3.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	15		2	1		4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	13	5				4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	14	4				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	14	3			1	4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	4	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	5				4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	5				4.7



教員のコメント

質問11項目中10項目で評価の平均値が4.5点以上であり、うち2項目では評価の平均値が5点(満点)となっており、本授業は受講生からは高い評価を得られたものとする。自由記述を回答していた者は4名と少数であったが、本授業のよかった点として「資料や説明がわかりやすかった」ことが挙げられていた。授業の改善点として、「分量が多すぎる」「(オンライン授業のPowerPointについて)音声付きの資料が欲しかった」といった意見が挙げられていた。学習内容として要求される分量そのものを減らすことは困難であるが、今後はオンライン授業の資料として音声付きの資料を提供することも検討したい。なお本授業ではアクティブラーニングを実施しない旨を明記し、質問(4)の項目はR1年度においてはアンケートから外していたが、昨年度・今年度とコロナ対策の関係でオンライン上でアンケートに回答する方式が採られ、個別の授業ごとに回答項目を外すことが出来なかったため、実施していない要素を評価するという矛盾が生じている。本授業においてはアクティブラーニングの実施の有無にとらわれることなく、今後も受講生が基本的知識をきちんと習得することを主眼においた授業を展開しつつ、授業終了時にリアクションペーパーを提出してもらい、後日LiveCampus上で質問に回答する等の対応を継続することで学習効果を高める取り組みを継続したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 心理的アセスメントに関する理論と実践(臨床心理査定演習Ⅰ)

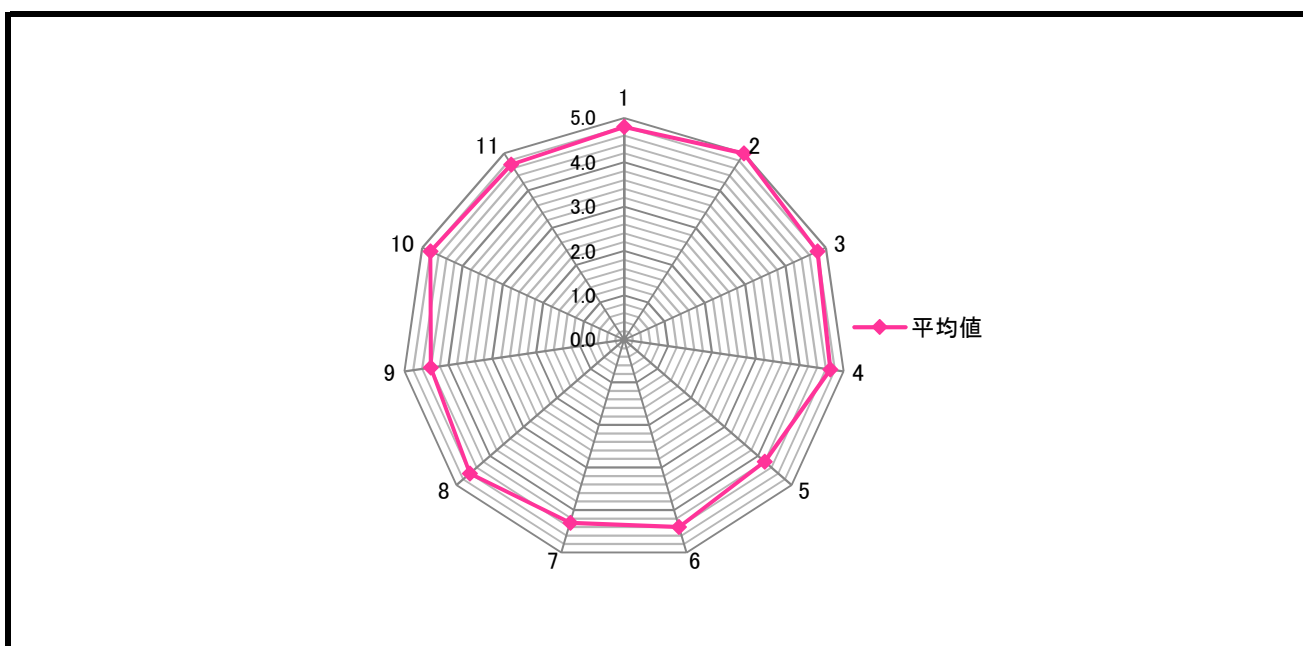
評価実施日 令和3年7月30日

担当教員名 吉井健治, 小倉正義, 栗飯原良造, 今田雄三, 久米禎子, 川西智也

回答者数 10 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	3				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	3			4.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	3		1		4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	4		1		4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	4				4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	6				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	3				4.7



教員のコメント

履修者への授業評価の依頼が十分できていなかったため回答者が少なかったことは反省点である。総合評価が4.7と非常に高かったことから、履修者の満足感が得られたといえよう。質問項目(5)「成績評価の方法の説明は、適切であった。」は4.2で比較的低かった。この理由としては、授業担当教員数が多かったり、それぞれの担当授業回数も違っていたりなど、全体的な統一が図りにくかったことも影響しているように思われる。今後は、成績評価の方法について適切に説明することを心がけたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 心理支援に関する理論と実践

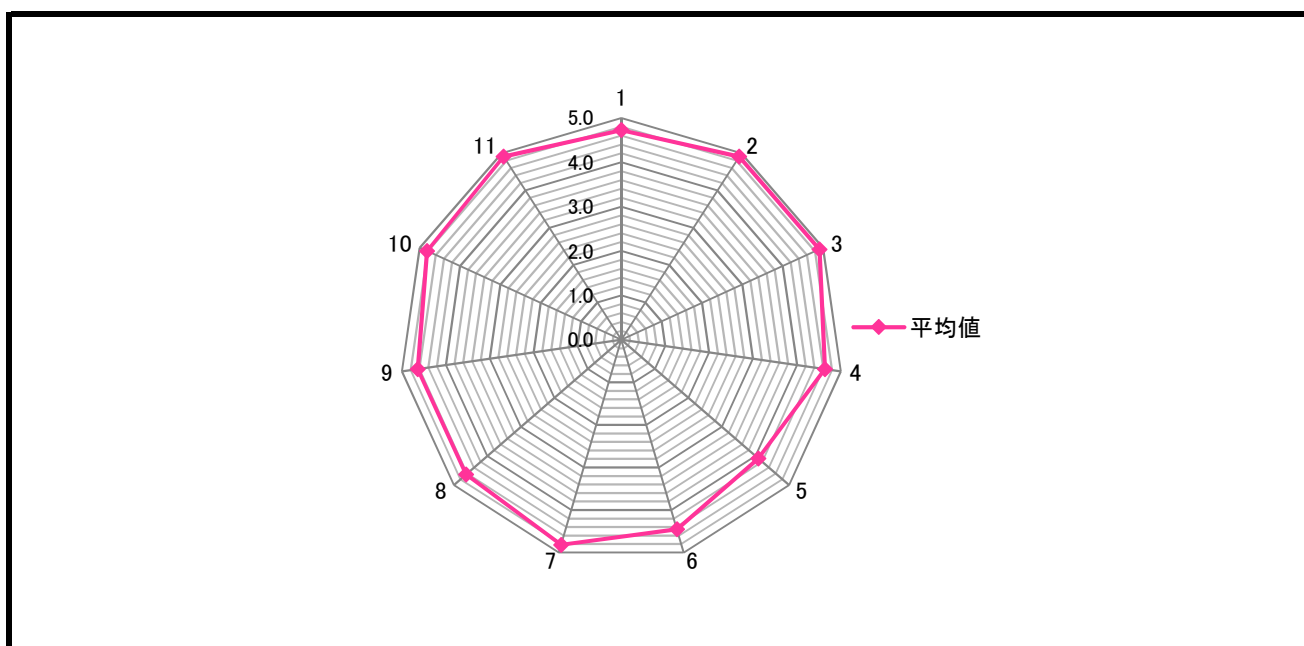
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 久米禎子, 葛西真記子, 古川洋和

回答者数 11 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	2	1			4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	2	1		4.1
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	4	1			4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9	2				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7	4				4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



教員のコメント

全般的に高い評価であった。3人の教員が5回ずつ担当しているため、それぞれの内容がコンパクトにまとまっている点や、異なる内容の講義を聞ける点などが、そのような評価につながったものと思われる。今後も引き続き、各教員で授業内容や方法の充実に努めていきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践(家族心理学特論)

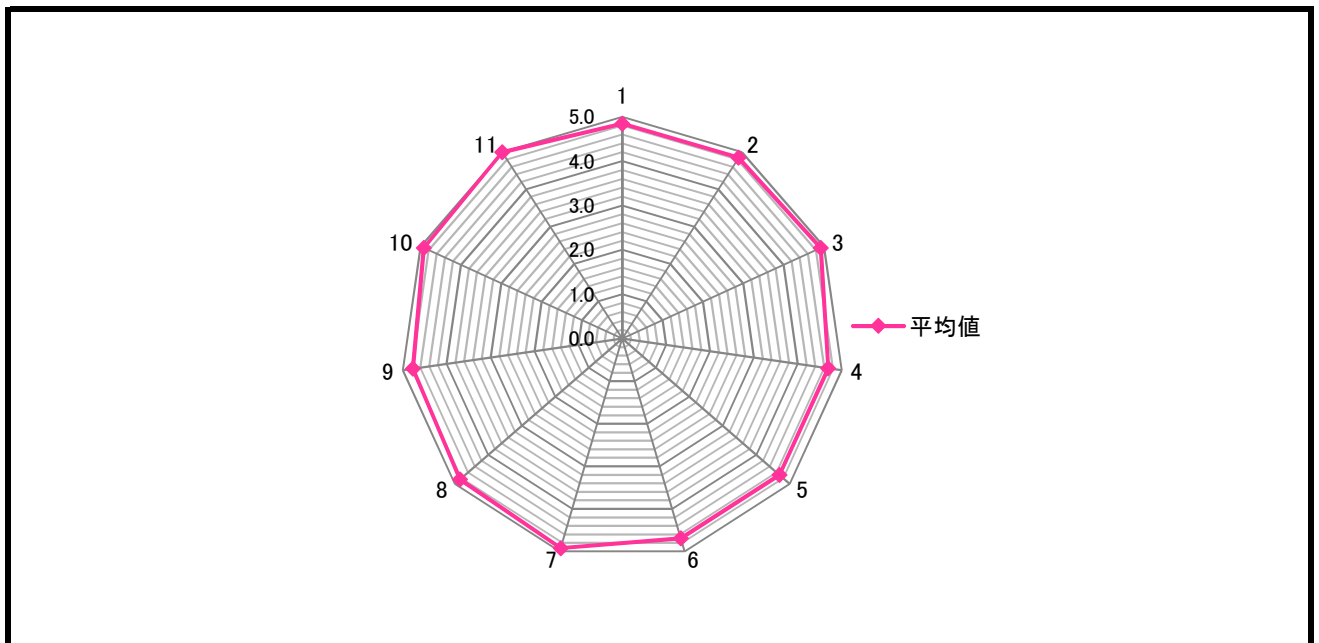
評価実施日 令和3年7月28日

担当教員名 栗飯原良造, 川西智也

回答者数 13 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	2				4.8
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	4				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	4				4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9	4				4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	12	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11	2				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13					5.0



教員のコメント

回収率は約50%で、書く質問項目で4.7以上であり、総合評価は5.0で、シラバスに沿い、家族に対する対応や専門機関との連携などを受講生が身につけることに役立つと思われる。今後も受講生の知識や技術の習得に役立つ講義を工夫していきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 心の発達・教育創造研究

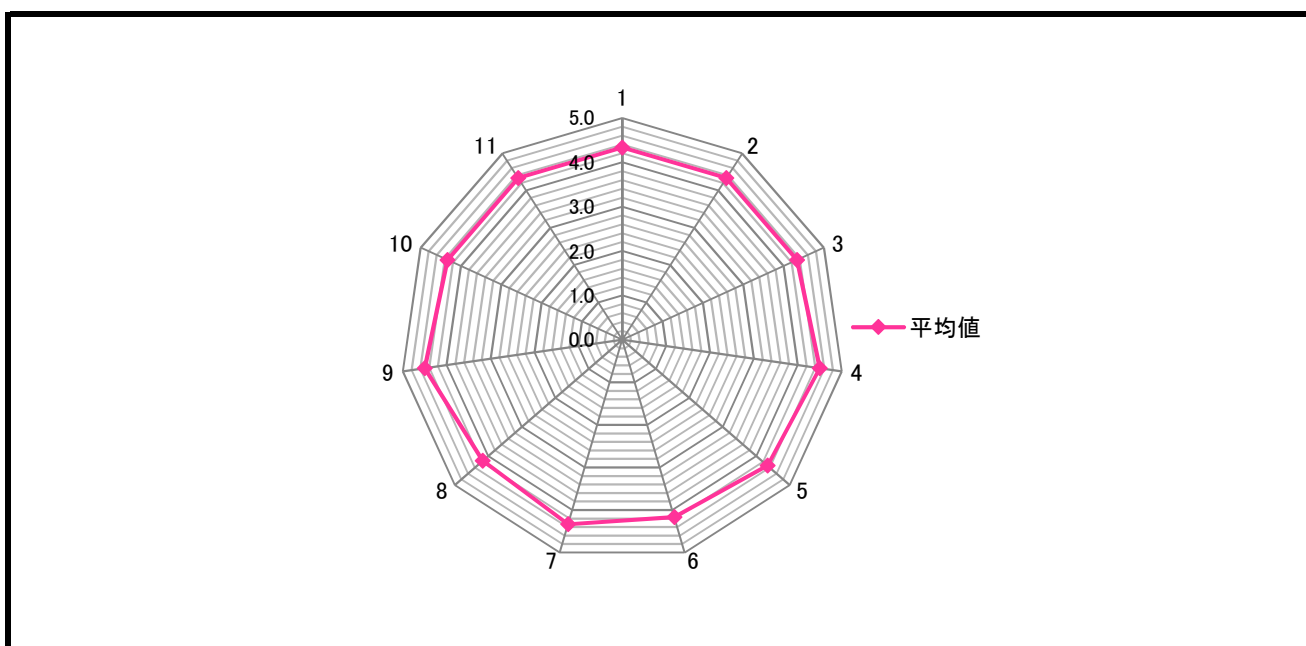
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 山崎勝之

回答者数 6 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5				1	4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5				1	4.3
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5				1	4.3
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5			1		4.5
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5				1	4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3	2		1		4.2
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5				1	4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1			1	4.2
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5			1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5				1	4.3
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5				1	4.3



教員のコメント

概ね良好な評価であったが、1名だけ評価結果が極端に異なり、他の授業でも同傾向がある1名が混入し、言葉の理解の問題から評価を間違った可能性がある。

しかし、その判断の是非を確認することはできず、また確認すべきではない。他の評価者の評価は、例年どおりどの項目もほぼ満点で、若干進む速さがはやいと感じた受講生がわずかだいた。

受講生が6名と少なく、また評価者も少ないことから、これ以上のコメントは控えるが、授業者は例年どおり目標を達成できたと考えている。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 心理教育科学研究

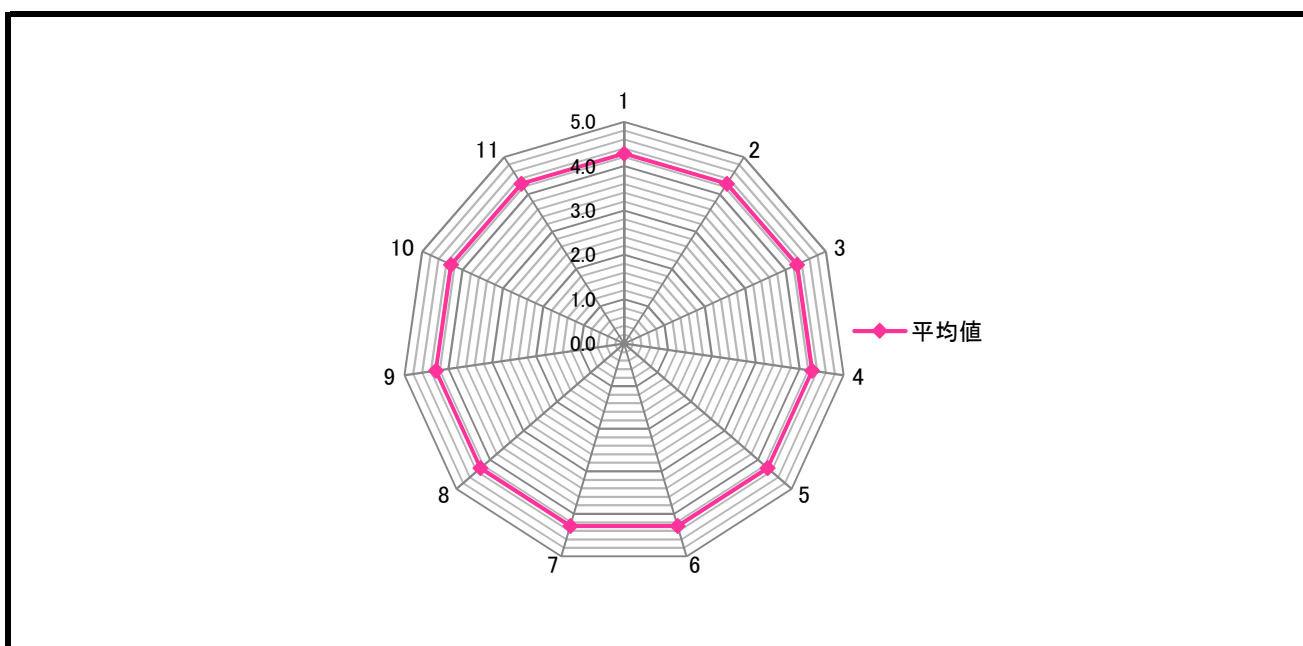
評価実施日 令和4年2月7日

担当教員名 内田香奈子

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1			1	4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1			1	4.3
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5	1			1	4.3
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	1			1	4.3
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2		1		4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	5	1			1	4.3
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	1			1	4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1			1	4.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1			1	4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1			1	4.3
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1			1	4.3



教員のコメント

本授業では、領域としてより専門性の高い内容を提供するため、心理学の基礎研究に関する知見を分かりやすく提供するように心がけた。また、現場での実践内容については、より詳しい解説を加えながら、教員が小中学校の教師役を、受講生が児童・生徒役となり、授業を体験してもらった。その結果、総合評価は4.3となり、高い数値を得ることができた。コメントも総じて肯定的なフィードバックであったが、人によっては人数に対して教室が広いなどのコメントがあった。感染対策を講じながら広い教室での演習授業を進めたため、致し方ない点もあるが、状況に応じながら改善を進めたい。また、1名ほど低い点数での評価もみられたが、他分野・領域からの受講生もいたため、講義への理解に苦しむ場合もあったのかもしれない。今後も内容をブラッシュアップしたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 心理教育科学演習

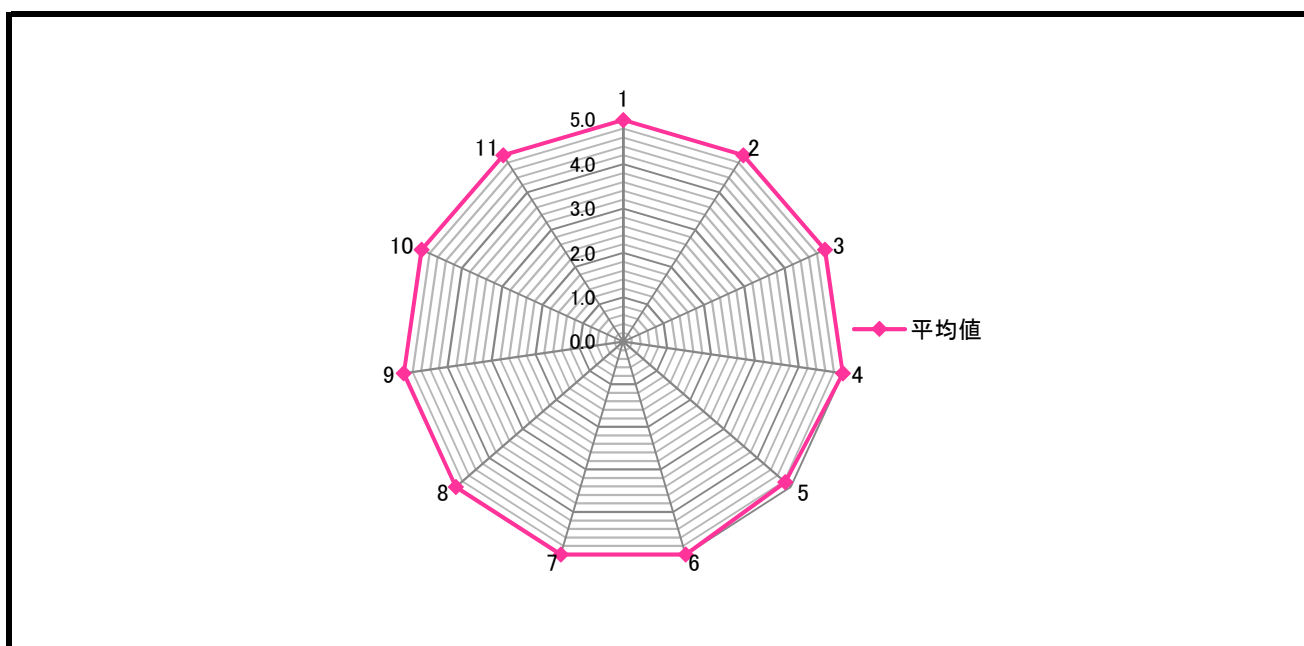
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 内田香奈子

回答者数 6 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

本授業では自ら論文を読み、エビデンスを抽出し、その上で簡単な予防教育プログラムを構築できることを目指した授業を展開した。その結果、総合評価が5.0、各項目も4.8以上の評価となった。コメント欄からも実際に教育プログラムを作成できる点や、どのように研究が実践に活かされるのかを体系的に学ぶことが出来る点などへの評価があった。なお、成績評価基準の明示に関する得点が若干ではあるが低い値を示していた。昨年よりは点数が向上していたものの、演習授業のため、課題への取組やグループ活動状況など、総合的な判断になってしまいがちである。次回からは今年度以上により明確な基準を示したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 心理・教育科学測定・評価演習

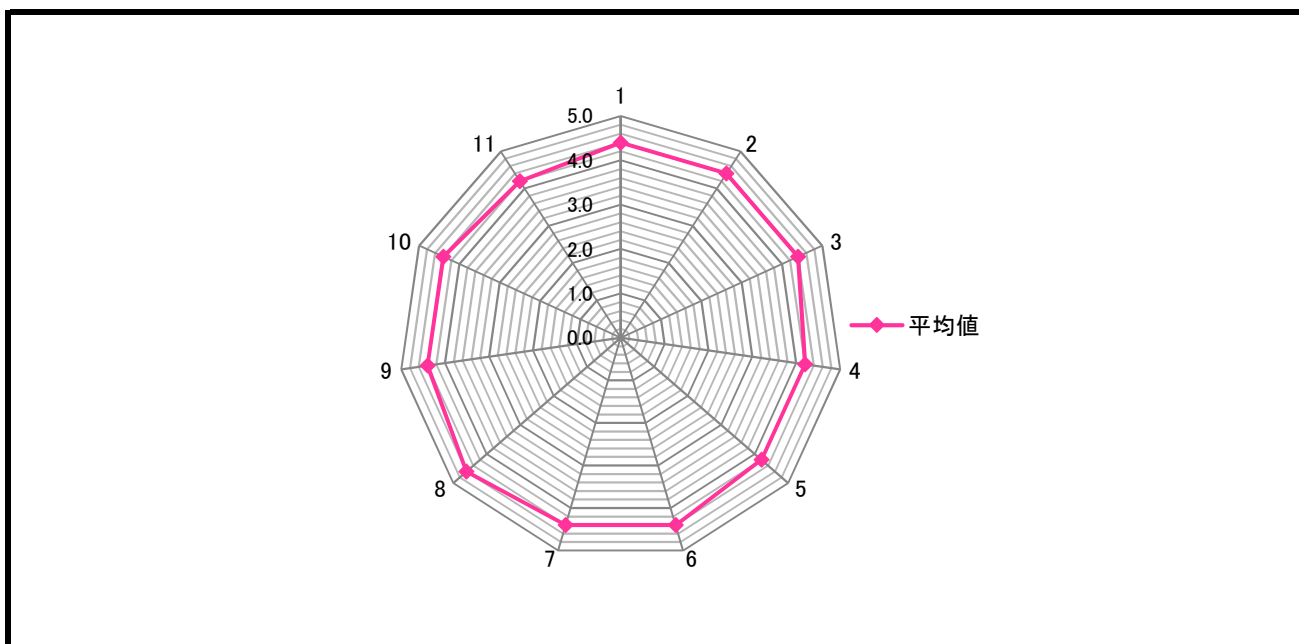
評価実施日 令和4年2月7日

担当教員名 山崎勝之, 内田香奈子

回答者数 5 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4			1		4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4			1		4.4
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4			1		4.4
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4				1	4.2
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1		1		4.2
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4			1		4.4
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4			1		4.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4			1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4			1		4.4
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4				1	4.2



教員のコメント

本授業では心理的な評価を行う際に注意すべき最新の心理学の理論的側面と、実際の統計ソフトHADを利用した実践的側面をオムニバス形式で実施した。その結果、総合評価で4.2を、各項目でも4.4以上の評価を得ることが出来た。コメント欄からも理論と実践が前後半で配置され体系的に学ぶことができた点や、難しいながらも最終的には各学生が自らの力で統計的な処理ができるように授業が構成されている点などが高く評価された。ただし、1名ほど評価点が低い者もいた。受講生の知識には大きな差があり、統計実習の際には上級生をTAとして配置するなどの配慮を行ったが、十分に補えなかったものと予測される。次年度はより個別のサポートができるよう、つとめたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 臨床人間関係(知的障害・肢体不自由・病弱・視覚障害・聴覚障害)

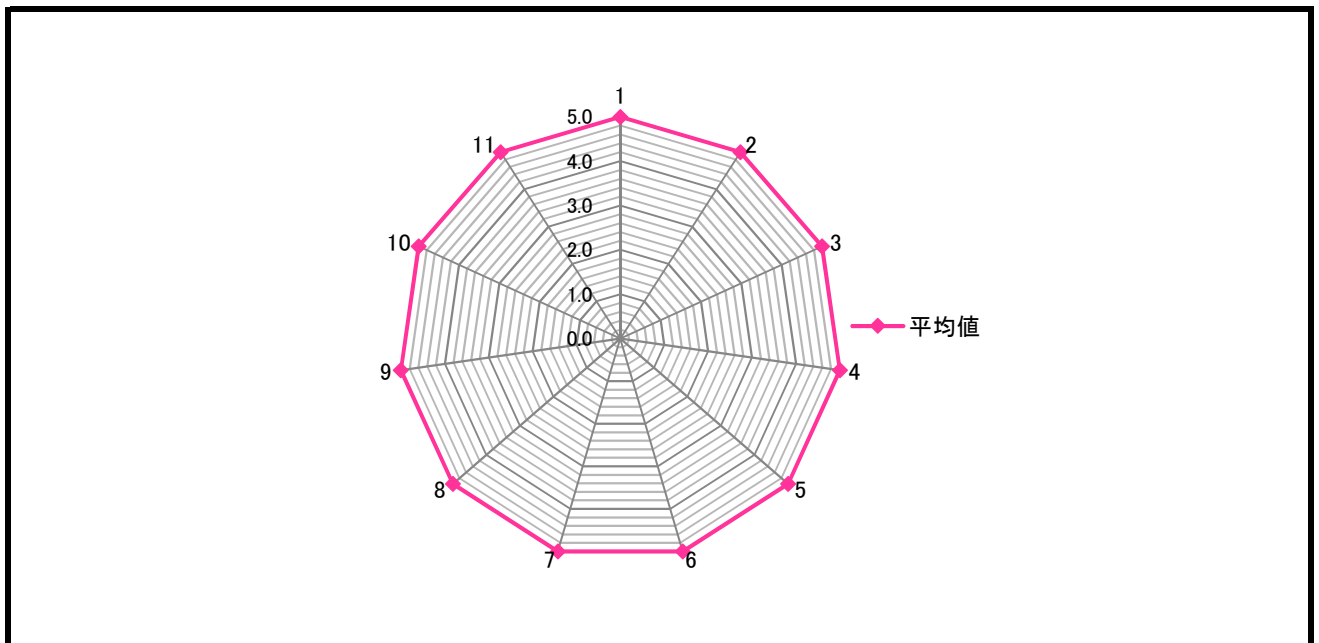
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 高橋真琴

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	9					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



教員のコメント

受講生は、個々の研究関心に沿って熱心に授業に取り組み課題等も期限内に提出していた。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 生理心理学

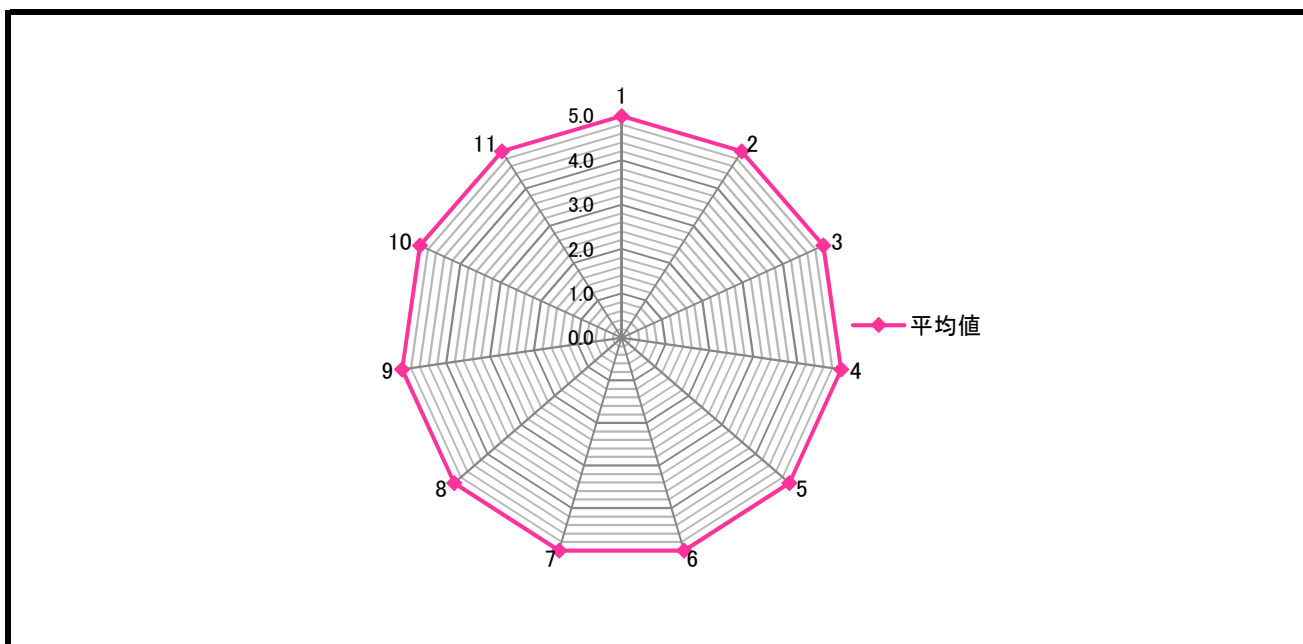
評価実施日 令和3年7月30日

担当教員名 田中淳一

回答者数 8 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

対面授業とMoodleやその他のオンライン教材を併用しての実施であったが、受講者がしっかりと課題に取り組んでくれたこともあり、授業のねらいは達成することができた。アクティブ・ラーニングをどのようにオンライン環境の中でも進めていくかが今後の課題とである。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 障害心理学研究方法演習

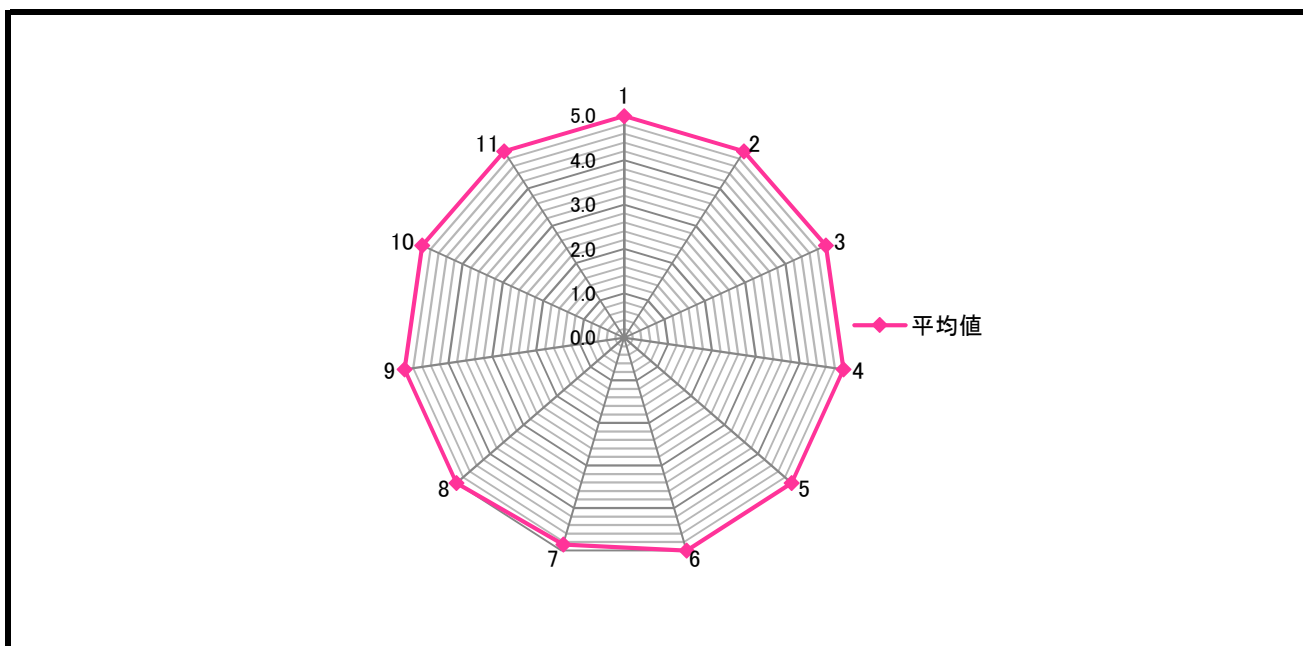
評価実施日 令和4年2月9日

担当教員名 田中淳一, 高橋眞琴

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は, この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4) 授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが, 実施されていた。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は, 適切であった。	7					5.0
	(6) 授業の進む速さは, 適切であった。	7					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は, 適切であった。	7					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は, 適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると, よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

対面授業とMoodleやその他のオンライン教材を併用しての実施であったが, 受講者が熱心に課題に取り組んだことから, 授業の目標を達成することができた。アクティブ・ラーニングをどのようにオンライン環境の中でも進めていくかが今後の課題とである。また, 学びのモチベーションを高めるための工夫を考えている。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 障害臨床学特論

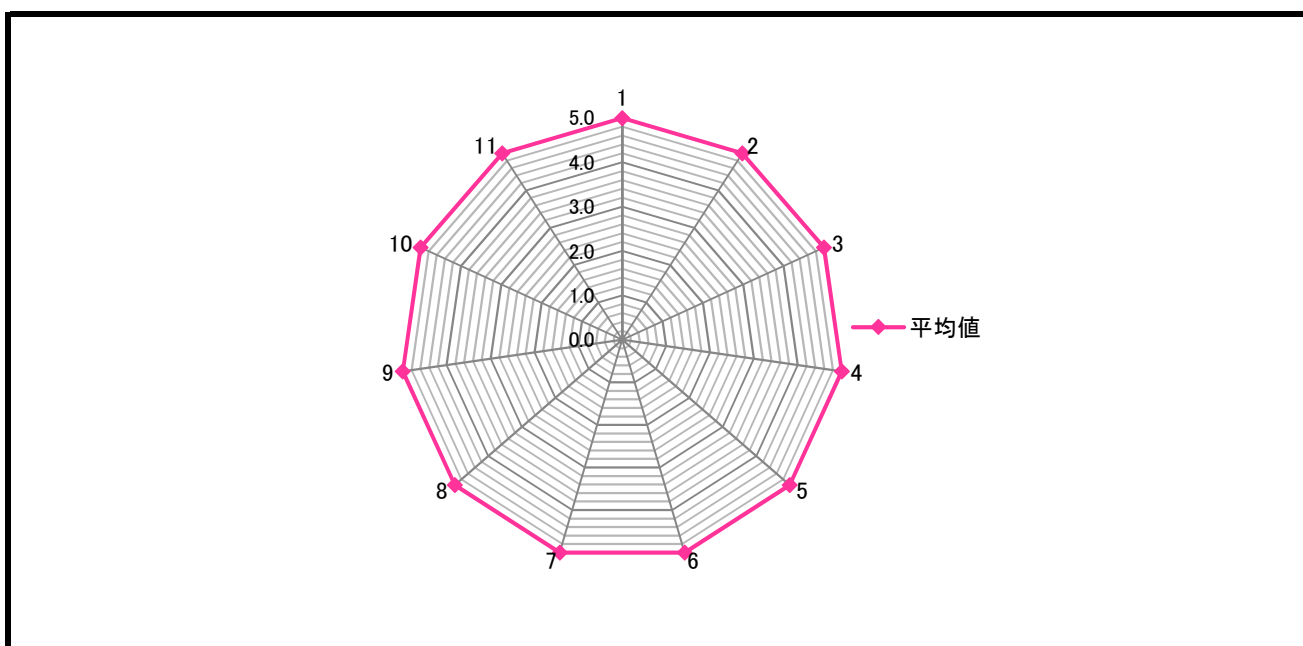
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 田中淳一, 高橋眞琴

回答者数 8 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

対面授業とMoodleやその他のオンライン教材を併用しての実施であったが、受講者が熱心に課題に取り組んでおり、授業の目標を達成することができた。アクティブ・ラーニングをどのようにオンライン環境の中でも進めていくかが今後の課題とである。また、学びのモチベーションを高めるための工夫が大切と感じている。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 障害発達支援国際比較研究

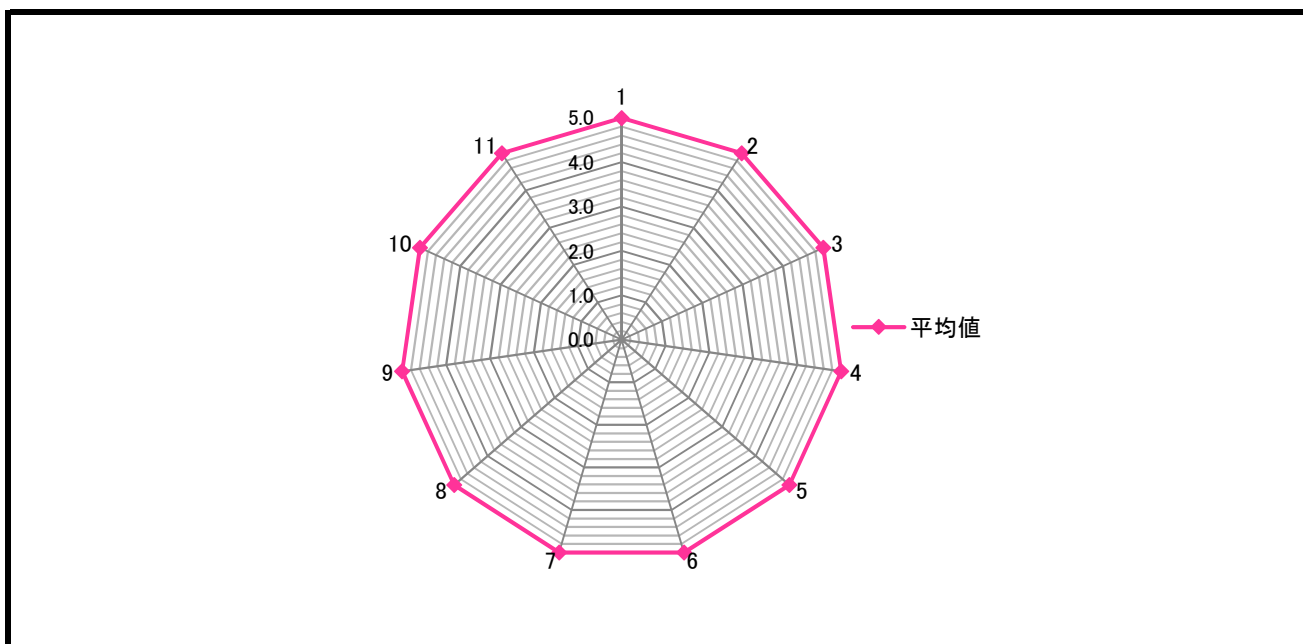
評価実施日 令和3年8月4日

担当教員名 田中淳一, 高橋眞琴

回答者数 4 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

対面授業とMoodleやその他のオンライン教材を併用しての実施であったが、受講者が熱心に課題に取り組んだことから、授業の目標を達成することができた。アクティブ・ラーニングをどのようにオンライン環境の中でも進めていくかが今後の課題とである。また、学びのモチベーションを高めるための工夫が大切と感じている。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 社会認識の方法

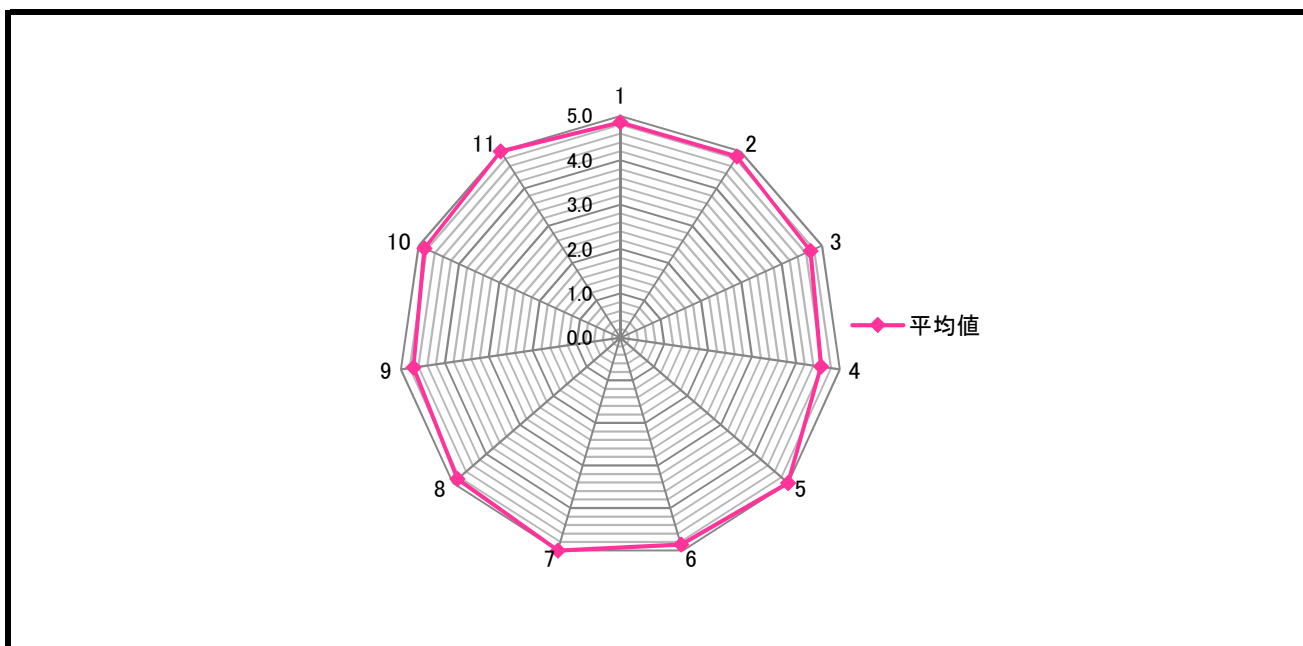
評価実施日 令和3年7月29日

担当教員名 山本準

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5	2				4.7
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

学生たちからおおむね高評価を受けた。総合評価ですべての受講生が5点を付けてくれていた。アクティブラーニングに関して一部改善の余地があったのかもしれない。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 社会分析の実践

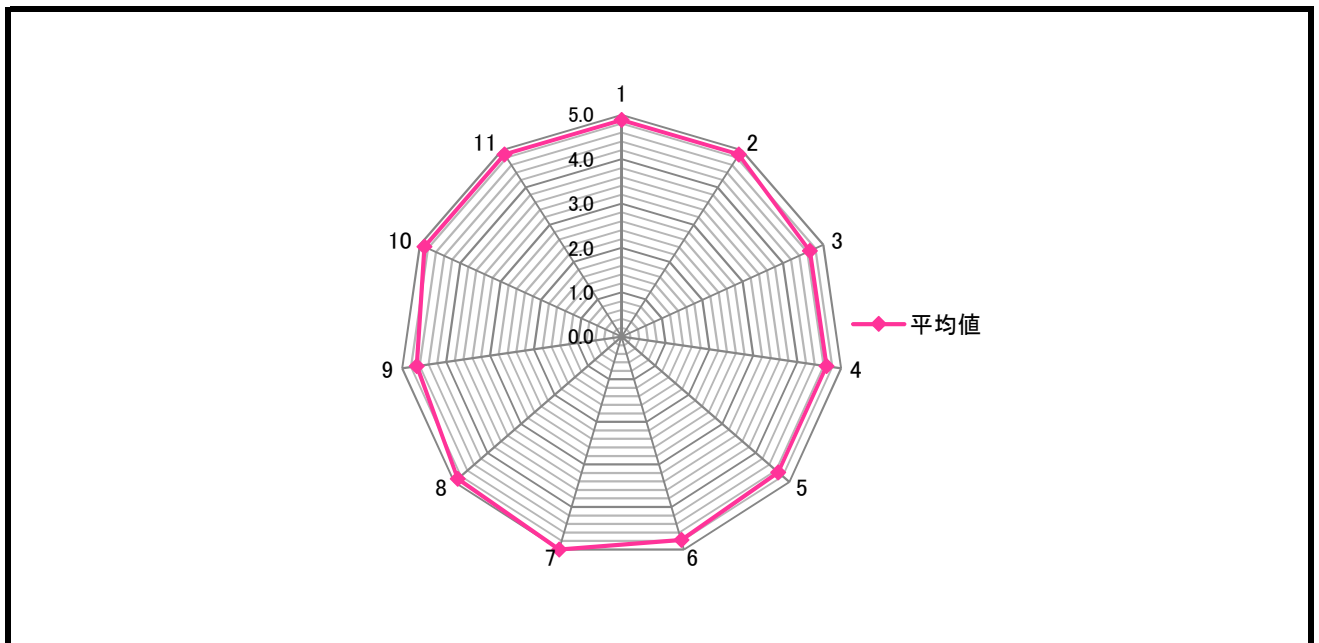
評価実施日 令和3年7月29日

担当教員名 山本準

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	3				4.7
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	3				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3				4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



教員のコメント

「社会分析の実践」の授業に対し、総合評価で5が8人、4が1人、平均で4.9となった。おおむね学生から高い評価を受けたように思う。すべての項目で、3点以下はなく、4または5点であったことを見ればバランスよく授業できたものと思われる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 現代の子どもと学校教育

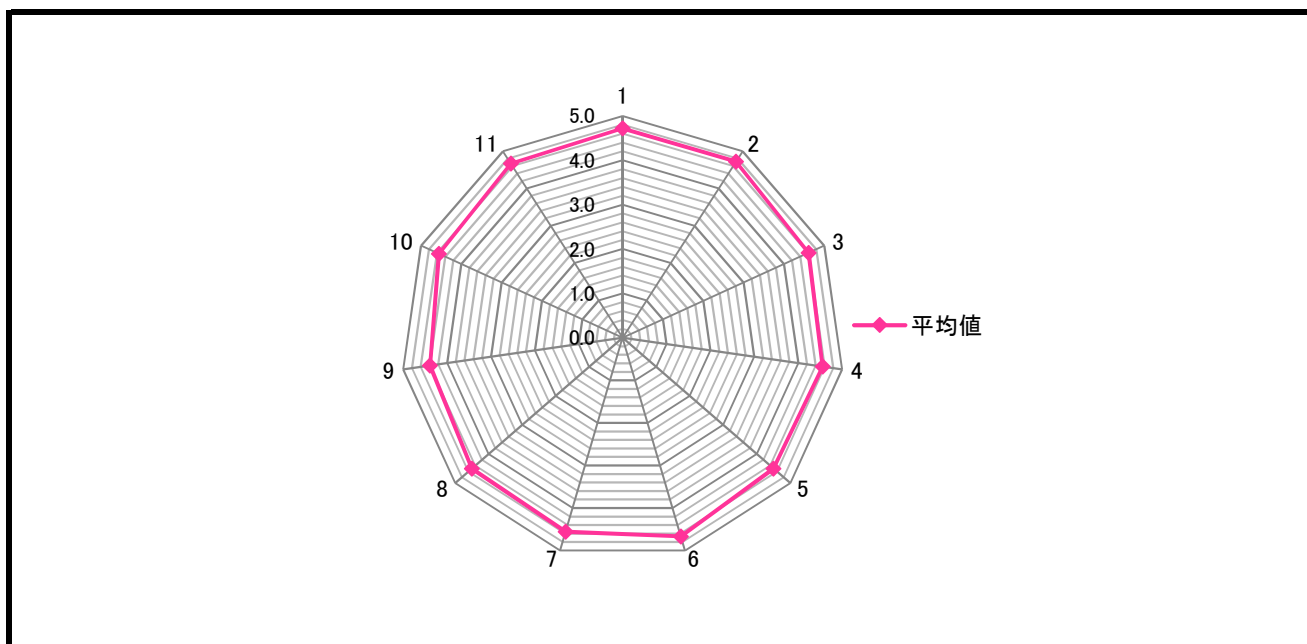
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 谷村千絵

回答者数 18 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	5				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	5				4.7
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	7				4.6
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	12	4	2			4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	5	2			4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	12	6				4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	12	5		1		4.6
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11	5	2			4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	7	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	6	1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	6				4.7



教員のコメント

概ねよい評価となっているが、説明のわかりやすさについて「2」と答えた学生が1名いた。自由記述を確認すると、積極的に授業には参加していたようで、興味関心も高かったことが伺える。大学院の専門授業なので学術用語も用いるが、今後も分かりやすい説明を心がけたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 現代教育人間論

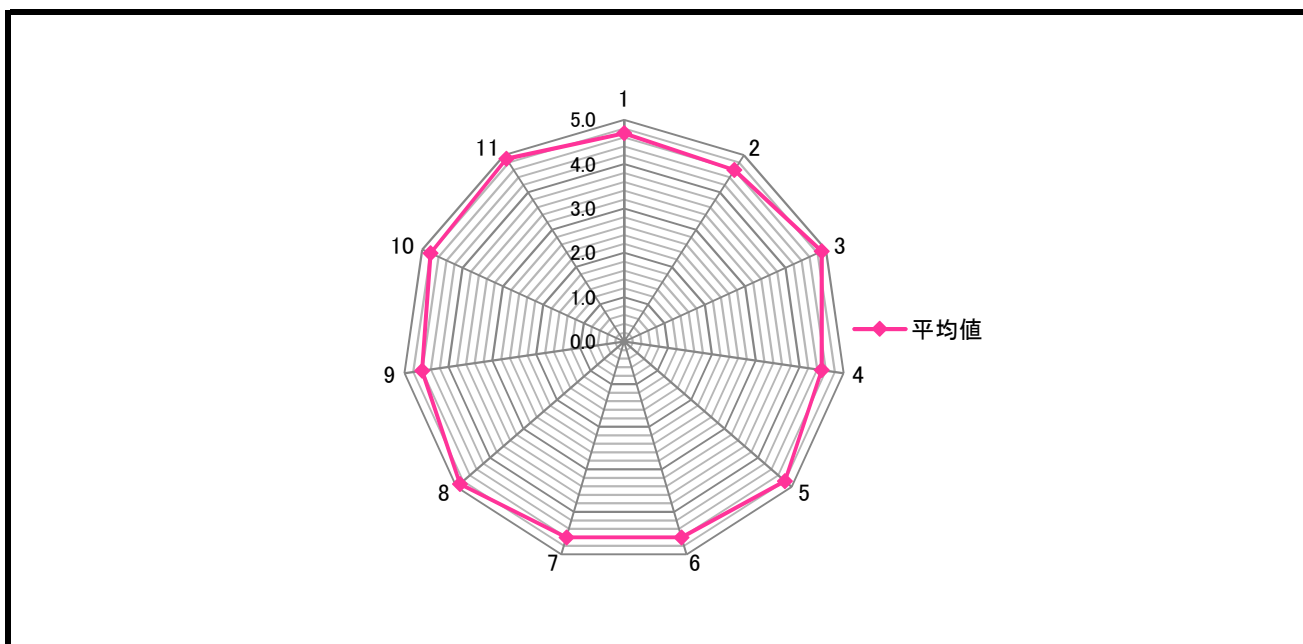
評価実施日 令和4年2月7日

担当教員名 谷村千絵, 太田直也

回答者数 10 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4				4.6
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	3	1			4.5
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	4				4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7	2	1			4.6
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



教員のコメント

概ねよい評価であった。太田先生とのフリートークの教育座談会は、学生に好評であった。5時間目の授業で、盛り上がりすぎて延長してしまうことがあったので、タイムマネジメントに気をつけたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 コミュニケーションと環境

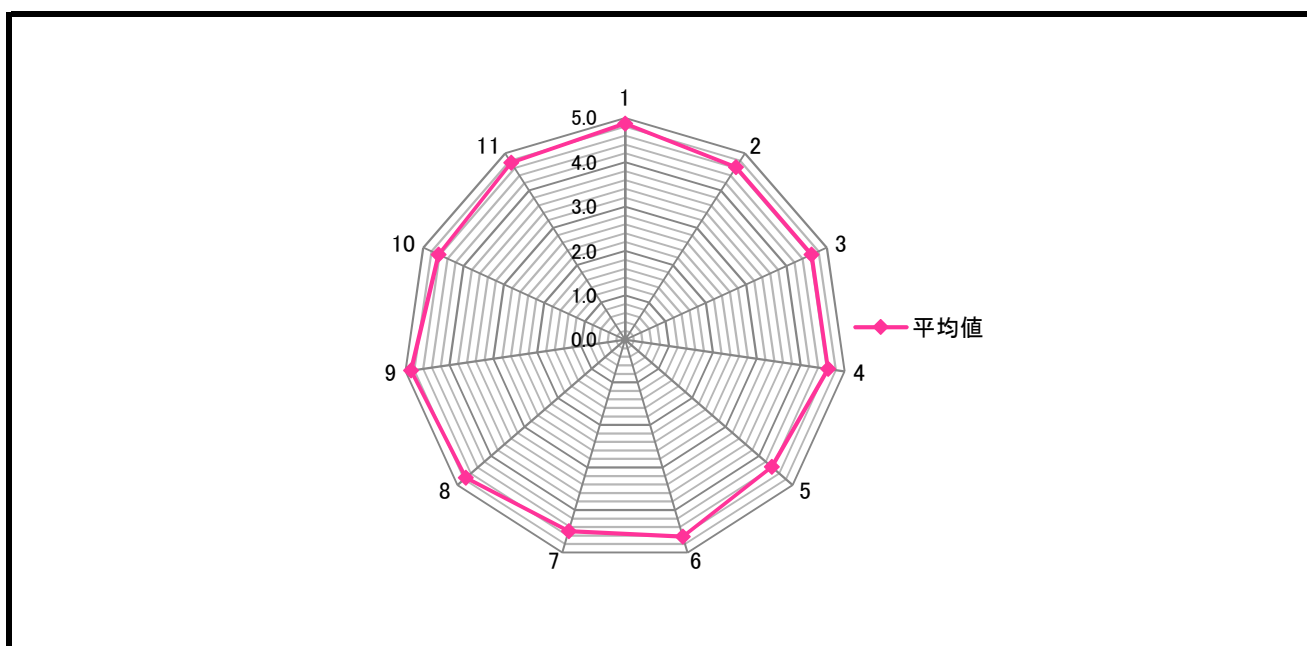
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 金野誠志, 谷村千絵

回答者数 8 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1	1			4.6
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	1	1			4.6
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2		1		4.4
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	1	1			4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	6	1		1		4.5
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1	1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7		1			4.8



教員のコメント

授業の内容は、科研費研究の成果を還元したもので、受講者にとっても、内容・方法的に刺激的で意義深いものであったと考える。一方で、レディネスの低い受講者にとっては、敷居が高かったかもしれない。しかし、大学院の修士課程での授業という性格からして、今後も、質の維持はしていきたい。そのためには、受講者、特に、レディネスの低い受講者には、事前の予習や復習などなど主体的な参加を希望する。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 環境と文化

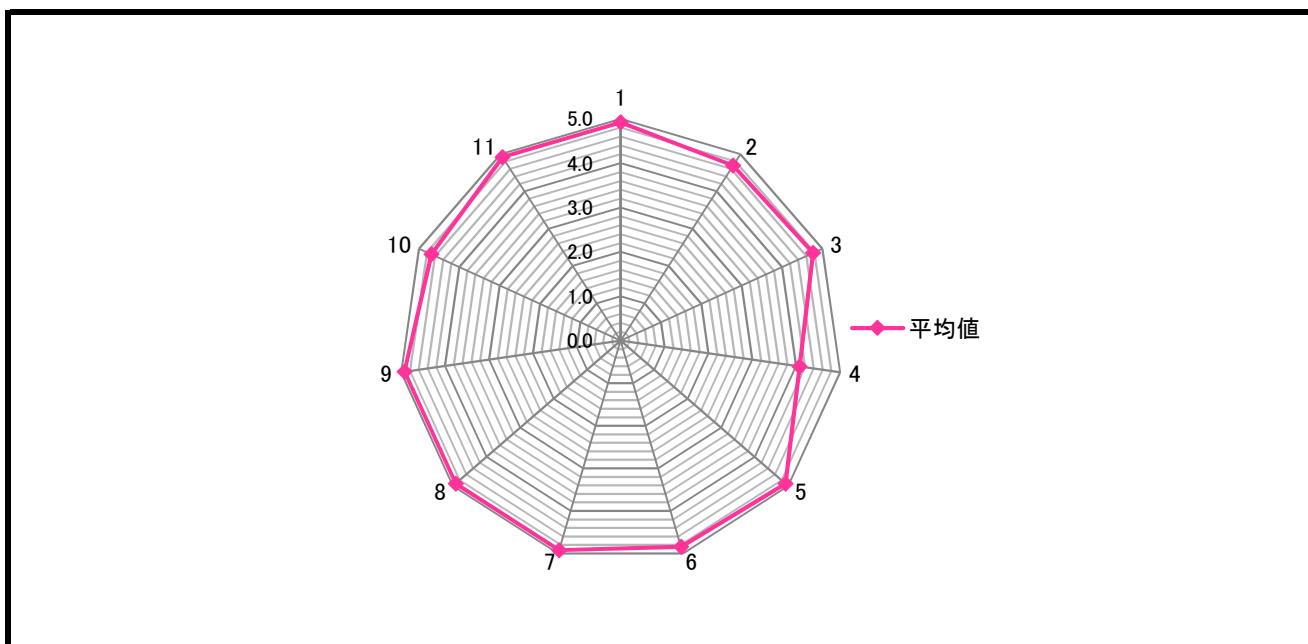
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 田村和之

回答者数 13 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	4				4.7
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10	3				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8		4		1	4.1
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	12		1			4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	12	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	12	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	2	1			4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	1				4.9



教員のコメント

本授業では基本的に環境に関する別々の15テーマを各1回の講義として行っている。そのため、演習型というよりは講義型の授業となっているため、どうしてもアクティブラーニングの要素が少なくなってしまう。また、90分で1テーマを扱うため、各講義において内容に多少の濃淡が出てしまい、結果として授業の進む速さに影響が出たものとする。しかし、全体としては非常に学生に好印象を持ってもらえる授業であったと思われる。授業の性質上、どうしてもアクティブラーニングの印象は少ないものになってしまうが、今後も継続して（来年度からは修士課程「地球環境」として）授業を行なっていきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 文化とコミュニケーション

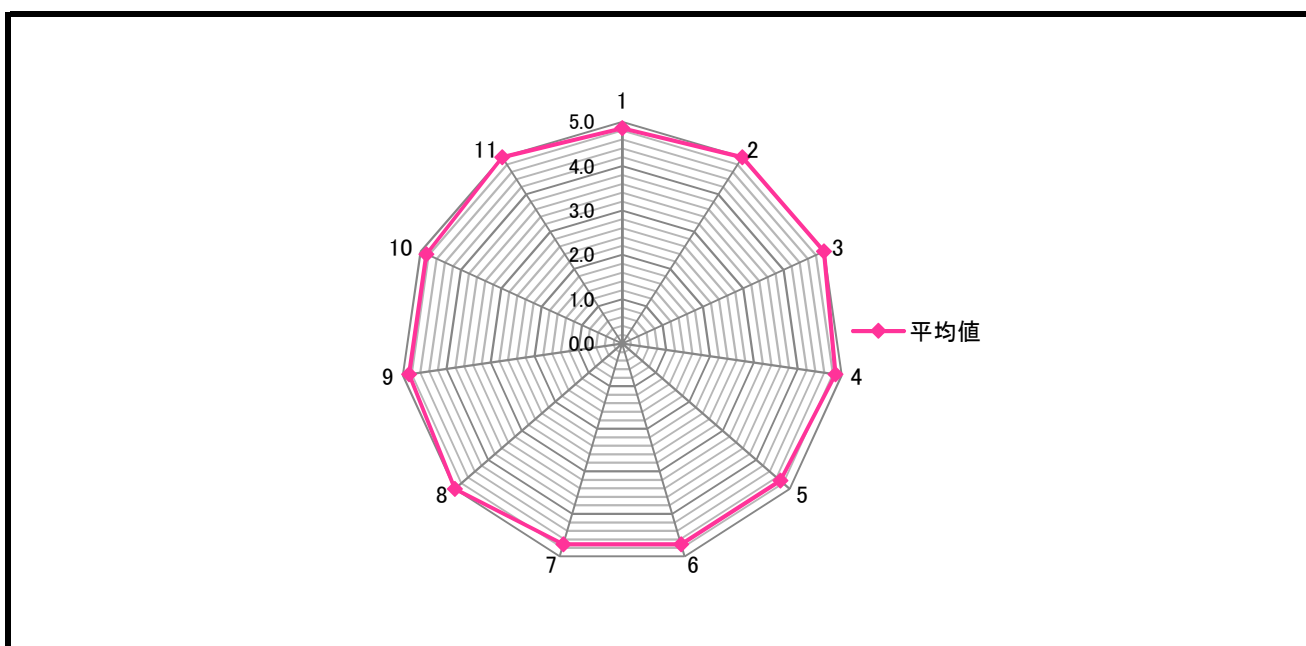
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 金野誠志, 太田直也

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

受講生の対話を促進する授業を終始展開した。文化の構築性を基盤に、受講者の常識をくつがえしつつ、批判的に社会事象を考察する方法が良かったと考える。今後も、このような授業を展開していくことが必要だと考える。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 人間と文化 I

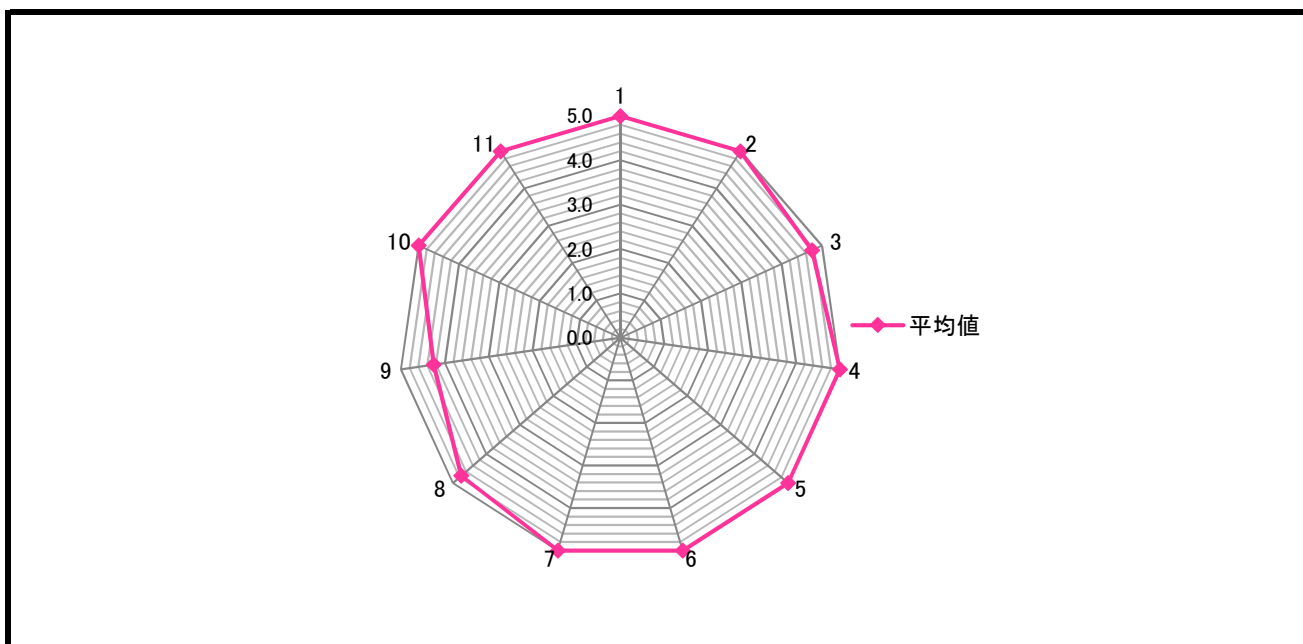
評価実施日 令和3年7月30日

担当教員名 金野誠志, 太田直也

回答者数 4 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

研究の基本となる論文の要約と解釈の仕方を学ぶ授業であった。全ての受講者が、授業内で要約した論文の内容を発表し、それぞれの考えを発言していくということは、受講者の予習を必要とする。この点が、好意的に受け入れられる受講生が多かったと考える。積極的に予習してきたいと思うことが出来るような授業を今後も展開していきたい。

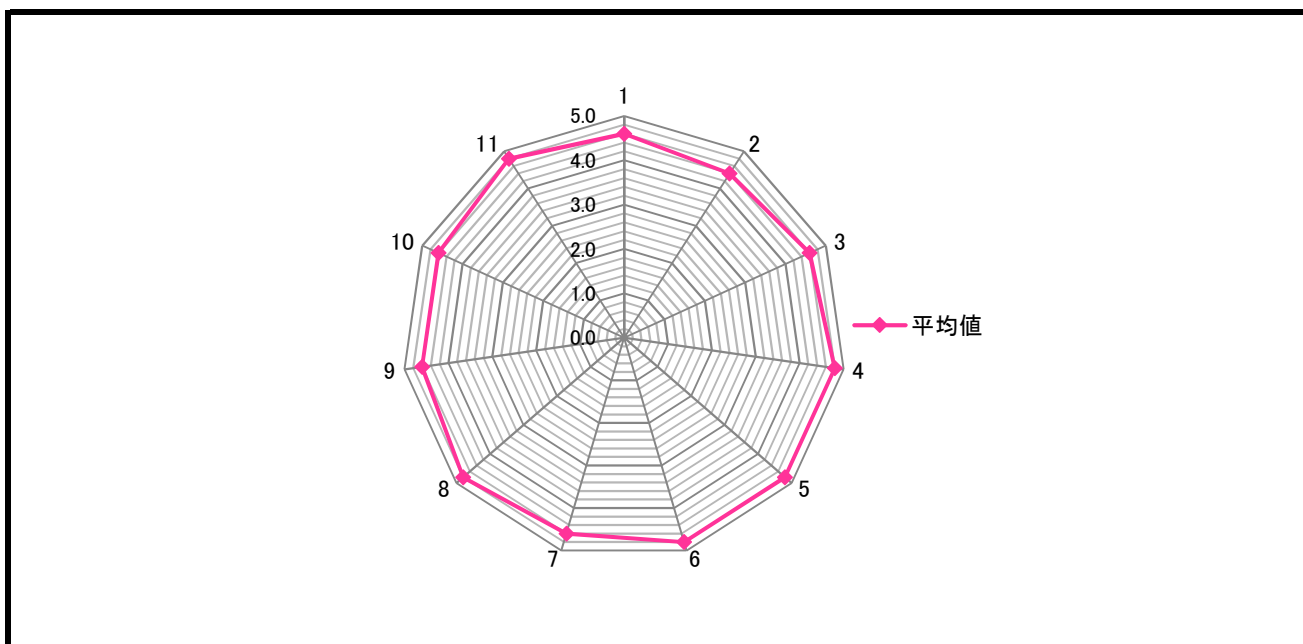
令和3年度 結果報告書

授業科目名 人間と文化Ⅱ
 評価実施日 令和3年7月30日
 担当教員名 太田直也

回答者数 5 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	1			4.4
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

高い評価をいただき感謝いたします。演習形式の授業ですので、この授業評価は授業担当者よりも受講者の方々の努力あってのものと考えます。
 授業担当者としては十分な準備をして授業に臨んだつもりですが、「井戸」のことなど、計画通りにできないこともありました。この点に関してはお詫び申し上げます。また、大きな文化論から始め、小さな地域の文化事象を確認し、大きな文化論に再帰することを考えていましたが、脱構築的試みは不十分であったように思われます。次年度の課題としたいと思います。

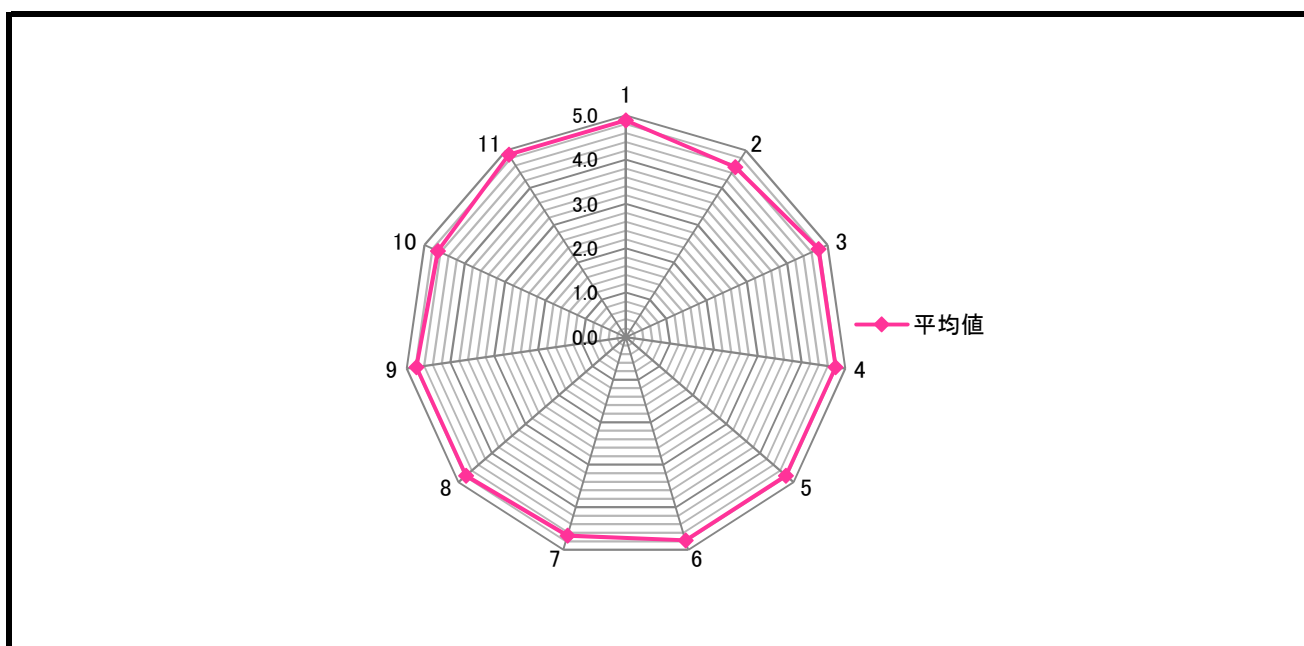
令和3年度 結果報告書

授業科目名 人間と環境 I
 評価実施日 令和4年2月9日
 担当教員名 田村和之

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4				4.6
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	8		1			4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7	1	1			4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7	2				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8		1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	1			4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



教員のコメント

「人間と環境 I」の授業では学生に親しみがある様々な特産品・伝統工芸・建築物などを環境教育/ESDの教材としてどのように使っていくか、ということを各学生に発表してもらい、その後全員で質疑応答・ディスカッションをしていく形の授業をとっている。
 ただし、発表回数は受講生全体の人数に左右され、発表時間やディスカッションの時間は学生の発表スキル・ディスカッションスキルに左右される部分大きい。
 また、本来であれば、前期に「環境と文化」の授業を受講してからこの授業を受講して欲しいところであるが、「環境と文化」を受講せずに「人間と環境 I」が初めての環境教育/ESD関係の授業となる学生や事前のESDについての知識も個人差が非常に大きいことから、全員が満足できる授業に作り上げることは非常に難しい。
 しかし、全体的に見れば、学生に「物事を考えるための新しい視点」がある、ということをお教えることができ、非常にやりがいのある授業であった。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 人間と環境Ⅱ

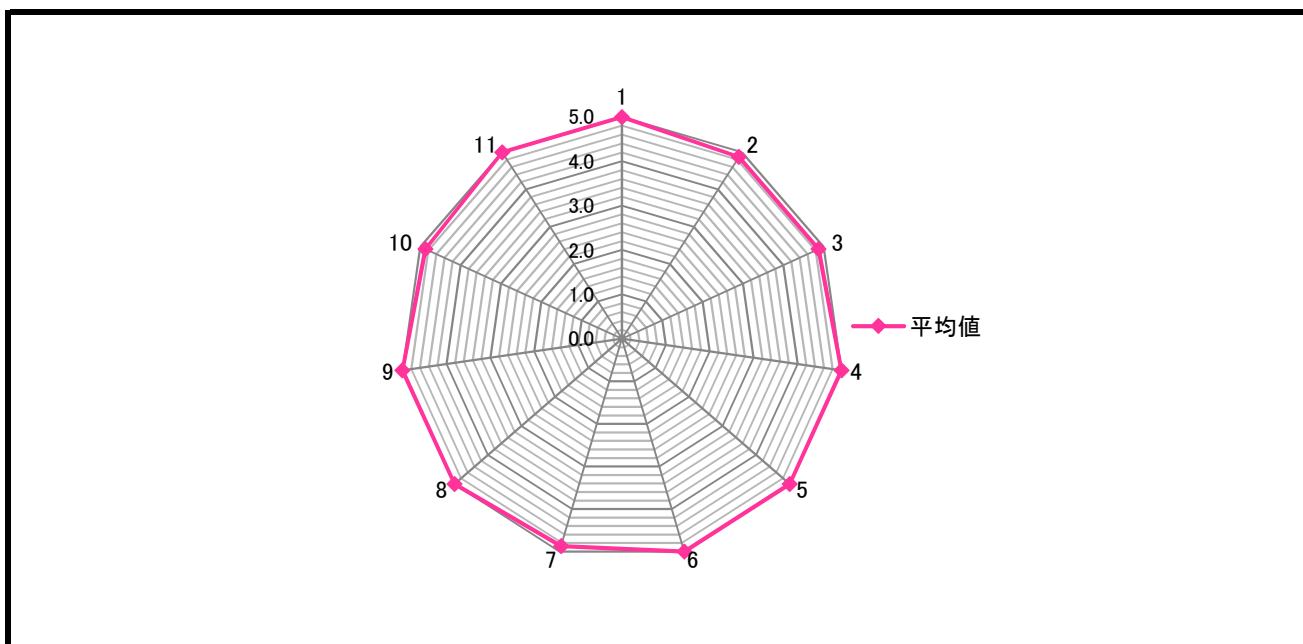
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 田村和之

回答者数 8 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

「人間と環境Ⅱ」の授業は前期に行われるため、環境教育/ESDにここで初めて触れる学生もいるが、昨年度から最初の数回の授業を環境教育/ESD/SDGsに関する論文や資料をしっかりと読み、レポート形式で提出してもらっている。その効果もあり、実際に環境教育/ESDの授業実践についてのディスカッションやシステム思考を用いてさらにその授業を改善していく演習を行うにあたって、学生に十分な基礎知識が備わっていることが見て取れた。結果として授業全体の満足度も上がっており、学生にとっても非常に有意義な授業であったと思われる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーション I

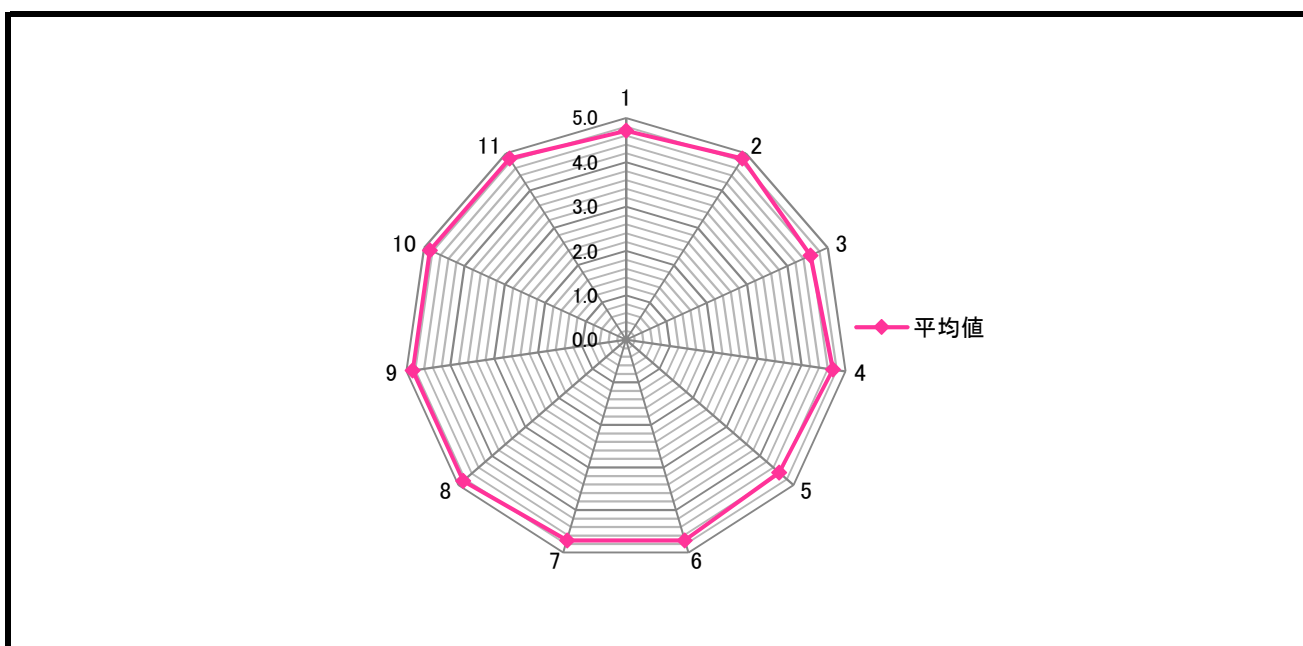
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 谷村千絵, 金野誠志

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	3				4.6
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5	2				4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	1			4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

哲学対話の実践を行なった。概ねよい評価がされている。留学生も多い授業であったが、積極的な参加がみられた。オンライン実施など、試行錯誤しながらの展開もあったが、参加者全員で思考を深めることができたように思われる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅡ

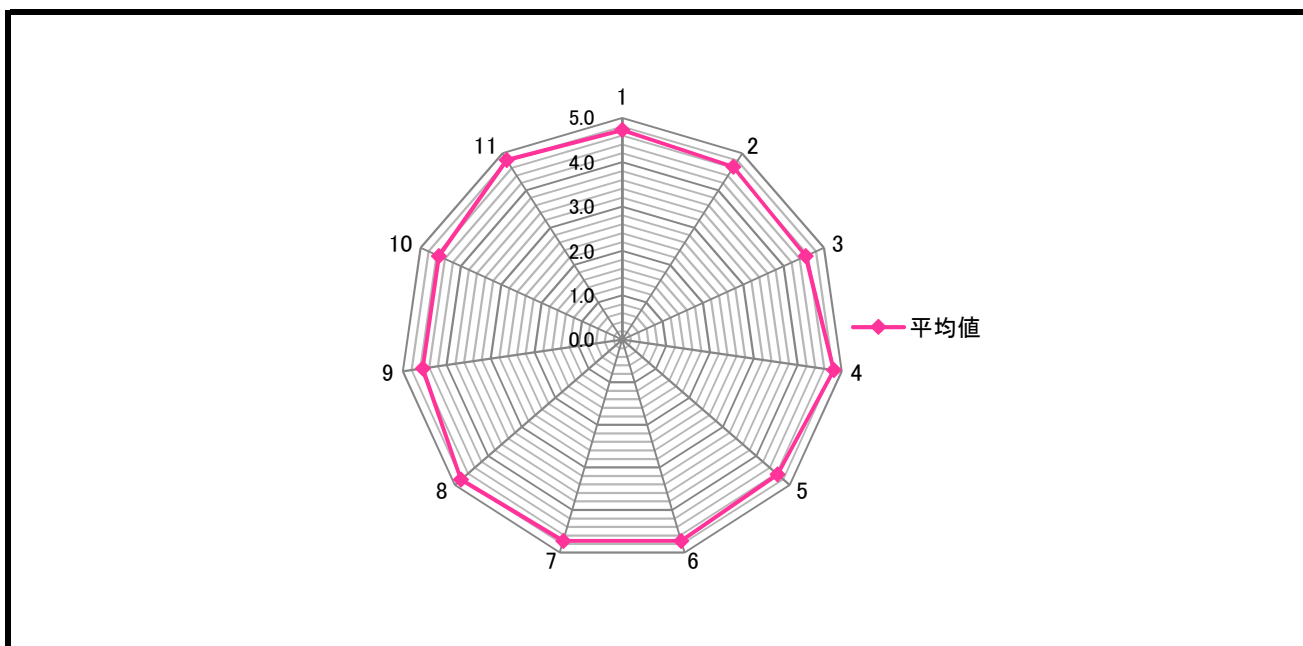
評価実施日 令和4年2月3日

担当教員名 谷村千絵, 金野誠志

回答者数 11 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4				4.6
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	5				4.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	4				4.6
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	8	3				4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8	3				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5				4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	2				4.8



教員のコメント

概ねよい評価であった。自由記述に、オンライン授業に変わった際の連絡がなかったとの記載があったが、Teamsでの通知状況を授業者が理解できていなかったためである。今後は、全員に通知がいくよう、ライブキャンパスでも通知するなど、周知について徹底したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育人間論

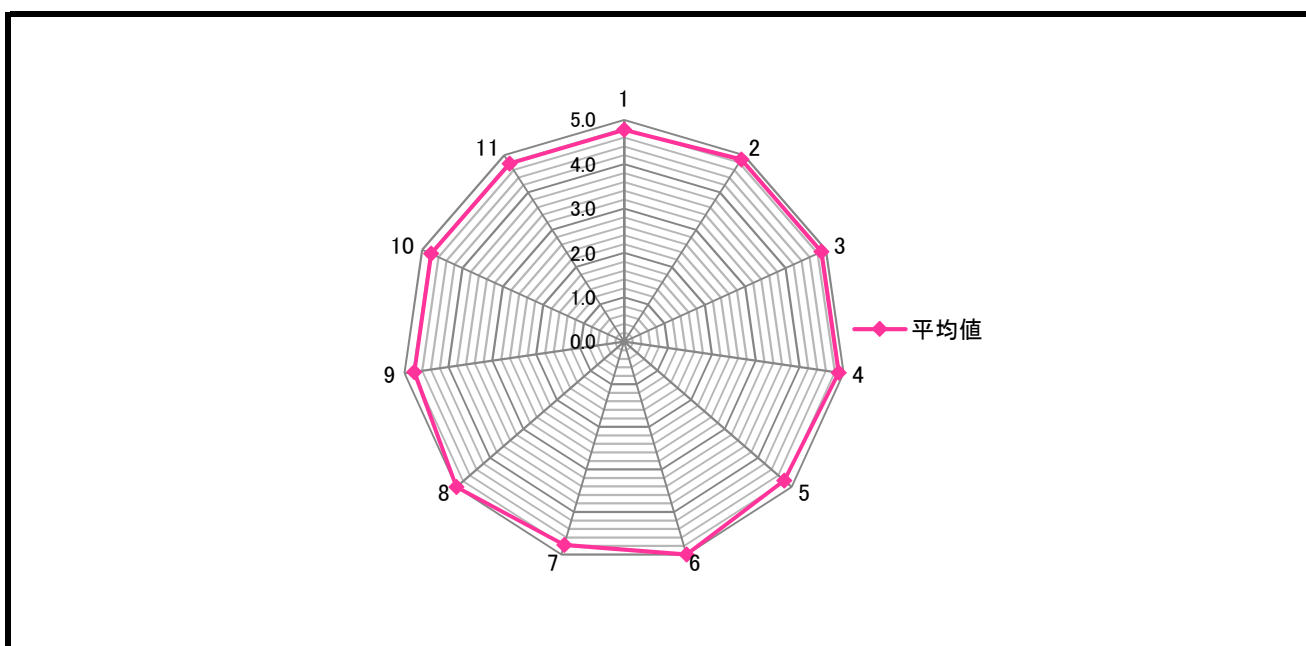
評価実施日 令和3年7月30日

担当教員名 石村雅雄, 小澤大成, 石坂広樹, 日下智志

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7	2				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



教員のコメント

この授業は、4人の教員によるリレー形式を採り、かつ、全体の最後に2回にわたる教員側総括、学生側総括を組み合わせ、それが非常にうまくいったものとする。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 教育研究・調査

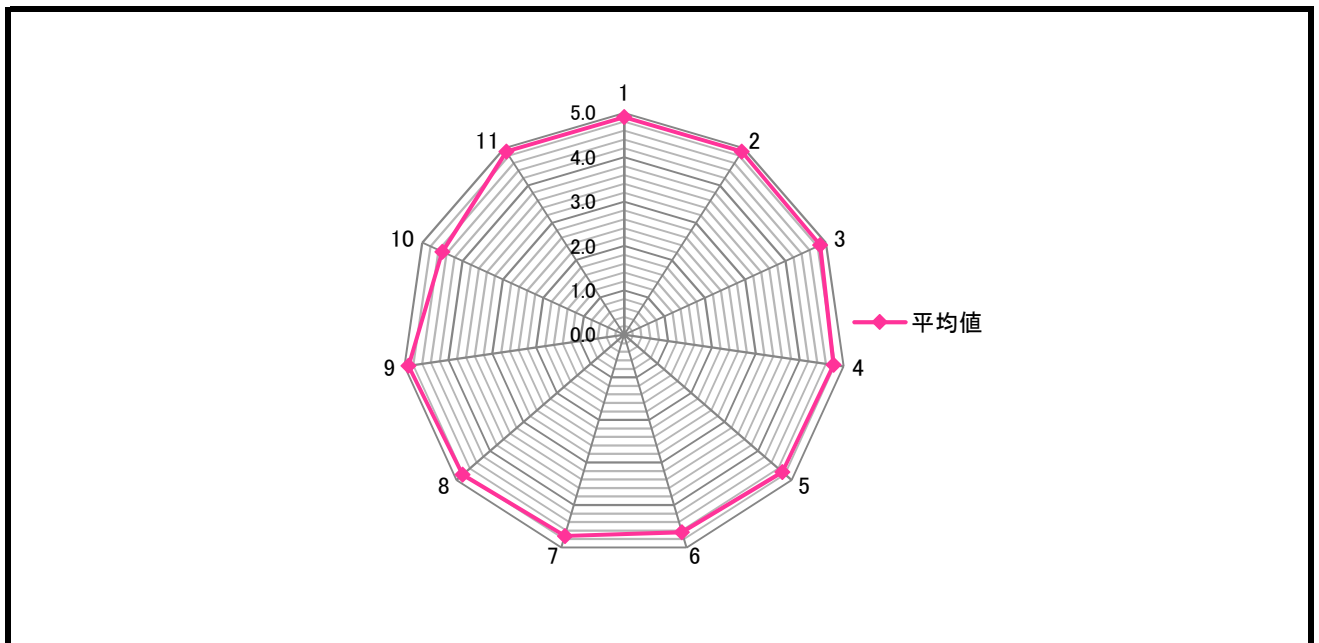
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 石坂広樹, 小澤大成

回答者数 22 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は, この授業を適切に表現していた。	20	2				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	2				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	19	3				4.9
	(4) 授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが, 実施されていた。	17	5				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は, 適切であった。	16	6				4.7
	(6) 授業の進む速さは, 適切であった。	17	3	1	1		4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	17	4	1			4.7
	(8) 教科書や配布された資料は, 適切であった。	18	4				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は, 適切であった。	21		1			4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	5	1		1	4.5
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると, よかったと思う。	20	2				4.9



教員のコメント

補習も7コマほど追加して実施した成果もあり概ね良好な評価を得られたものと思われま。一部、オンラインでの学習の難しさや、統計が苦手な学生から低い評価が見られた。より丁寧な指導を心掛けたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育協力研究

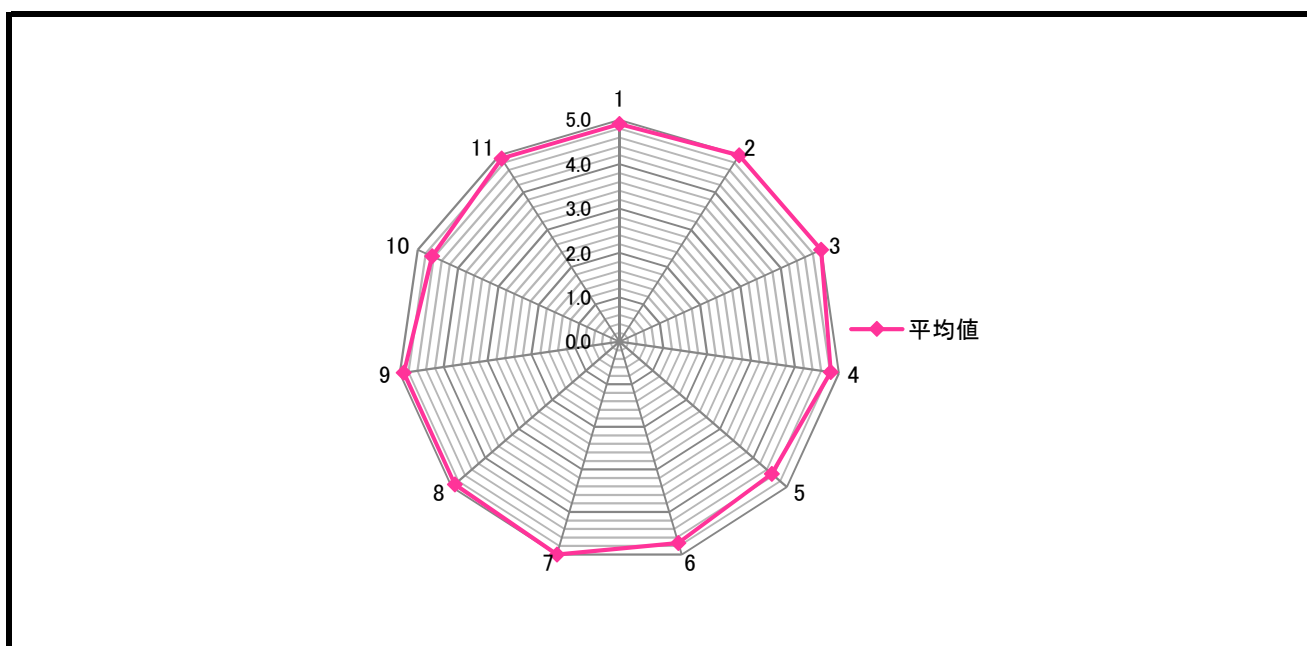
評価実施日 令和3年8月31日

担当教員名 石坂広樹, 石村雅雄

回答者数 11 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	2				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1	2			4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9	1	1			4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	11					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2	1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



教員のコメント

参加したすべての学生が積極的に発言・議論したため、深い学びにつながる授業となった。その成果もあり、高評価を得られたものと考えられる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育協力特論 I

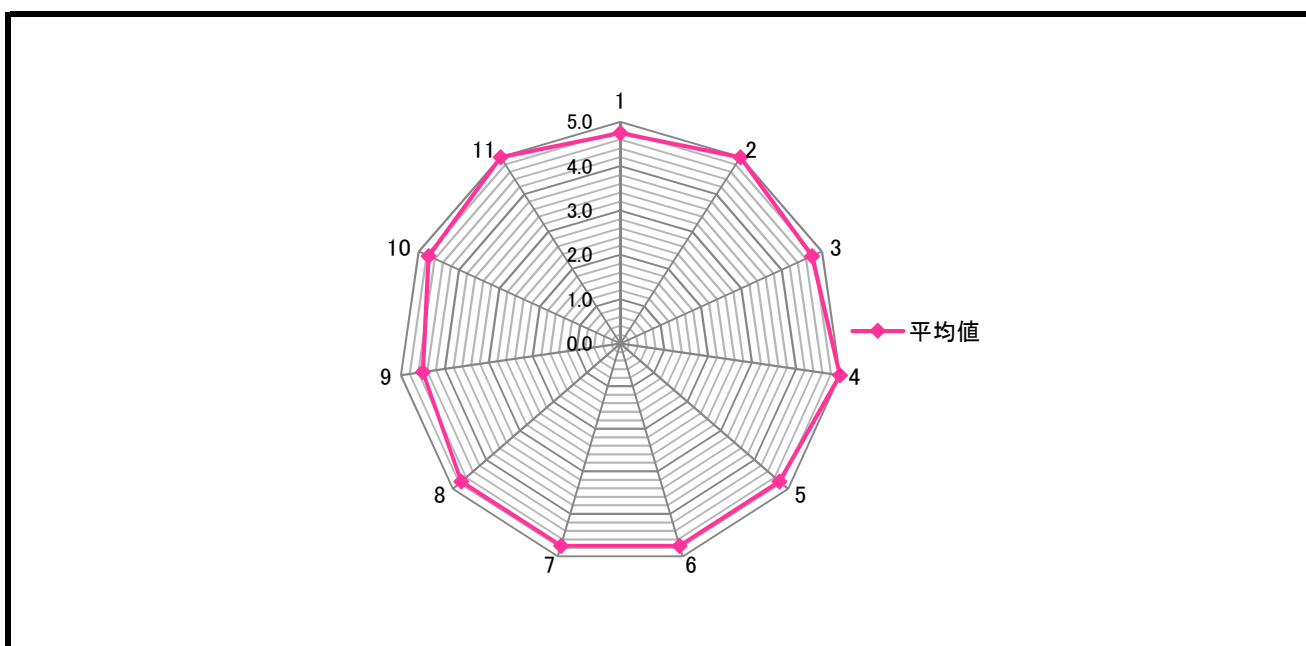
評価実施日 令和4年2月3日

担当教員名 石村雅雄, 石坂広樹

回答者数 4 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

学生のそれぞれの問題意識に対応した講義・学生による報告が基礎としてなされてものであり、それが上記の高評価を得たと考える。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育協力特論Ⅱ

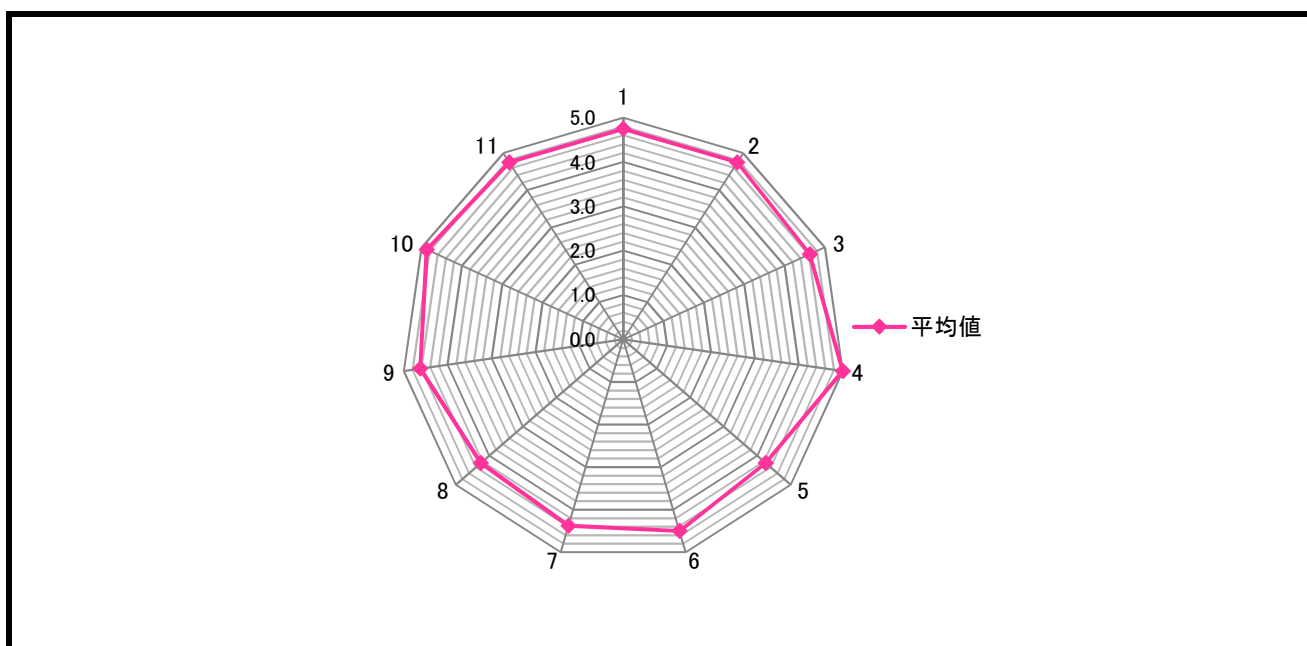
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 小澤大成, 石村雅雄

回答者数 8 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5	3				4.6
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2	2			4.3
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	1		1		4.5
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5	1	2			4.4
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2	2			4.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



教員のコメント

総合評価は4.8であり、おおむね高い評価を受けた。受講生は「留学生との議論で国際教育協力の真の意味を理解した」「グループでの授業研究ができた」とコメントしていた。改善点として「グループの人数をもっと減らしてほしい」という要望があった。次年度以降に考慮したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育授業開発

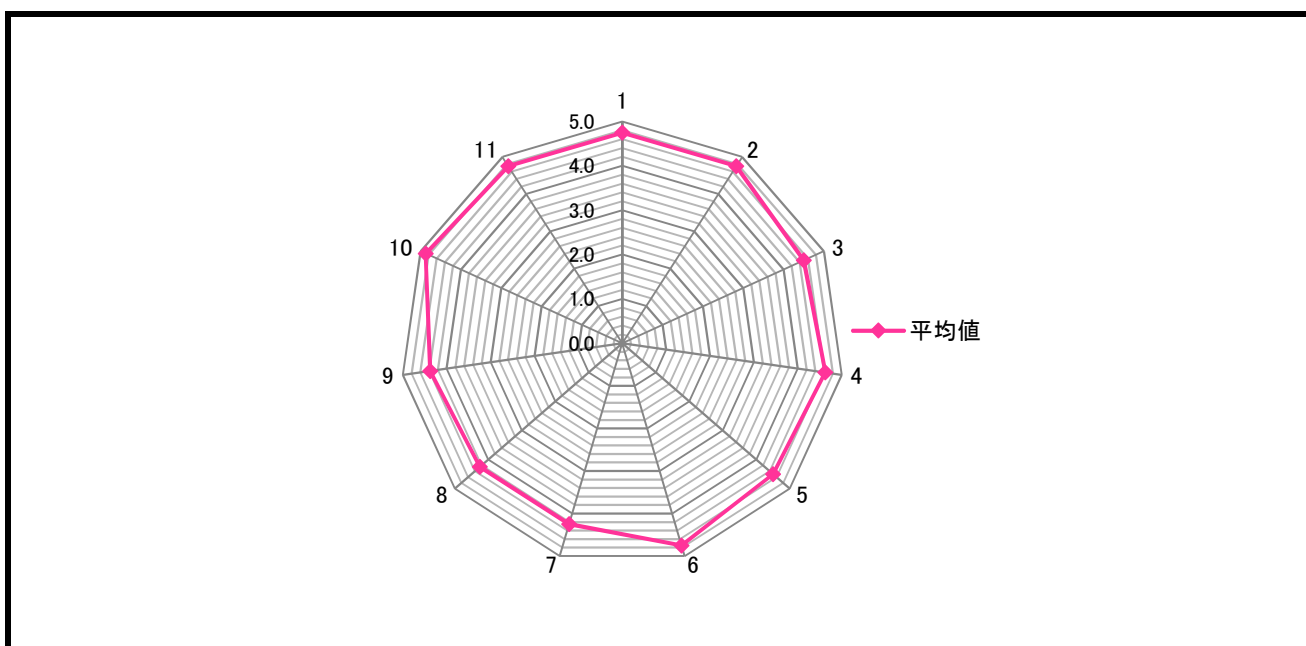
評価実施日 令和3年7月30日

担当教員名 小澤大成, 石坂広樹

回答者数 8 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7		1			4.8
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5	2	1			4.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6		2			4.5
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	6	2				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5		3			4.3
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5		3			4.3
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7		1			4.8



教員のコメント

総合評価は4.8であり、おおむね高い評価を受けた。様々な国の異なる教授アプローチ・教授戦略を学べたことが高評価につながっている。それぞれの発表者の時間管理を課題として指摘された。次年度以降に改善していきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育協力演習

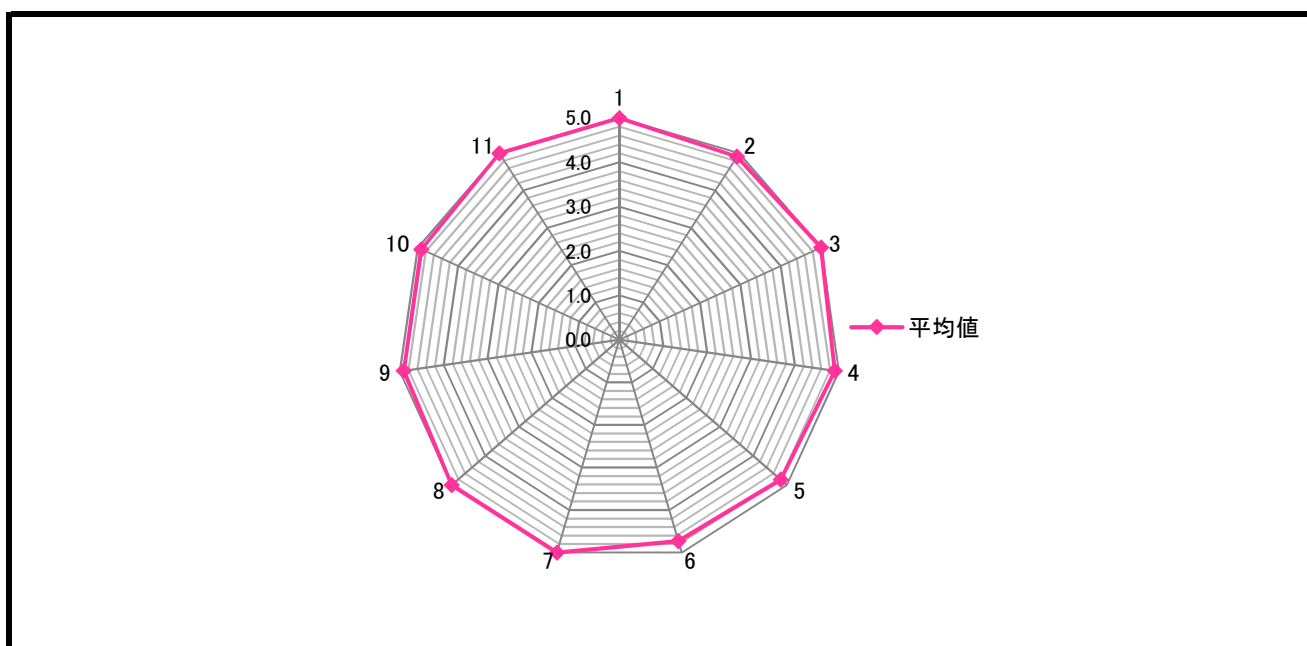
評価実施日 令和3年8月31日

担当教員名 石坂広樹, 小澤大成

回答者数 11 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10		1			4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9	1	1			4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	11					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11					5.0



教員のコメント

参加したすべての学生が積極的に発言・議論したため、深い学びにつながる授業となった。その成果もあり、高評価を得られたものと考えられる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナー I

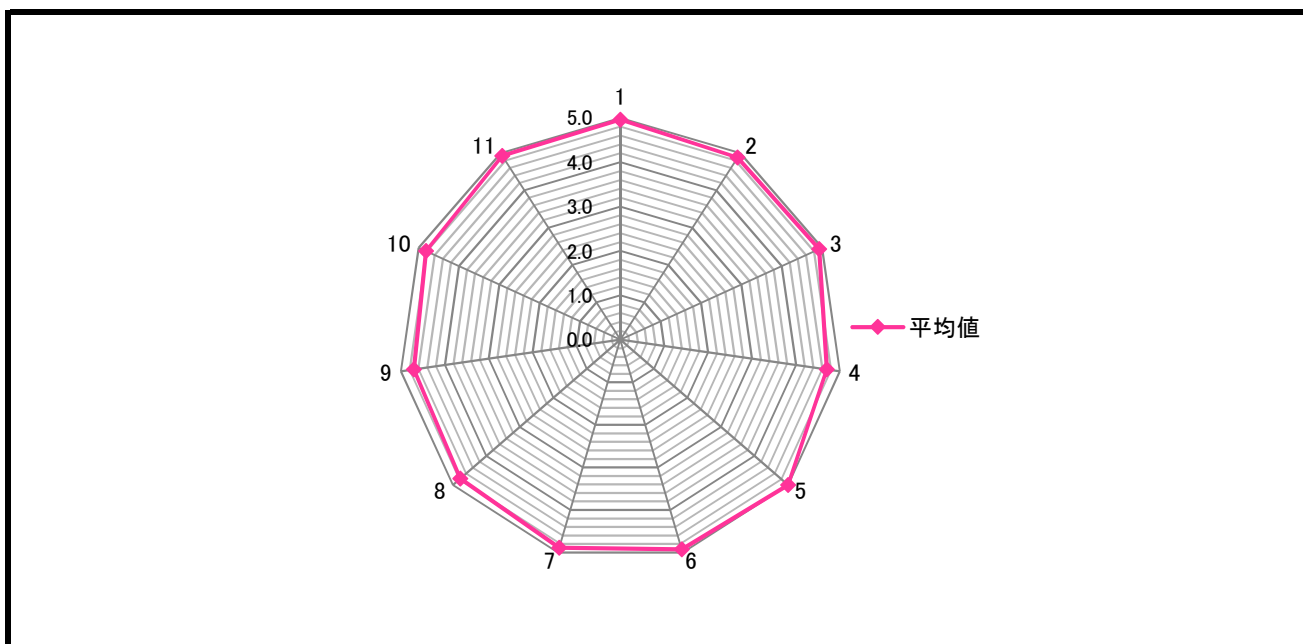
評価実施日 令和3年8月6日

担当教員名 石村雅雄, 小澤大成, 武田清, 石坂広樹, 日下智志, 童安佚

回答者数 27 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は, この授業を適切に表現していた。	26	1				5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	1	1			4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	25	2				4.9
	(4) 授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが, 実施されていた。	21	4	2			4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は, 適切であった。	27					5.0
	(6) 授業の進む速さは, 適切であった。	25	2				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	24	3				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は, 適切であった。	23	2	2			4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は, 適切であった。	22	2	3			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	3	1			4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると, よかったと思う。	25	2				4.9



教員のコメント

この授業は、学生の報告を基礎としてのものであり、学生たちの積極的な報告準備・参加が得られたこと、各教員もそれに対して、真摯な対応をしていたことがこの評価につながったものとする。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナーⅡ

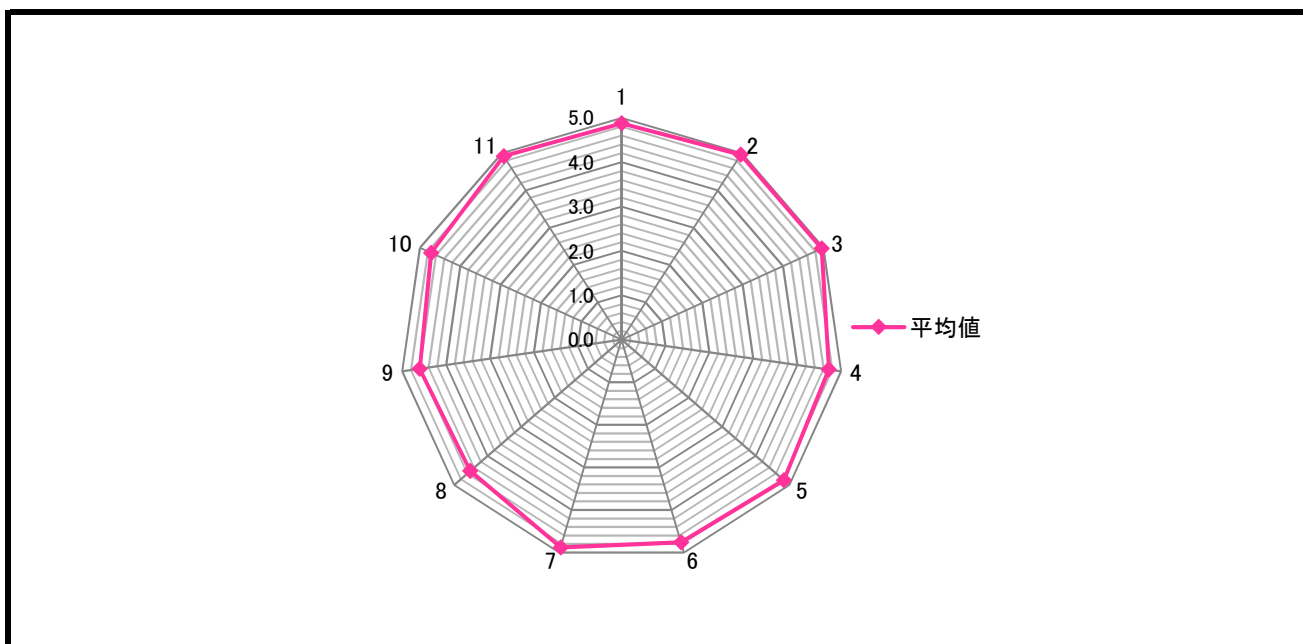
評価実施日 令和4年2月9日

担当教員名 石村雅雄, 小澤大成, 武田清, 石坂広樹, 日下智志, 童安佚

回答者数 25 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	22	3				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	24	1				5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	24	1				5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	19	5	1			4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	22	2	1			4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	20	4	1			4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	22	3				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	17	4	4			4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	18	5	1	1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	5	1			4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	2				4.9



教員のコメント

この授業は、学生の報告をベースとしてのものであり、学生の積極的な準備・参加が得られ、教員もそれぞれの報告に真摯に受け答えしていたところから、その延長上にこの評価が得られたと考える。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本型学校教育課程の特徴と展開

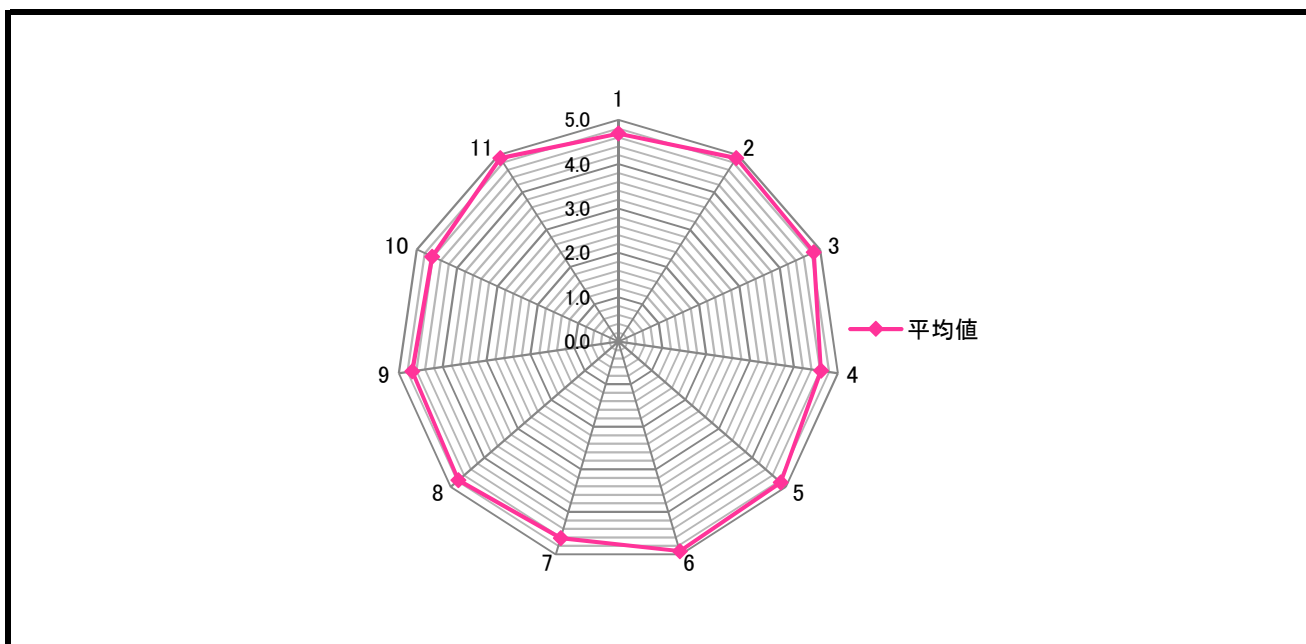
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 石村雅雄, 小澤大成, 石坂広樹

回答者数 13 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	2	1			4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	2				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	3	1			4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	12		1			4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	12	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	10	1	2			4.6
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10	3				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	2	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3	1			4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	1				4.9



教員のコメント

各担当教員が工夫して、うまく授業を展開しており、その通りの評価がなされていると考える。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育数学内容論

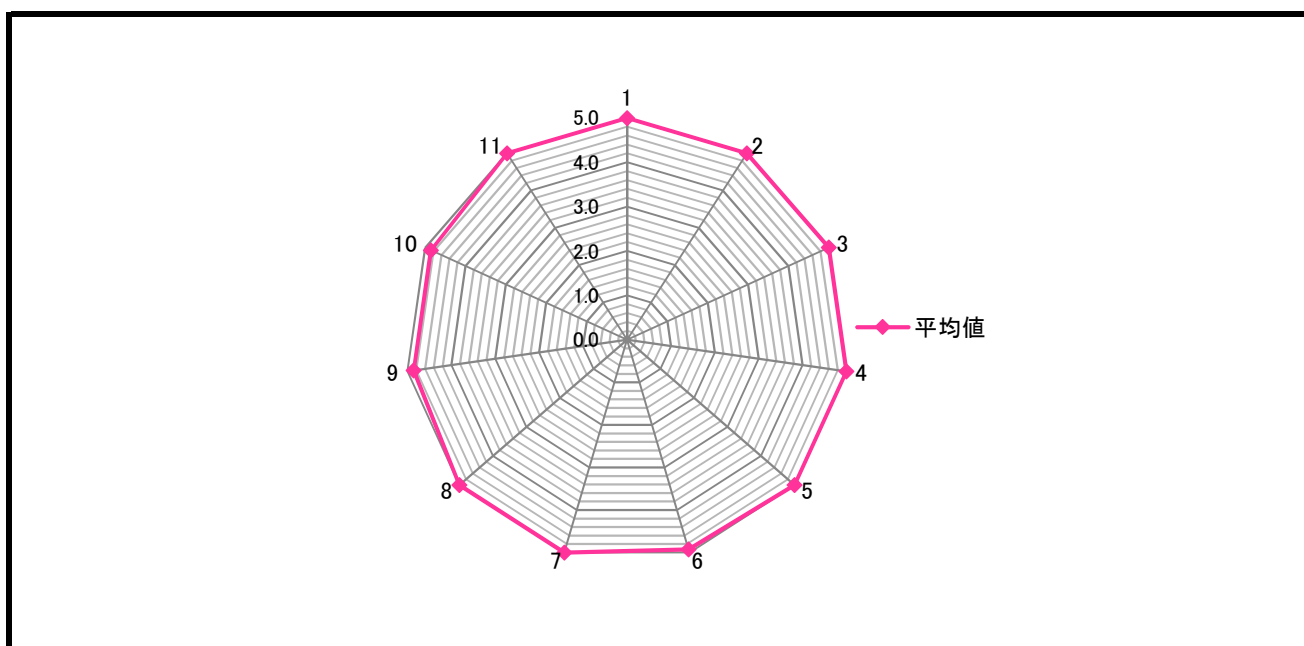
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 日下智志, 石坂広樹

回答者数 14 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は, この授業を適切に表現していた。	14					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14					5.0
	(4) 授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが, 実施されていた。	14					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は, 適切であった。	14					5.0
	(6) 授業の進む速さは, 適切であった。	13	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	14					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は, 適切であった。	14					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は, 適切であった。	13		1			4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	2				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると, よかったと思う。	14					5.0



教員のコメント

総じて高い評価を得た。自由記述で、来年度参考にすべきいくつかの指摘をいただいた。グループワークをもっと増やしてほしいという要望については、来年度必ず対応したい。例えば、Geogebraを使った教材開発で使用した資料を一つにまとめてほしいというコメントや、授業でPCを使うため、十分なコンセンートを準備してほしいという要望について、来年度必ず対応したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 数学教育協力研究

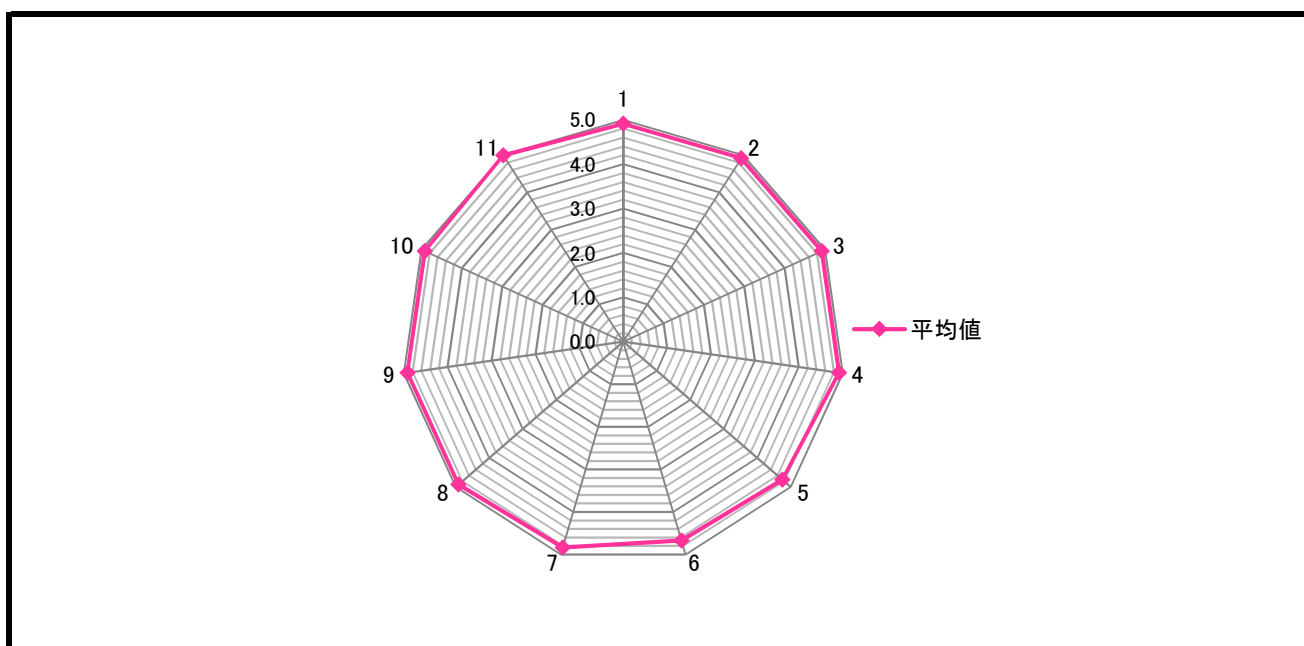
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 日下智志, 石坂広樹

回答者数 12 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	11	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	1	1			4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	10	1		1		4.7
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	11		1			4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12					5.0



教員のコメント

総じて高い評価を得た。自由記述で、来年度参考にすべきいくつかの指摘をいただいた。グループワークを増やしてほしいという要望については、授業構成を再検討してできる限り対応したい。また、発言する人がほとんど同じだったという意見もあった。発言する意思のない人に対して無理に発言させることはほとんどしなかったが、なるべく全員が少しでも発言できるように促していきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 数学教育協力授業研究

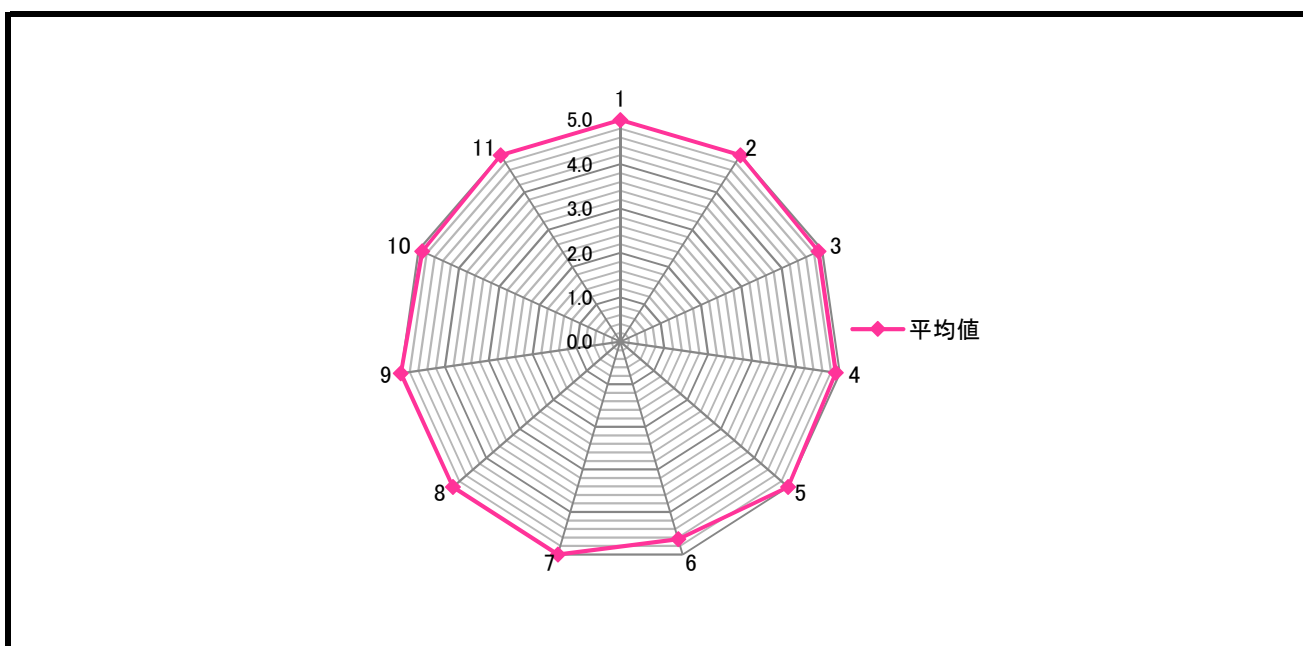
評価実施日 令和3年9月4日

担当教員名 日下智志, 坂井武司

回答者数 11 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9	1		1		4.6
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	11					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11					5.0



教員のコメント

総じて高い評価を得た。自由記述で、来年度参考にすべきいくつかの指摘をいただいた。説明が長いという指摘について、話し合いなどのグループ活動とのバランスを再考して対応したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 数学教育協力教材開発研究

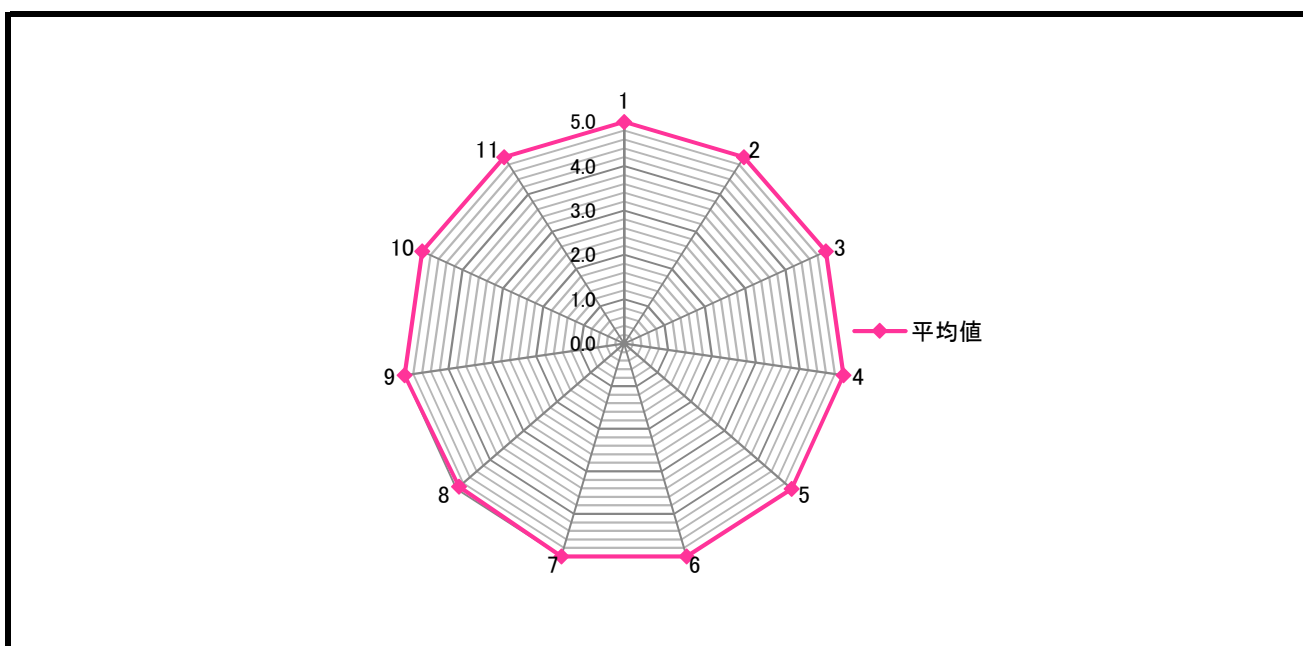
評価実施日 令和3年12月27日

担当教員名 日下智志, 赤井秀行

回答者数 14 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	14					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	14					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	14					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	14					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	14					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	13	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14					5.0



教員のコメント

総じて高い評価を得た。自由記述でも、大変有意義な講義だったというコメントを多く頂いた。役に立つ内容なのでもっと授業回数を増やしてほしいという意見も複数あった。来年度改善すべき指摘として、講義資料の改善に関するものがあった。来年度は、講義内容をさらに体系的に分かりやすくまとめた資料を作成したい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 国際教育理科内容論

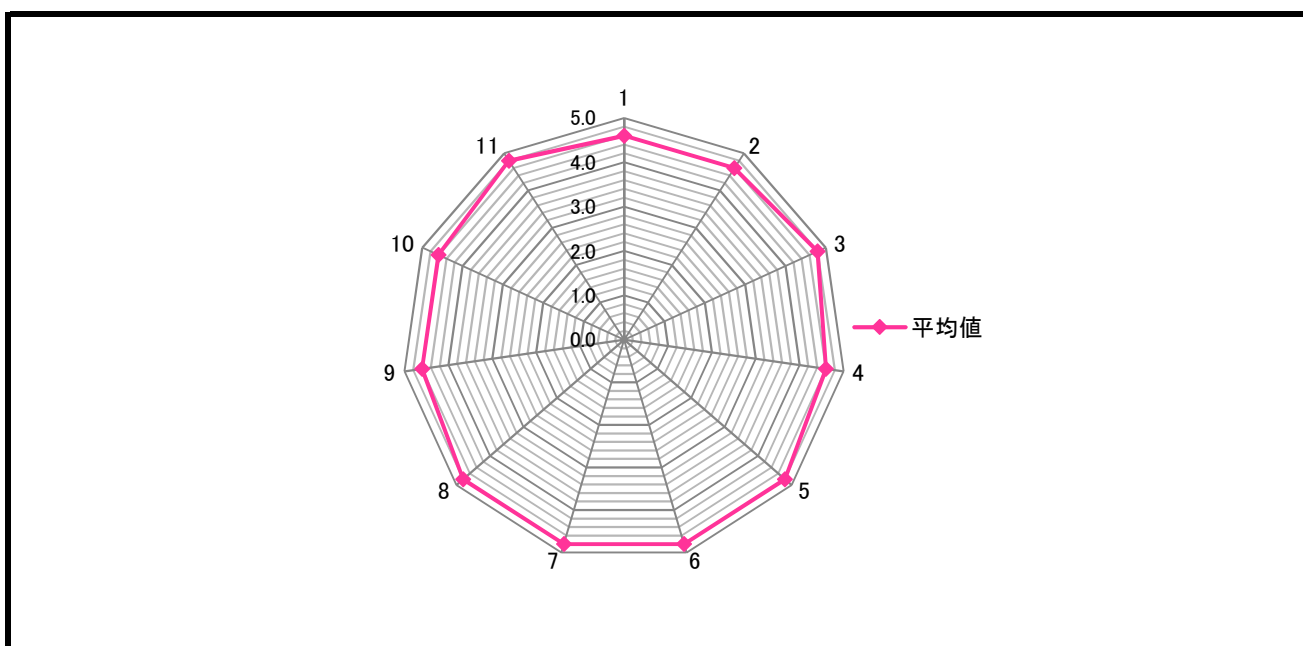
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 武田清, 寺島幸生

回答者数 5 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

化学の基礎的内容を含んだ教科書を輪読した。受講生は皆積極的に参加し、授業はスムーズに進んだ。授業後半では、講読した内容から各々トピックを選び、概念地図を描いて内容を整理した。整理した内容を元に、その部分を教授するための授業案を作成した。単に内容について講義するのでは無く、それを教えるための授業案作成まで行ったことで満足度は高くなった者と思われる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 理科教育協力授業研究

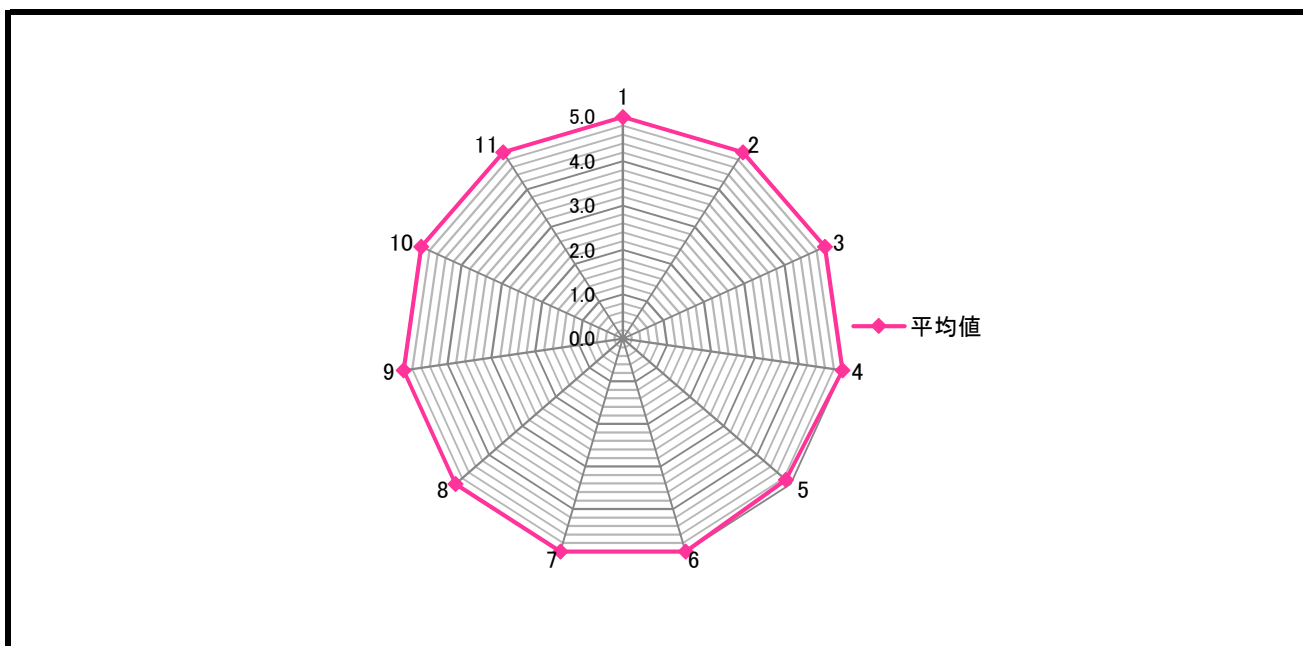
評価実施日 令和4年2月3日

担当教員名 寺島幸生, 武田清

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

受講生の学修能力および勉強意欲は共に高く、授業実践を含むアクティブラーニングを行ったことにより、主体的かつ対話的な学びが実現された。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 理科教育協力教材開発研究

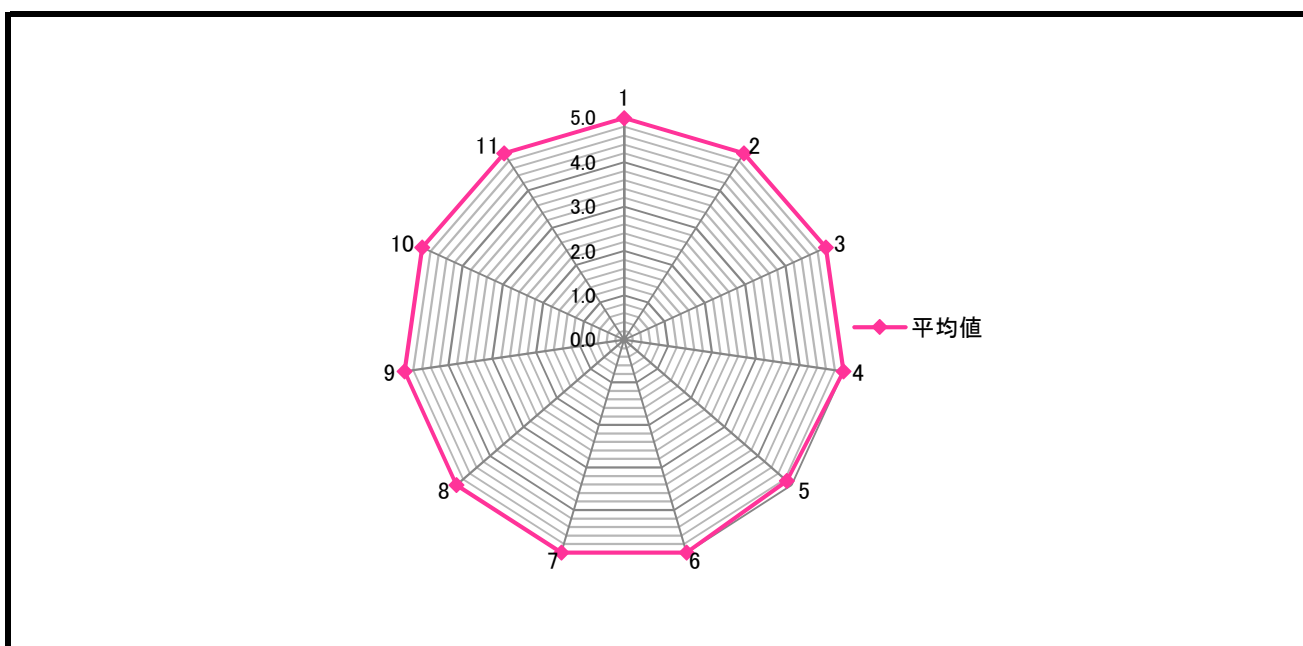
評価実施日 令和4年2月9日

担当教員名 武田清, 寺島幸生

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は, この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7					5.0
	(4) 授業では, シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが, 実施されていた。	7					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は, 適切であった。	6	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは, 適切であった。	7					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は, 適切であった。	7					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は, 適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると, よかったと思う。	7					5.0



教員のコメント

授業を計画し, 改善し, 実践するまでのプロセスをたどることで, 具体的な授業の作り方について学んだことが高い満足度につながっているものと思われる。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語文法研究

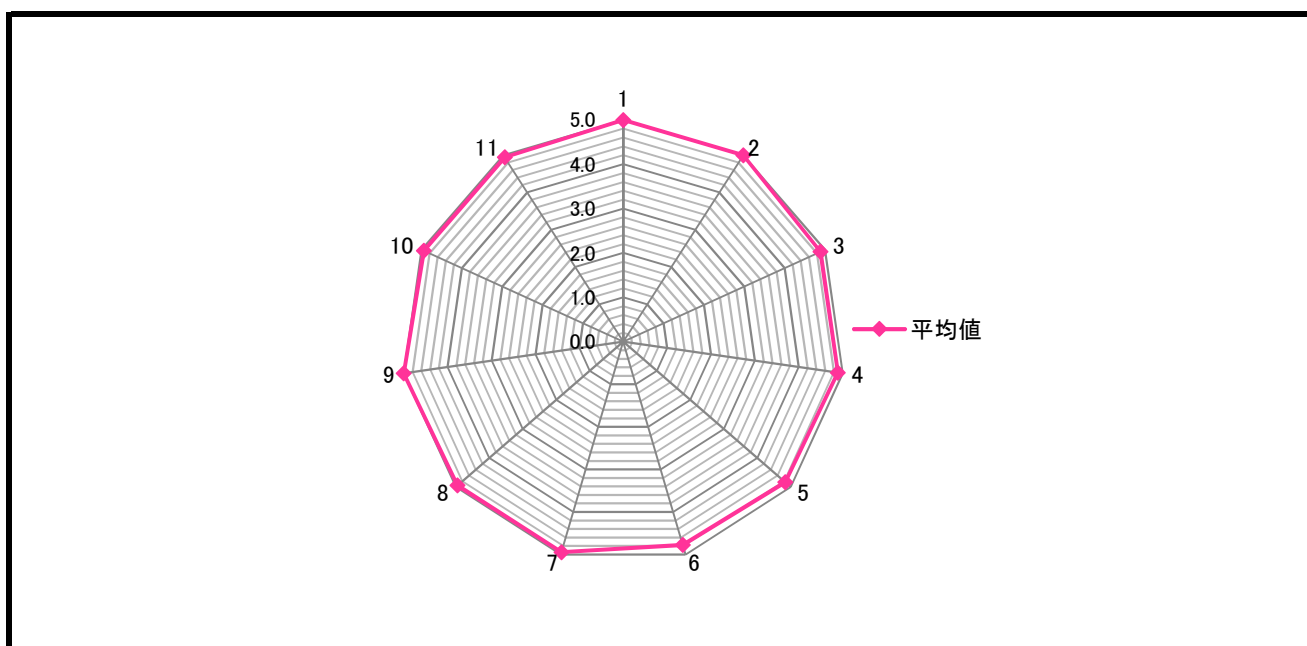
評価実施日 令和3年7月30日

担当教員名 田中大輝

回答者数 18 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	18					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	18					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	16	2				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	16	2				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	1	1			4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	14	4				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	17	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	17	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	18					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	17	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	17	1				4.9



教員のコメント

本授業では、日本語文法のうち、特に、日本語教師としての基礎的事項、および、日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な文法指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「グループワークや話し合いなどを設けて、受身の授業にならないように工夫されていた。」、「コロナの関係から、オンライン授業から始まりその後もハイブリッドの形で進みましたが、双方は配慮していただき、安心して参加することができました。」など、授業の方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「もう少し早く進んでもよかったのではないかと思います。」、「ある内容は前勉強したことがあるので、その部分は早く説明して欲しい、ほかの難しい内容はもっと時間をかけられると思います。」など、授業の進め方に関して検討を求める声も出ていた。今後に向けて改善に取り組みたい。(注：引用部は原文ママである。)

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語音声表現研究

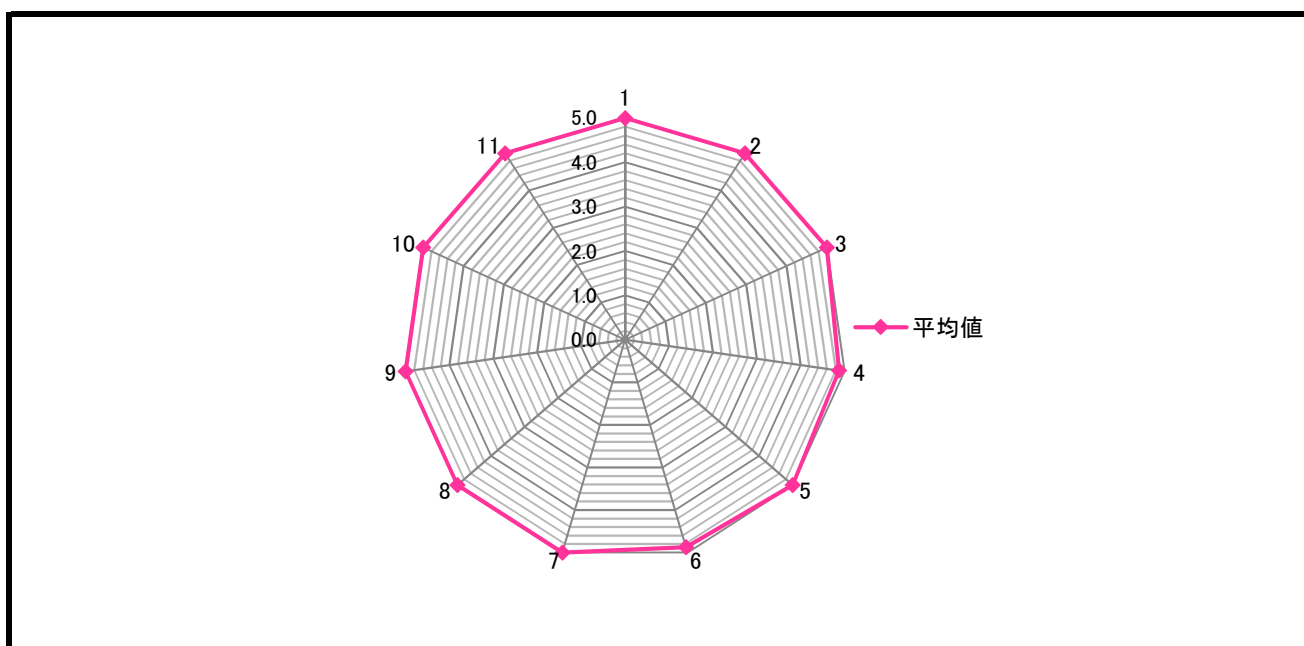
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 田中大輝

回答者数 16 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	16					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	16					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	14	2				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	16					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	14	2				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	16					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	16					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	16					5.0



教員のコメント

本授業では、日本語音声のうち、特に、日本語教師としての基礎的事項、および、日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な音声指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「対面とオンラインの両方ともうまく対応できて本当にすごいと思いました。一方的に教えるのではなく、クラス全員授業に参加していると思います。」「毎週設けてくださった「前回の振り返り」の際に、学生からのコメントや質問に対して先生が丁寧に回答してくださりました。そのため、自分の疑問が解消されるだけでなく、クラスメートの質問に対する回答から新たな視点やさらなる知識を得ることができました。専門的な内容をわかりやすくご教授いただきましてありがとうございました。」など、受講者の理解を促すための担当教員の工夫を高く評価する声が多く見られた。一方で、「もし先生のパソコンはまだHDDでしたら、SSDに更新したら授業がもっとスムーズにいけるはずです。」など、授業に使用する機器について検討を求める声も出ていた。今後に向けて改善に取り組みたい。(注：引用部は原文ママである。)

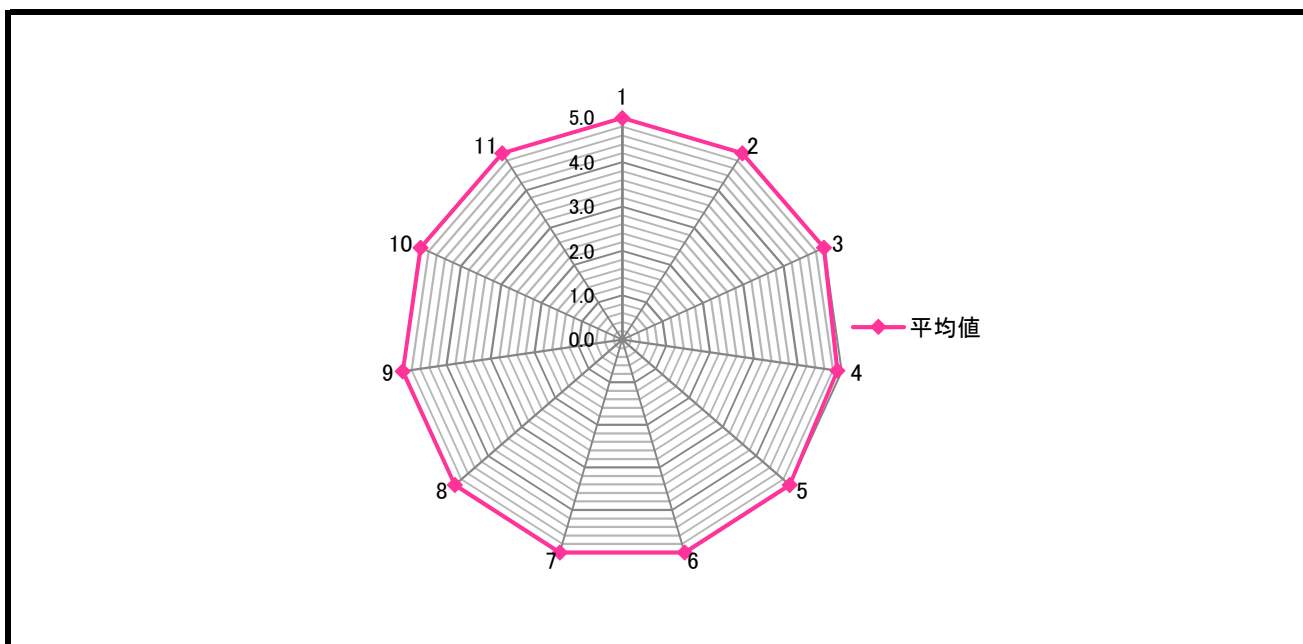
令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語語彙論
 評価実施日 令和4年2月7日
 担当教員名 田中大輝

回答者数 10 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	10					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	10					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



教員のコメント

本授業では、日本語語彙のうち、特に、日本語教師としての基礎的事項、および、日本語学習者が誤りやすい項目について理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「発表やそのフィードバック、教員からの講評などアクティブラーニングが充実していた」、「皆さんの発表や振り返りにより、異なる考え方や研究方法などを知っていただき、とてもいい刺激だと存じております。考えさせる授業だと思います。良かったです！」など、授業の方法を高く評価する声が多く見られた。

今年度を担当した授業は、いずれも、日本に来ることのできない留学生等が多く参加していたため、対面授業期間中であっても、授業をMicrosoft Teamsで配信するハイブリッド型を主な授業形態とした。また、知識の一方的な伝達にならないよう、グループディスカッションやグループ発表、学生たち自身による振り返りなどの活動を多く取り入れた。これらが学生の理解の深化に役立ったようで安堵している。今後も学生の声を取り入れ、より充実した授業にできるよう努めたい。(注：引用部は原文ママである。)

令和3年度 結果報告書

授業科目名 言語習得・発達論

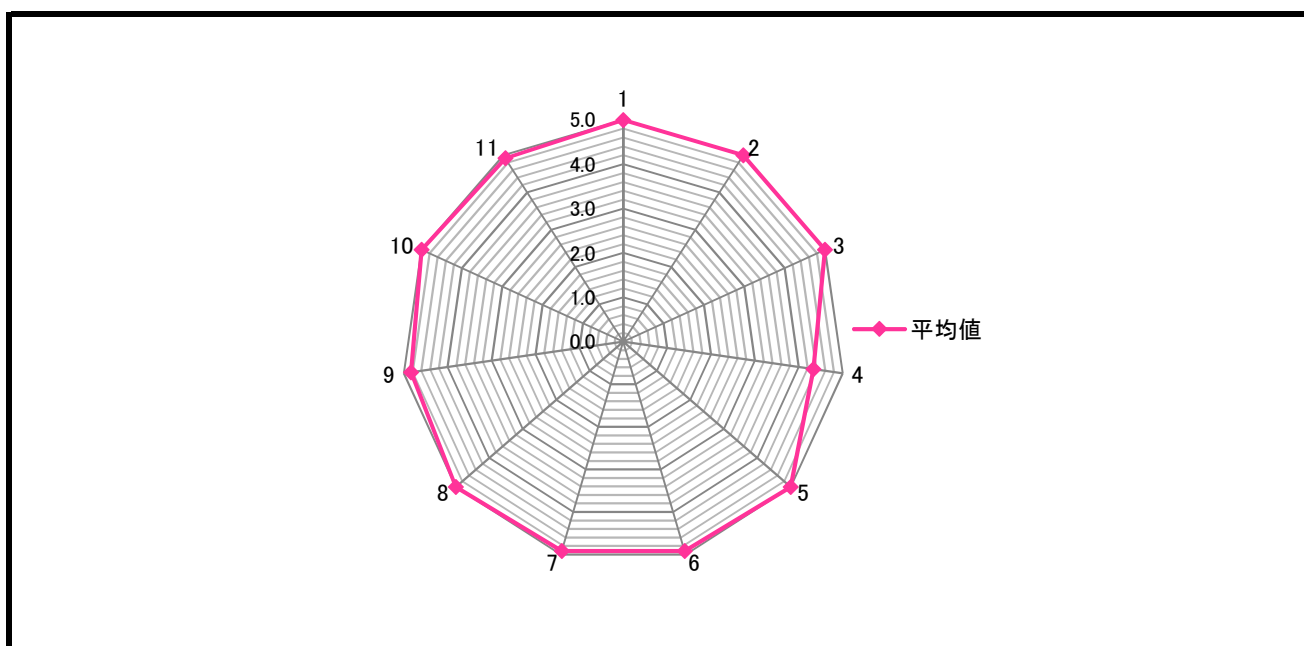
評価実施日 令和3年7月29日

担当教員名 宮部真由美

回答者数 12 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	12					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	7	3	1	1		4.3
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	12					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	11	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	11	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	12					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11		1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	1				4.9



教員のコメント

この授業は第二言語習得について、理論を中心に、具体的な教え方について、講義形式で授業を行なった。また、第二言語習得研究に関する論文を講読することも行なった。留学生と共修の授業であるため、日本語の学習者でもある留学生と一緒に学ぶことで、お互いに気づきがあったのではないかとと思われる。今回の評価を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、受講者自身も達成感を感じているものと思われる。しかし、「授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。」という項目は他と比べると低い評価となっており、来年度は改善したいと思う。そして、今後も学習者が主体的に取り組み、この分野が目指す人材の育成につながるよう授業を行ってきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語教育学研究

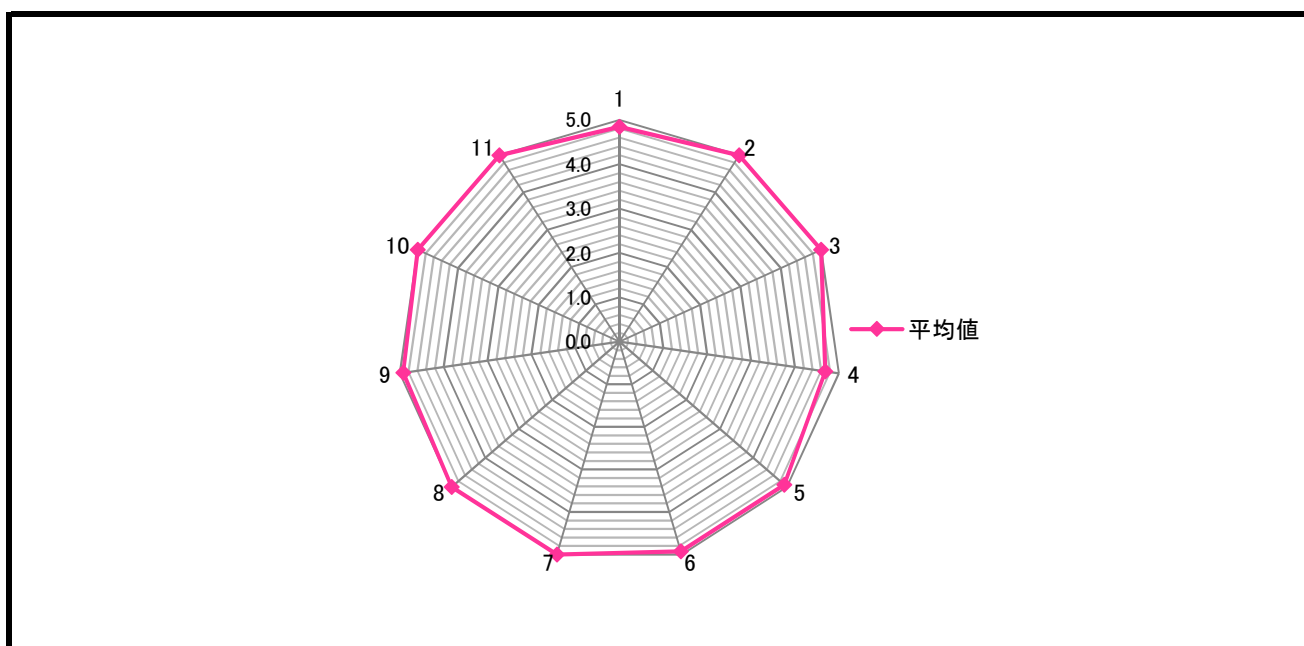
評価実施日 令和3年7月27日

担当教員名 宮部真由美

回答者数 13 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	2				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	13					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11		2			4.7
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	12	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	13					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	13					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13					5.0



教員のコメント

この授業では、日本語教育について、日本語教育の歴史、日本語学習者の現状、日本語教師の現状、日本語教育を行なう上で教師が知っておくべき知識や教え方についての概論的な位置づけの授業である。授業では受講者が具体的にイメージできるような具体例をあげながら、教科書を用いた講義形式の授業を行った。毎回、課題を課しており、どの受講者も真剣に取り組んでおり、次の授業でのその課題に対するフィードバックを行なった。今回の評価を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後も学習者が主体的に取り組む、この分野が目指す人材の育成につながるよう授業を行っていきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語教育法研究(日本語教育観察実習)

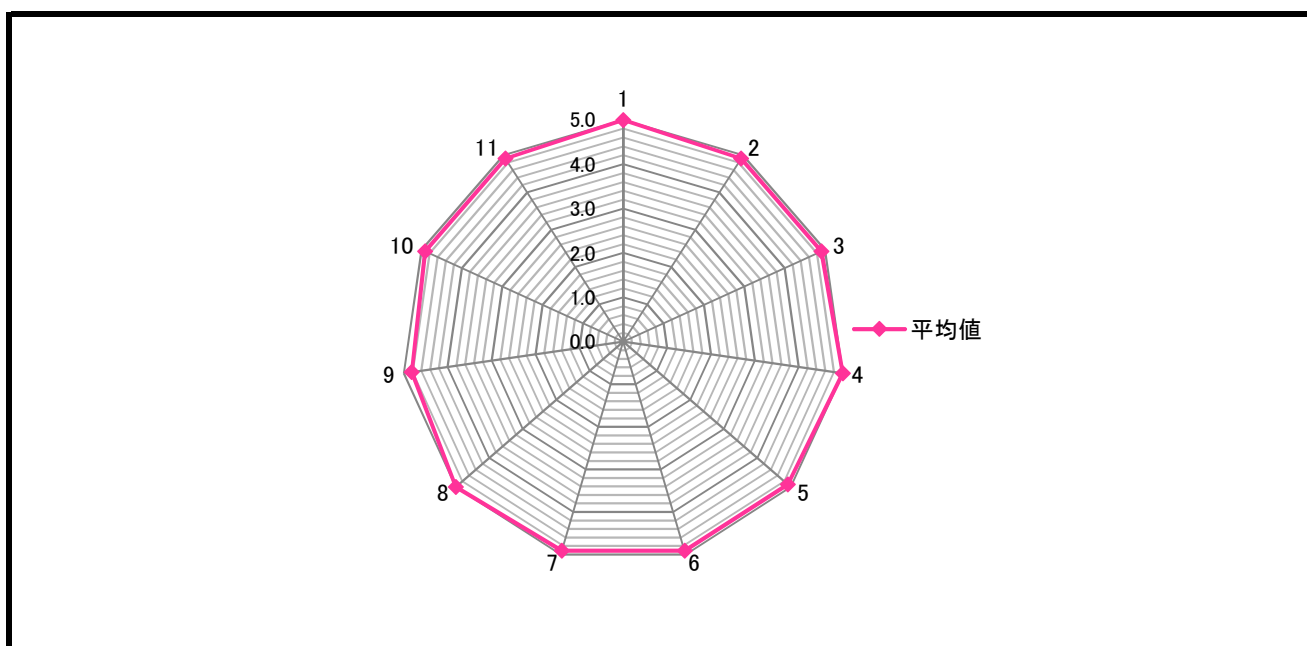
評価実施日 令和3年7月29日

担当教員名 廣田知子

回答者数 11 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	11					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	10	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	10	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	11					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	1				4.9



教員のコメント

自由記述によると、教科書分析の時間が長かったという意見もあったが、見学前の調整時間として必要であったのと、やはり見学するためには、教師の使っている教科書をよく知っていることが大切であることを強調しておきたかった。来年度は受講生の人数を見ながら、より効率的な教科書分析を行えるよう工夫したい。また教科書分析以外の要素も取り入れられるよう授業内容を見直したい。授業見学レポートの記載事項が多すぎるという意見もあった。見学回数により、見学の観点を絞って書いてもらうという方法もあるので、来年度、そういった試みができるようなら、改善したいと考えている。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語教育学演習

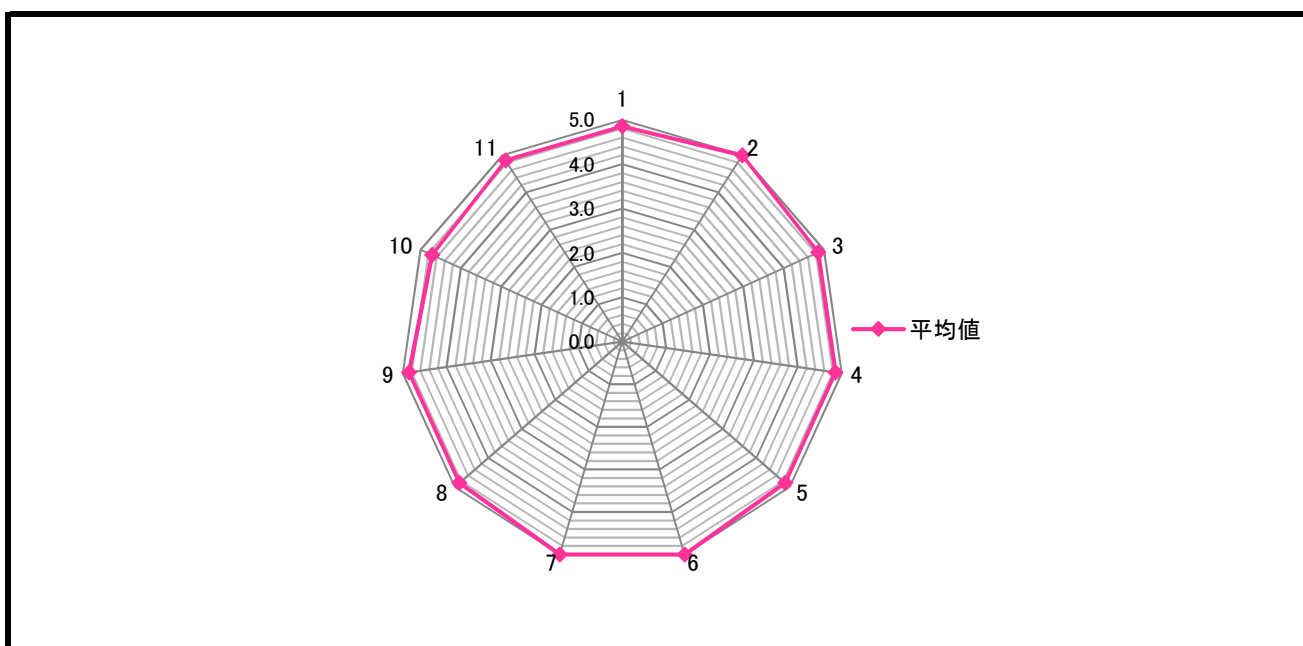
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 宮部真由美

回答者数 7 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

この授業では前期に学習してきた日本語に関する知識を具体的な事例について分析することで、さらなる日本語に対する分析力を身につけることを目指す授業である。受講生はあらかじめ予習をしてきたうえで、グループでディスカッションを行ない、その内容を全体で共有しながら、日本語学の知識の確認や分析の方法などを学んだ。どの学生も主体的に取り組み、日本語に対する分析方法を身につけたと思う。また、今回の評価を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、受講者自身も達成感を感じているものと思われる。今後も学習者が主体的に取り組み、この分野が目指す人材の育成につながるよう授業を行っていきたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語教育法演習(日本語教育グループ実習)

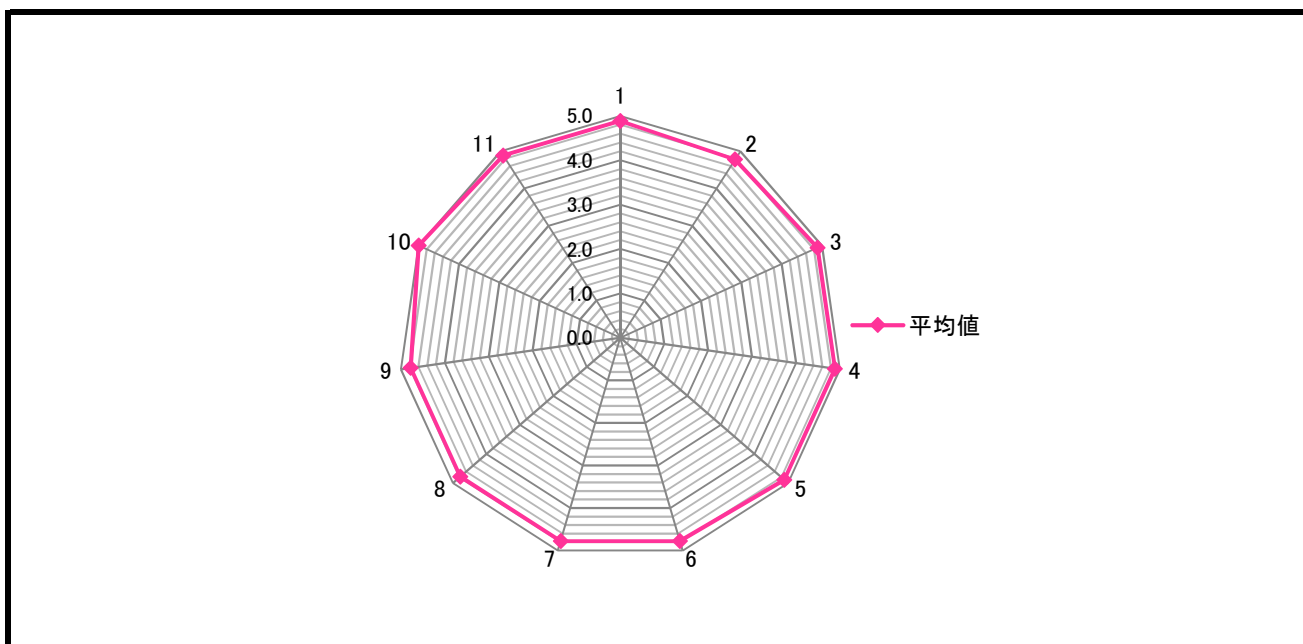
評価実施日 令和4年2月3日

担当教員名 廣田知子

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8		1			4.8
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	7	2				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8		1			4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8		1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



教員のコメント

自由記述によると、教案の書き方を学びたかったというのがあるが、それは、シラバスにも入れていて、毎年導入している。もっと詳しく知りたかったという意味であるかもしれないが、授業で何もかも教えつくすというのは、時間的にも無理なので、教師の提示した例を参考に、自らの学びを深めてほしい。教授方法に関しては、あまり具体的に講義できなかったもので、前期の「日本語教育法研究」の内容とのバランスも考えながら、適宜入れていけるようにしたい。

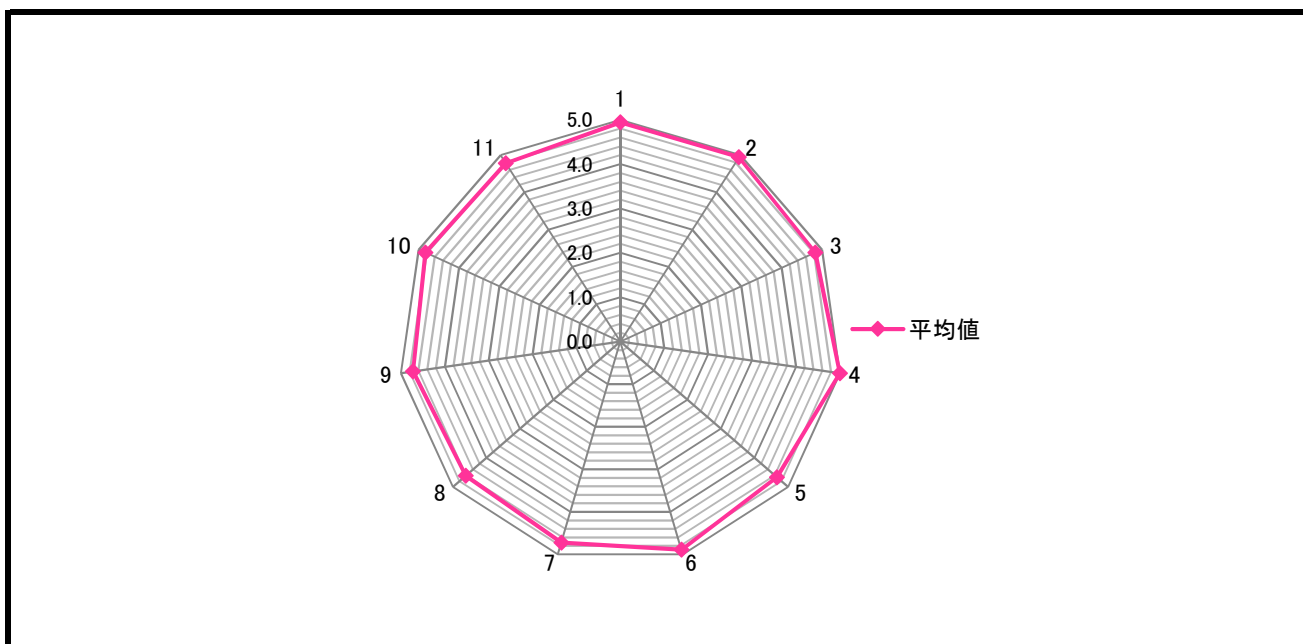
令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本文化研究
 評価実施日 令和3年7月27日
 担当教員名 廣田知子

回答者数 18 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	17	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	15	3				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	18					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	6				4.7
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	16	2				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	13	5				4.7
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	13	4		1		4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	5				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	1	1			4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	4				4.8



教員のコメント

「日本文化研究」という授業では、文化とは何かということを経験者としてではなく、日本語教師養成プログラムの一環であるため、日本語教師としてどういった文化を日本語学習者に伝えたいかという視点で考えてもらった。受講生のバックグラウンドにかなりの差があるため、自由記述にあるように経験者の負担が多くなってしまったという課題は残る。来年度の新入生にもかなり経験の差があることが予想されるが、グループ分けの時に工夫して何とか経験者の負担が少なくなるように考えたいと思う。模擬授業が60分というのは、長く感じたようなので、45分ぐらいの単位にして、ディスカッション時間を長くとるようにしたほうが学びとしては深くなるかもしれない。来年度の授業では、そここのところも考慮に入れたい。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語 I

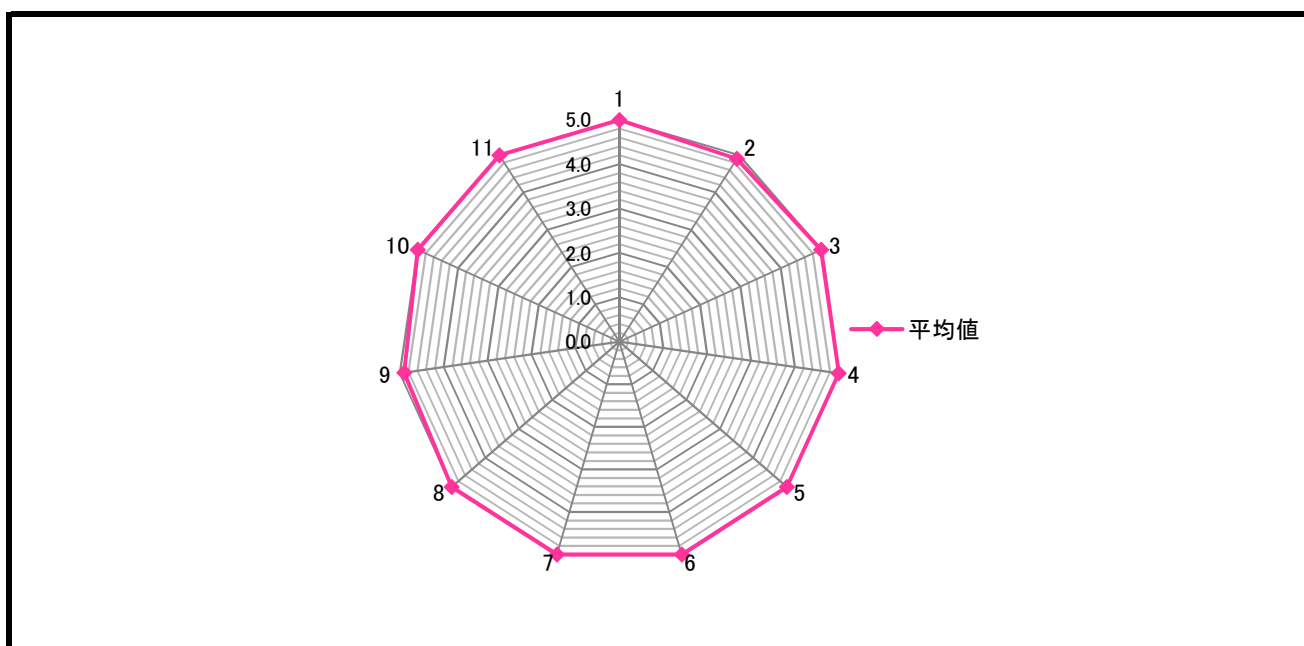
評価実施日 令和3年7月29日

担当教員名 田中大輝

回答者数 10 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	10					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	10					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	10					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



教員のコメント

本授業では、本学で学ぶ留学生たちに、「グループで互いに協力し合える能力」、「データの収集やまとめを適切に行える能力」、「自分たちの考えを支持する証拠を探し出せる能力」、「自分たちの考えを日本語で適切に表現できる能力」等を身につけさせることを目的として、演習発表形式のスタイルを採った。参加者は留学生19名（大学院生12名，研究生の聴講7名）であった。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「日本語プレゼンテーションやスライドの作り方を学びできてよかったと思います。」、「インタラクティブ授業だと思います！振り返りもわかりやすくまとめてくださったと思います！」など、授業の内容や方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「時々音声が悪い場合もあります。」という声も出ていた。本授業は、日本に来ることのできない留学生が多く参加していたため、対面授業期間中であっても、授業をMicrosoft Teamsで配信するハイブリッド型を主な授業形態としていたのであるが、今後は、本学や受講者個々の通信環境にさらに配慮し、オンラインの参加者が不利益を被ることのないよう、授業の内容・方法について改善していきたい。（注：引用部は原文ママである。）

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語Ⅱ

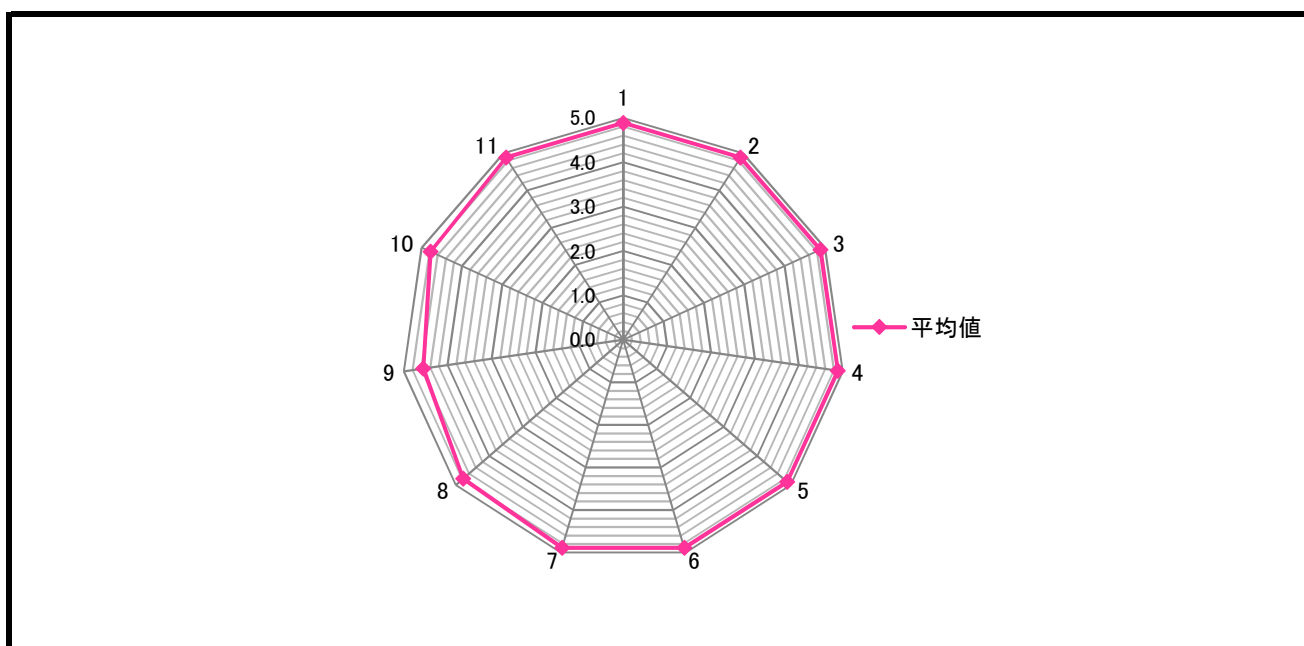
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 廣田知子

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8		1			4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8		1			4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



教員のコメント

自由記述のところに「優しい」と「厳しい」と二極化された教師に対するコメントがあったのが注目される。この原因は、もともとこのクラスは、N1レベルを対象として開講予定であったが、N2レベルの心理領域コースの留学生がどうしても履修したいということで、受講を許可したことにあると考えられる。すなわち、授業の目標はN1レベルの高いところに置き、毎回の課題も相当それに見合ったものを課していたが、N2レベルの学生にとっては、それが少々重荷となった可能性が考えられる。重荷となっている様子は、課題締め切りになっても未提出の学生が数名いたことだろうか。そういった学生のフォローとして、個人的に締め切りを過ぎても、必ず課題提出を促した。前半は、提出された全員の要約文をフィードバックしていくことで成り立っている授業なので、課題を提出しなければこの授業に出席している価値がなくなってしまうからである。来年度もN1レベルの開講を目指しているため、今年度と同様、もしN2レベルの学生からの受講希望があった場合は、N2レベルの学生を対象とした日本語補講のクラスを受講することを促したいと考えている。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本語Ⅲ

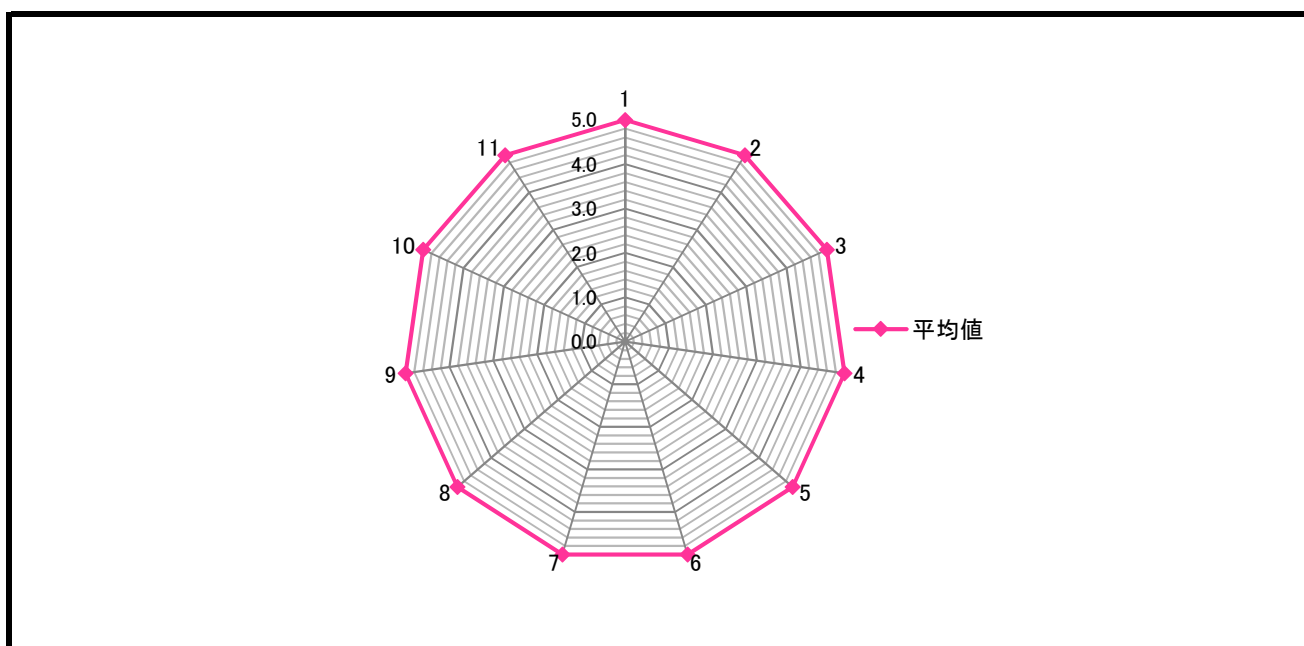
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 田中大輝

回答者数 5 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	5					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

本授業では、大学で学ぶ留学生にとっての基礎的な能力である、「教員に対するメールで、依頼・謝罪・誘い・お礼などを適切に伝達できる力」および「自分の経験や考えをスピーチとして適切に表現できる力」などを養うことを目的とした。参加者は留学生9名（大学院生1名，研究生6名，学部生（特別聴講学生）2名）であった。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「有益な知識をたくさん得て嬉しいです。学生からの質問に対して、一個ずつ真剣なご指導をくださりまして、勉強にすごく役立つと感じています。」、「少人数のクラスなので、インタラクティブな授業だと思って、オンラインでも参加感が強かったと思います。教室の音声などもはっきりとしていて、聞きやすいと感じています。」など、授業の内容や方法を高く評価する声が多く見られた。本授業は、日本に来ることのできない留学生が多く参加していたため、対面授業期間中であっても、授業をMicrosoft Teamsで配信するハイブリッド型を主な授業形態としていた。対面での参加者とオンラインでの参加者が同じように学べるよう工夫することは非常に難しかったのであるが、引き続き、より充実した授業にできるよう努めたい。（注：引用部は原文ママである。）

令和3年度 結果報告書

授業科目名 日本事情・日本文化

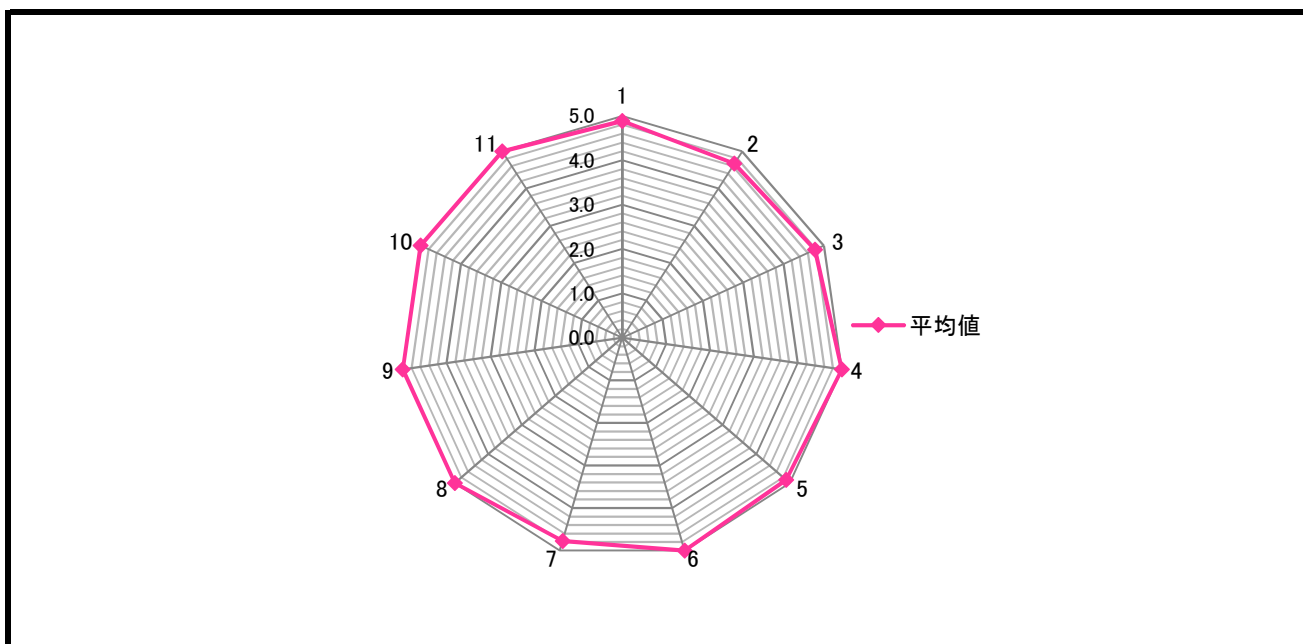
評価実施日 令和4年2月3日

担当教員名 廣田知子

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3				4.7
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8		1			4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



教員のコメント

自由記述によると、自らの発表を楽しんで行い、またクラスメートの発表も楽しんで聞いていた様子がかがわれ、まずは、この授業の目的は達成できたのではないかとと思われる。「日本事情・日本文化」というタイトルの授業では、幅広くいろいろなことを試みることができるが、まずは、日本の文化に興味を持って親んでもらい、また深く自分で調べて発表できるよう知識も増やしてもらいたいと考えている。また、日本の文化のみならず、他者の国の文化の発表を聞くことにより、異文化理解につながることも期待したい。来年度もより深く文化追求ができるような内容を用意したい。「日本人の参加数をもっとあればよい」というコメントもあったが、今年度はコンスタントに出ていた日本人学生は1名だったので、バランス的には留学生が大多数であった。もともと留学生向けのクラスだが、もう少し日本人の履修者が増えることを期待している。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 異文化コミュニケーション研究

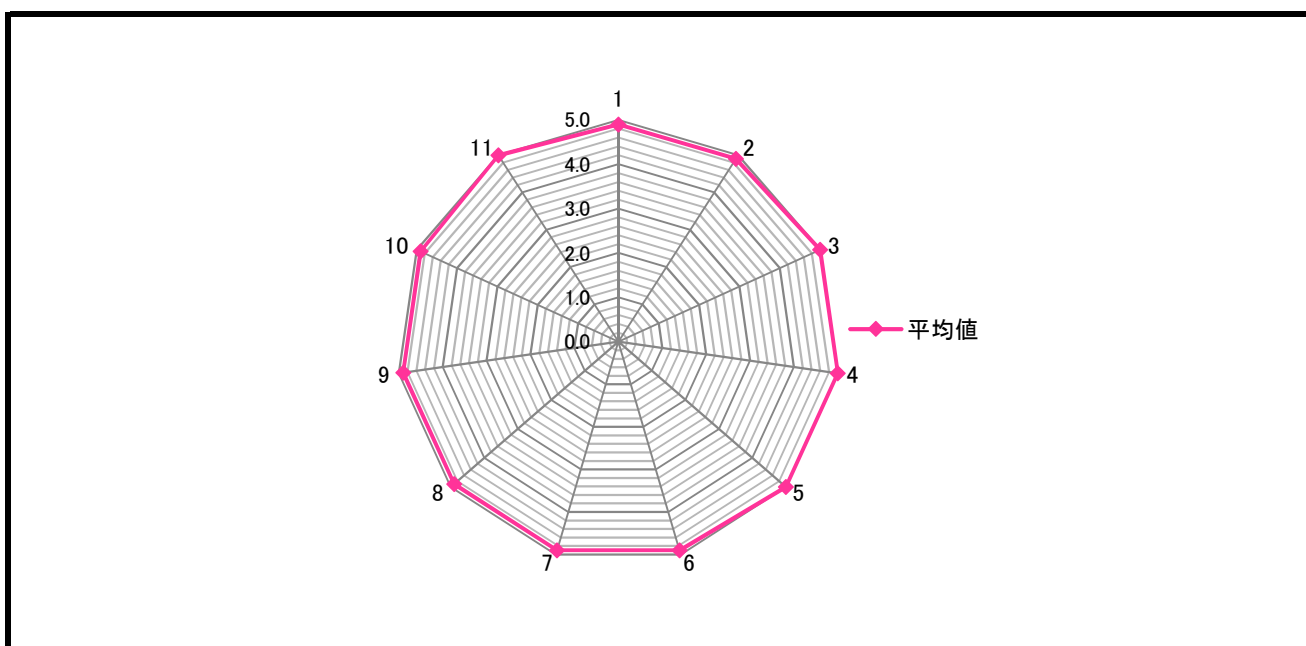
評価実施日 令和3年7月28日

担当教員名 眞野美穂

回答者数 10 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	10					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	10					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	10					5.0
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	9	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1				4.9
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1				4.9
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



教員のコメント

回答数は少ないものの、各項目4もしくは5の評価であり、受講生に合わせて、扱う題材などを調整した成果と判断した。自由記述を見ても、グループディスカッションを取り入れたことが、まさに異文化としての他者の意見を理解する場として、そして自分を内省する場として機能していたものとする。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 言語コミュニケーション演習

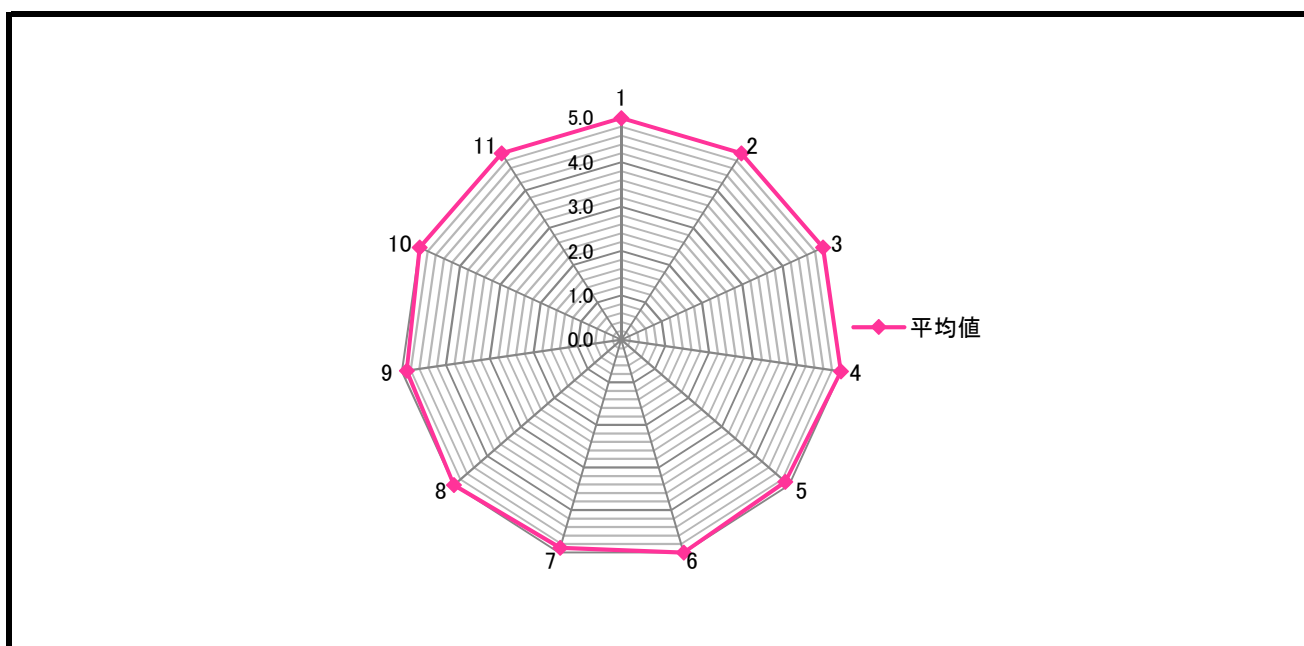
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 眞野美穂

回答者数 9 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	9					5.0
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	9					5.0
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	9					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



教員のコメント

回答者数は少ないものの、各項目で高い評価を得られたことに安心することができた。教科書を昨年度とは異なるものにしたことが、どのように影響するか、不安な部分もあったが、特にその問題は生じておらず、自由記述からも語用論について、参加者が主体的に学んだ様子が読み取れた。

令和3年度 結果報告書

授業科目名 ライティング・スキルⅡ

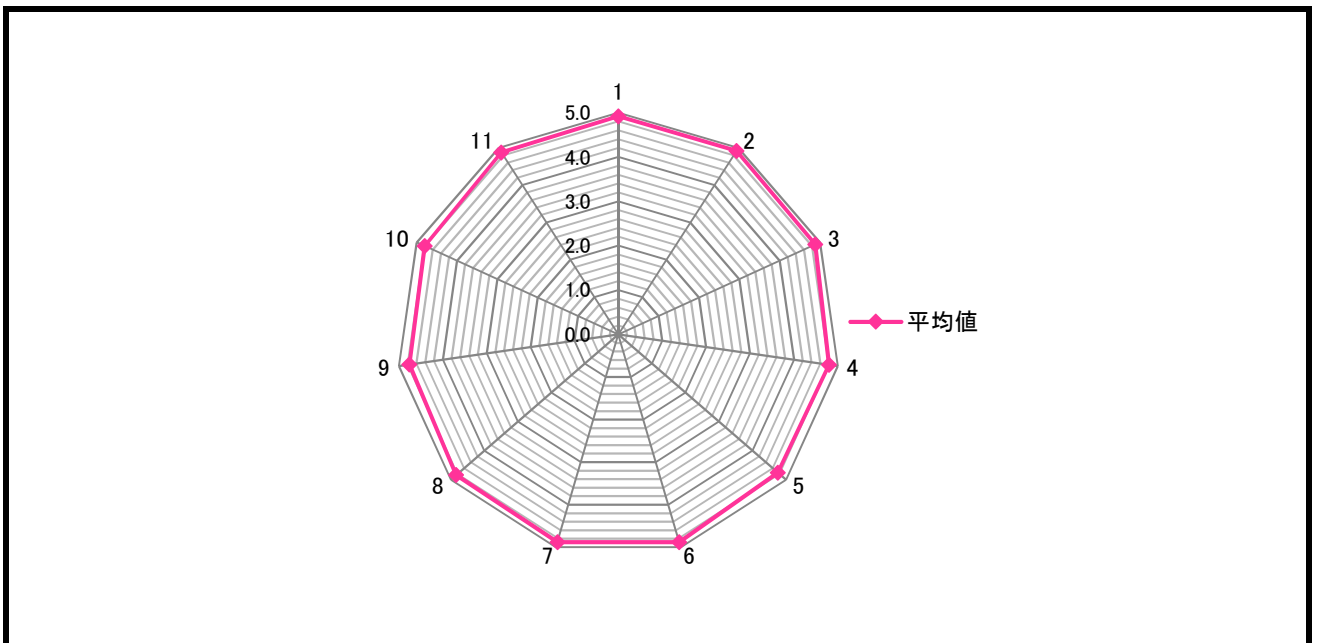
評価実施日 令和4年2月2日

担当教員名 鎌田スザン・リン

回答者数 25 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	2				4.9
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	23	2				4.9
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	22	3				4.9
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	20	5				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	2	2			4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	22	3				4.9
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	22	3				4.9
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	22	2	1			4.8
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	20	4	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	2		1		4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	1	1			4.9



教員のコメント

The students seem to be satisfied with how the class is conducted, so I will continue to conduct my classes in a student-centered manner.

令和3年度 結果報告書

授業科目名 プレゼンテーション・スキル I

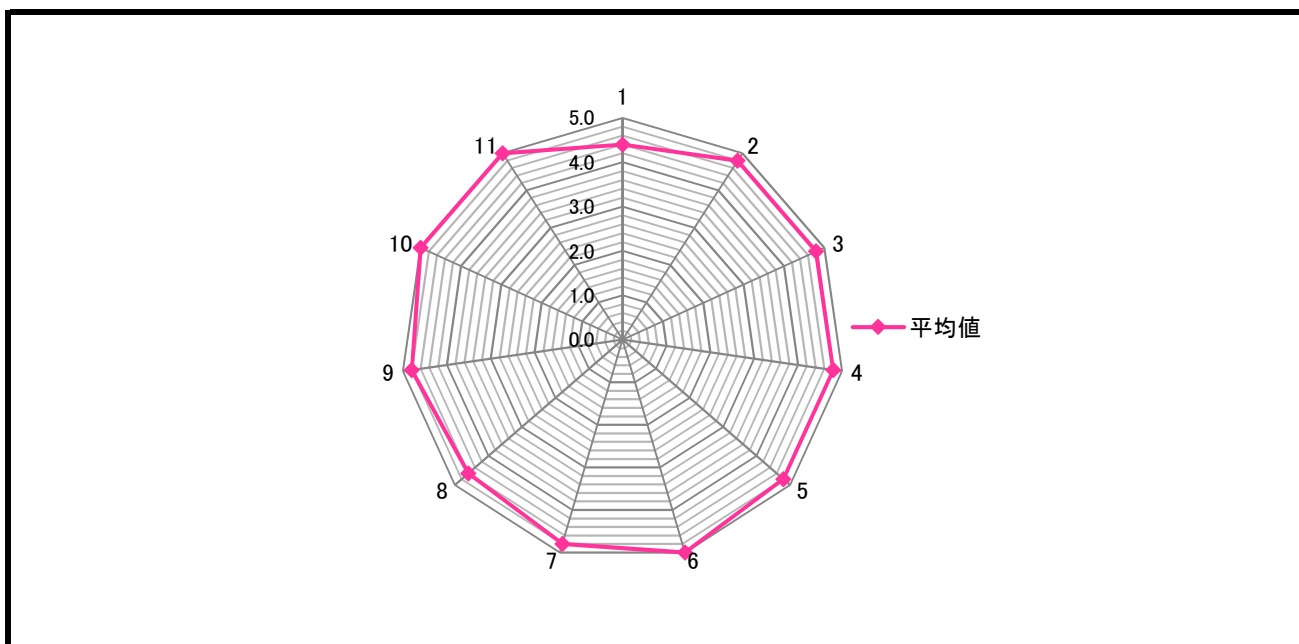
評価実施日 令和3年7月26日

担当教員名 ジェラードマーシェリ

回答者数 5 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	1			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

I noticed that some students may have felt that the course outline could have been more accurate. I will try to improve this in the future, although it is difficult, because some students take Presentation skills 1, then 2. Others take Presentation skills 2 first. Likewise, some students take both classes while others take only one or the other. What I can do as an instructor is try to be as transparent (clear) as possible.

令和3年度 結果報告書

授業科目名 プレゼンテーション・スキルⅡ

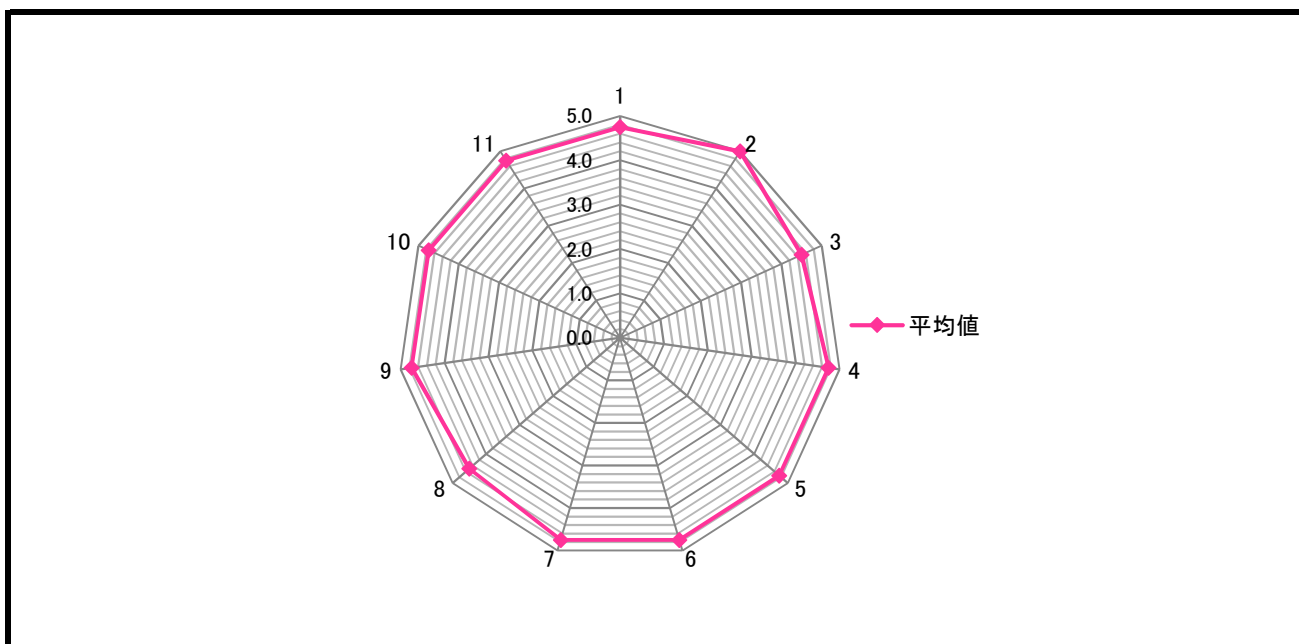
評価実施日 令和4年2月8日

担当教員名 ジェラードマーシェリ

回答者数 4 人

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N/A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 各コース・領域・分野の目指す人材の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
	(4) 授業では、シラバスに示されたアクティブ・ラーニングが、実施されていた。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(5) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(7) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(8) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(9) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(10) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(11) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

The number of respondents was few, so I will try to encourage students to complete the questionnaire in the future.